

令和6年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
専門職業人材の最新技能アップデートプログラムの開発
一般用医薬品販売資格（登録販売者）に関するアップデートプログラム事業

成果報告書

はじめに

近年のドラッグストアチェーン業界の躍進は目を見張るところがあり、業界の売り上げも右肩上がりが続いています。

また、ドラッグストアチェーンに勤務するには、「登録販売者」の資格取得が必須で、その資格取得に必要な時間は300時間といわれています。

登録販売者受験者数と合格者数は、直近の3年間を見ますと2020年度の受験者数は52,959人、合格者数21,953人（合格率：41.5%）、2021年度の受験者数は、61,070人、合格者数30,082人（合格率：49.3%）、2022年度の受験者数は55,606人、合格者数24,707人（合格率：44.4%）と推移しており、毎年50,000人以上の方が受験しています。

本事業は、令和5年度から文部科学省委託事業として、教育機関である専修学校はじめ、企業・団体、行政が連携し取り組んでいく「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」で、ドラッグストアチェーン業界では必須な資格「登録販売者」の資格取得をはじめ、資格取得後のステップアップや管理者養成向けの補助教材ツールのアプリ開発を行う事業です。

「登録販売者」については、一番つまづきやすいと言われている消化器系や神経などをはじめ、薬の作用、接客技術といった部分に焦点をあてて理解に掛ける時間数の軽減につなげ、タイムパフォーマンスによる理解度向上と知識の定着効果を目指します。

資格取得後のステップアップや管理者養成は、コミュニケーションや法改正、その最新情報の提供により、日々、好きな時間でアップデートしステップアップができることにより、日々の業務に対する人的負担を軽減することが可能となり、人材不足解消につなげる効果を目指す。

効率的、かつ効果的なアプリ開発をすることにより、ドラッグストアチェーン業界で勤務している方々をはじめ、将来、この業界に進む方々にとって使い勝手の良い補助教材アプリ開発を目指します。

本年度の成果は、改善した動画と過去5年間の過去問がつながった〇×形式やe-learningシステムを組み込んだ補助教材アプリを開発し、実証実験を行いました。様々な課題は出てきましたが、出てきた課題はしっかりと改善を図り、多くの方々に役立つものを作っていきたいと考えています。

最後に、本事業に多大なるご協力をいただいた関係者の方々には深く感謝するとともに、この成果が関係者の方々にとって一助となれば幸いです。

令和7年2月

事業責任者

学校法人摺河学園姫路ハーベスト医療福祉専門学校

法人本部本部長 西川 一

目次 CONTENTS

はじめに

第1章 令和6年度事業概要

1. 事業の趣旨・目的	3
2. 必要な背景	3
3. 開発する講座の概要	5
(1) 初級編（登録販売者資格取得向け）	5
(2) ステップアップ編	6
(3) 補助教材アプリシステム概要	7
4. 構成機関・構成員等	8
(1) 教育機関と役割・協力事項	8
(2) 企業・団体と役割・協力事項	8
(3) 行政機関と役割・協力事項	9
(4) 実施体制イメージと各会議体の役割	10
(5) 各会議体の目的と役割、および構成委員	10
①企画推進委員会	10
②プログラム開発 WG	12
③課題分析 WG	13
④実証実験 WG	14
5. 令和6年度取組み概要	16
(1) 補助教材アプリ開発【初級編（登録販売者資格取得向け）】	16
①動画修正	16
②動画連携過去問○×形式	17
③e-ラーニングシステム概要	18
(2) 補助教材アプリ開発【ステップアップ編】	18
(3) シラバス・コマシラバス【初級編（登録販売者資格取得者向け）】	19
(4) 実証実験概要	20
6. 会議実績	21

第2章 令和6年度活動詳細

1. 補助教材アプリ開発	27
(1) 令和5年度の動画修正の特徴部分を抜粋	27
①動画修正	27
②動画連携過去問○×形式	28
③e-ラーニングシステム概要	31

（２）補助教材アプリ開発【ステップアップ編】	3 1
（３）補助教材アプリ開発【管理者画面】	3 3
（４）受講者仕様書	3 4
（５）管理者仕様書	4 7
2. 実証実験	5 4
（１）実証実験	5 4
（２）実証授業風景およびアンケート	5 4
①実証授業風景（姫路ハーベスト医療福祉専門学校）	5 4
②アンケート結果	5 5
③実証授業風景（北日本医療福祉専門学校）	6 2
④アンケート結果	6 2
⑤アンケート結果（２校合算）	6 9
⑥講師アンケート	7 5

第３章 令和６年度総括と次年度の方向性について

1. 補助教材アプリ開発	7 9
2. 実証実験	7 9
（１）実証実験	7 9
（２）アンケート結果からの考察	7 9
3. 令和６年度総括	8 0
4. 次年度の方向性	8 0

第４章 会議録

会議録	8 3
-----	-----

第1章 令和6年度活動概要

第1章 令和6年度活動概要

1. 事業の趣旨・目的

ドラッグストア等で働くためには、「登録販売者」の資格取得が必要であり、その学習時間はおおむね300時間程度必要といわれている。また、厚生労働省は、登録販売者として働き続けるには、販売者の質の向上と医薬品の適正使用のための知識の吸収と日々進歩する医薬品に関する知識の吸収による安全対策の強化を習得していく必要があるとして、毎年12時間以上の定期的・継続的に外部研修（継続研修）を受講しなければならないとして義務化している。さらに、管理職には、その心構えとガバナンス等の知識を求められている。

本事業では、「登録販売者」の資格取得に掛かる時間と外部研修（継続研修）内容の理解向上、さらには、ドラッグストア等の店舗管理を行う管理職や管理職有望者に対して、効率的かつ効果的な教育プログラムと補助教材ツール（アプリ）開発を作ることを目的とする。補助教材ツール（アプリ）開発は、一番躓きやすいと言われている消化器系や神経をはじめ、薬の作用、接客技術といった部分に焦点をあてて理解に掛ける時間数の軽減につなげる。

このように、資格取得に掛ける時間や資格取得後のステップアップや管理者養成のタイムパフォーマンスを上げ、日々の業務に対する人的負担を軽減することが可能となり、人材不足解消につなげる効果も見込まれる。

2. 必要な背景

【ドラッグストアで働くには】

ドラッグストアチェーンの店舗で働くには、「登録販売者」の資格取得が業界で義務付けられている。新入社員教育には、この「登録販売者」の資格取得教育研修が欠かせない状況であり、この「登録販売者」資格を維持継続するために、定期的・継続的に外部研修（継続研修）を受講しなければならないとして義務化されている。

【現在の主な教育手法】

ドラッグストアチェーン社員の学習環境は、「登録販売者」の資格取得や外部研修（継続研修）は、直接会場に集まって行う集合研修や e-ラーニングによる講師が説明している動画、y o u t u b e 動画など様々な方法で行われている。e-ラーニングではオンデマンド型が中心で P P T X を使って講師が説明しているところが多い。

①登録販売者の場合：今現在、過去問をひたすら反復して解く学習方法やオンデマンド型のオンライン学習が主流であるが、単に資格取得するための一過性に過ぎず、知識の定着がない合格者がいるため、最も躓きやすい薬の効果や消化器系、神経系の働きについて全体像と各部の名称や役割、その作用等についても具体的なイメージが持てないままのやり方で行われている。

②外部研修（継続研修）の場合：例えば、新しい薬の知識習得といったことも、講師の説明して

いることを聞くことに留まり、行われている。様々なシチュエーションが必要な内容は、集合研修学習できるが、店舗管理者に求められるガバナンス、法令、コンプライアンス、コミュニケーションについて理解の定着までには時間を要する。

また、Web 教材の在り方に懐疑的な状況である。

シミュレーションしながら学ぶ教材ツールがなく具体的なイメージが持てないままの学習方法で行われているため、理解するのに時間が掛かるところがある。

【現状の声】

正式なヒアリングという形式ではないが、当校で少ないが5社ヒアリングを行った。①社員の登録販売者有資格者の知識定着ができていない、②高卒の社員はなかなか資格が取れない、③社内・顧客などにコミュニケーションがなかなかできない人が多くなっている、④登録販売者資格取得に要する学習時間を短くしてほしい、⑤空き時間でできるアプリなどがほしい（気軽に確認できるもの、ゲーム感覚的な要素があるもの）、⑥アプリ等教材を作してほしい、ARで消化器系の位置がだいたい分かるもの、説明付きなど、⑦新商品情報などを、あまり時間をかけずに学ぶことができるアプリなどがあればいい。といった回答であった。

特に③～⑤の回答ではタイムパフォーマンスを上げる手段として、アプリ開発は有用と思われる。

【解決策】

本事業で開発するアップデート教育プログラムは、近年、専門知識・スキルの定着ができていない登録販売者の有資格者が目立ってきているため、本来の有資格者に必要な専門知識・スキルの定着をはじめ、最新情報（薬の新商品情報含む）、昇進・昇格に必要な更なる知識等の習得ができる教育プログラム開発の必要性を感じている薬業界全体の研修・教育をはじめ、登録販売者試験テキストや外部研修を行っている一般社団法人日本薬業研修センターと登録販売者の個人サポート機関である一般社団法人日本医薬品登録販売者協会と連携しながら行う。

教育内容の質担保をしっかりと保ちつつ、知識の定着に必要と考えられる教材ツール（アプリ）開発を含め、従来の教育・研修方法を補うことで、より一層効率的かつ効果的な知識の定着ができるリカレント教育への参入に登録販売者資格取得学科を有している全国の専門学校も薬業界全体に提供できると考える。

それと同時に、ドラッグストアチェーン等も人材不足が深刻化している業界でもあることから、資格取得に掛ける時間を短く、登録販売者資格取得後のステップアップや管理者養成を補いつつ、効率化することでタイムパフォーマンスも上げる効果につなげ、日々の業務量に対する人的負担を軽減し、人材不足解消につなげる効果も見込まれると考える。

3. 開発する講座の概要

(1) 初級編（登録販売者資格取得向け）

- ・対象：登録販売者資格取得を目指す学生や社会人
- ・学習方法：オンライン、e-ラーニング、自己研鑽、集合研修など
- ・開発概要：登録販売者の資格を取得するには、第1章：医薬品に共通する特性と基本的な知識、第2章：人体の働きと医薬品、第3章：主な医薬品とその作用、第4章：薬事関係法規・制度、第5章：医薬品の適正使用・安全対策の範囲を学習する必要があるが、イメージできずにいる方が多い、そこで、躓きやすく理解するまでに掛かる時間を少なくする効果を目指す。

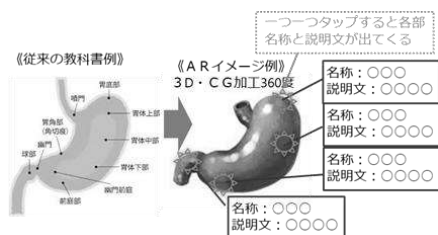
例えば、特に時間を要する第2章の人体の働きと医薬品と第3章の主な医薬品とその作用部分であるが、具体的にイメージできる教材が無い。冊子による紙の教材やPPTX+講師解説などによるオンデマンド型によるものが主流であるが、どのような動きをするのかといった動きが無い。

本事業ではAR、3DCG、アニメーション技術などを活用した教材ツール（アプリ）を開発する。服薬後に薬効成分を体内に取り込みためには消化器系の理解を深めるため、機能をはじめ、薬がどのような通り道を通っていくのか。薬の溶け方や体の中に入る仕組み、体の中に入った薬の動きの学習を補うことができる学習補助教材を開発する。

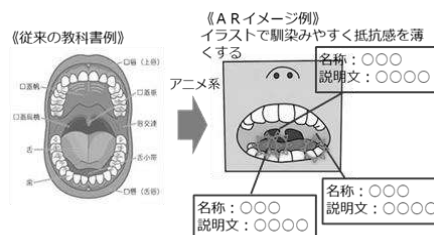
従来の教科書のイラストでは理解しにくい機能と構造をARと3DCG、アニメーションを活用したアプリ教材により、具体的に体のどこにあり、どのような形をしているか立体的な画像を取り入れる。人体の構造をよりイメージできることにより、理解度を高める。

また、教科書では、イラストで名称が記載されて、別れてそれぞれの名称の説明文が記載されているが、併記して各部の名称と説明文を入れることができ、さらに一層具体的なイメージを持たせることができる。さらに受講生は、遠隔授業をはじめ、自宅、電車等の移動中、外出先といった場所を選ぶことなく自ら振り返り、反復学習が可能となる。

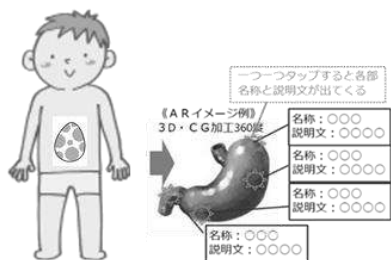
【消化器系（胃）のイメージ】



【消化器系（口腔部）イメージ】



【AR 開発イメージ（胃）：人にかざすとアイコンがでる】



(2) ステップアップ編

- ・対象登録販売者有資格者
- ・学習方法：オンライン、e-ラーニング、自己研鑽、集合研修など
- ・開発概要：資格取得後のステップアップや管理者養成

店舗管理者に求められるガバナンス、法令、コンプライアンス、コミュニケーションなどについての教育プログラム開発。教材ツール（アプリ）は、OTC 医薬品最新情報提供をはじめ、ハラスメント系、法改正、税制関係などを展開

《OTC 医薬品最新情報》



《法改正》

（参考）関係条文等 ○医薬品医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭利35法律第145号）抄 （目的） 第一条 この法律は、医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器及び再生医療等製品（以下「医薬品等」という）の品質、有効性及び安全性の確保並びにこれらの使用による保健衛生上の危害の発生及び拡大の防止のために必要な規制を行うとともに、指定薬物の規制に関する措置を講ずるほか、医療上特にその必要性が高い医薬品、医療機器及び再生医療等製品の研究開発の促進のために必要な措置を講ずることにより、保健衛生の向上を図ることを目的とする。	○医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行規則（昭和36年厚生省令第1号）抄 （開設の申請） 第一条 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（以下「法」という）第四条第二項の申請書は、様式第一によるものとする。 2 法第四条第二項第六号の厚生労働省令で定める事項は、次のとおりとする。 一 通常の営業已及び営業時間
---	---

《医療費医薬品購入に係る税控除について》

医療費医薬品購入に係る税控除について ■薬局、店舗販売業に開業する部分を除く（令和6年12月31日現在） 介護保険に係る部分は、薬局、店舗販売業が開業することはまれであるので割愛しています 1. 医療費控除（確定申告による通常の医療費控除） 「医療費控除の特例（セルフメディケーション税制）」を受けた場合は、医療費控除（通常の医療費控除を受けることはできない） ① 控除の対象 1月1日～12月31日の期間で、実際に支払った下記の医療費が控除の対象となります ※ 生計を一にする配偶者、その他親族のために支払った「医療費」が対象 ※ 「治療」や「療養」に必要な医薬品の購入の対価が、対象となる 《対象となるもの：例》 医師・歯科医師による診療等を受けるために直接必要なもののうち、以下の費用 ・通院費、医師等の送迎費 ・入院の対価として支払う部屋代、食事代 ・医療用器具の購入・賃借の費用（医師の指示による）	医療費医薬品購入に係る税控除について ・義手、義足、松葉杖、義歯、眼鏡や補聴器の購入費用 ・6か月以上療養中の人のおむつ代で、その人を治療している医師が発行した「おむつ使用証明書」のあるもの ※ 「おむつ使用証明書」 証明年月日、証明者の名称（おむつ使用証明書）、証明者の名称（医療機関名称） おむつ使用の経緯を受けることについて、認めたおむつを科目別で介護保険法の療養給付を受けている場合、市町村長が交付する「おむつ使用確認書」で差し支えない ・医師等の処方や指示により、医師等による診療等を受けるために直接必要なものとして購入する医薬品の購入費用 ・処方箋調剤にかかる費用 ・治療や療養に必要な医薬品の購入の対価 医師等の直接の診療にかかわらない以下の治療費用（一般用医薬品） ・かぜの治療のために使用した一般的な医薬品の購入費用（栄養補助剤は対象外） ・治療目的に適用（有効効果の記載）のあるもの医薬品購入費用（要問合せ） 《医療費控除の対象から除外されるもの：例》 ・容姿を美化し、容姿を変えたり目撃した手術費用 ・健康診断費用 （健康診断の結果、重大な疾患が発見され継続治療を受けた場合は、控除の対象になる）
---	--

[illegible]

様々な機能を組み込んだ補助教材アプリ開発を目指す。

令和6年度「専門職業人材の最新技能アップのための専修学校リカレント教育推進事業」 一般用医薬品販売資格（登録販売者）に関するアップデートプログラム事業	
◆東証実務内容	
1. 登録販売者編	
動画	神経系（中枢神経、末梢神経、自律神経、反射）、消化器系（食物の流れ方、咽喉、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、直腸、肛門、肝臓、脾臓、胆嚢など）、外用薬（坐剤、シップ）、
過去問○×	上記に関すること
e-learning	上記に関すること 2019年～2023年の過去5年分

令和6年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校/カレント教育推進事業」
 一般用医薬品販売員資格（登録販売者）に関するアップデートプログラム事業

◆実証実験内容

1. 初級編

動画部分	中枢神経
過去問○×	上記に関わること

※身体機能（運動神経・感覚神経）、自律神経系の正しい理解を深めよう

中枢神経に関する以下の記述の正誤について、○か×で答えてよ。
 ①児は、血液脳関門が未発達であるため、循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に到達しにくい。
 【解答】×

②小児は、血液脳関門が未発達であるため、循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に到達しやすい。
 【解答】○

中枢神経に関する以下の記述の正誤について、○か×で答えてよ。
 ③中脳は、末梢からの刺激を受け取りて結合し、それらに反応して興奮を伝達し、末梢へ刺激を送り出すことで、人間の身体を制御している。
 【解答】○

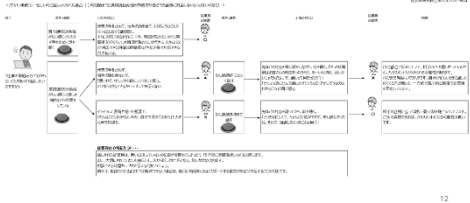
【解説】記述文意通り。

令和6年度「専門職業人材の最新技術アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」 一般用医薬品販売資格（登録販売者）に関するアップデートプログラム事業	
◆開発内容	
2. ステップアップ編	
OTC医薬品最新情報提供	商品写真・説明文PDF 提供先：セルフメディケーション データベースセンター
法改正	医薬品医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（条文・規則）共通テキスト277～324 p
医療費医薬品購入に係る税控除について	医療費控除について、薬局、店舗販売業に係る部分を整理提供。制度等の変更割合は、年1回程度
ハラスメント系	ゲーミフィケーション（パワハラ、モラハラ、カスハラなど）

令和6年度「専門職人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」 一般用医薬品販売資格（登録販売者）に関するアップデートプログラム事業	
◆実証実験内容 姫路ハーベスト医療福祉専門学校	
1. 初級編	
e-learning出題範囲	神経系、消化器系、外用薬、くすりの流れなど 2019年～2023年の過去5年分
○12 問を事前に提供する等の対応の取組について、正しい順番で示す。 1. 問1は、問1から問10までで構成され、問11は問10の答えから問12の答えを導く。 2. 問12は、問1から問10までの答えから問12の答えを導く。 3. 問12は、問1から問10までの答えから問12の答えを導く。 4. 問12は、問1から問10までの答えから問12の答えを導く。 5. 問12は、問1から問10までの答えから問12の答えを導く。 6. 問12は、問1から問10までの答えから問12の答えを導く。 7. 問12は、問1から問10までの答えから問12の答えを導く。 8. 問12は、問1から問10までの答えから問12の答えを導く。 9. 問12は、問1から問10までの答えから問12の答えを導く。 10. 問12は、問1から問10までの答えから問12の答えを導く。 11. 問12は、問1から問10までの答えから問12の答えを導く。 12. 問12は、問1から問10までの答えから問12の答えを導く。	

令和6年度「専門職人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」 一般用医薬品販売資格（登録販売者）に関するアップデートプログラム事業	
◆OTC医薬品最新情報掲載例2024.11.21 姫路ハーベスト医療福祉専門学校	
	

令和6年度「専門職人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」 一般用医薬品販売資格（登録販売者）に関するアップデートプログラム事業	
◆実証実験内容 姫路ハーベスト医療福祉専門学校	
2. ステップアップ	
法改正	医薬品医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（条文・規則）共通テキスト277～324 p
○（参考）関係条文等 ○医薬品医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和35年法律第145号）抄 （目的） 第一節 この法律は、医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器及び再生医療等製品（以下「医薬品等」とい）の品質、有効性及び安全性の確保並びにこれらの使用による保健衛生上の危害の発生及び拡大の防止のために必要な規制を行うとともに、指定薬物の規制に関する措置を講ずるほか、医薬品にその必要性が高い医薬品、医療機器及び再生医療等製品の研究開発の促進のために必要な措置を講ずることにより、保健衛生の向上を図ることを目的とする。 ○医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行規則（昭和36年厚生省令第1号）抄 （開設の申請） 第一節 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（以下「法」とい）第四條第二項の申請書は、様式第一によるものとする。 2 法第四條第二項第八号の厚生労働省令で定める事項は、次のとおりとする。 一 通常の営業日及び営業時間	

令和6年度「専門職人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」 一般用医薬品販売資格（登録販売者）に関するアップデートプログラム事業	
◆実証実験内容 姫路ハーベスト医療福祉専門学校	
2. ステップアップ	
ハラスメント系	ゲーミフィケーション 下記の流れで制作
	

4. 構成機関・構成員等

（1）教育機関と役割・協力事項

【役割・協力事項】

- ▶調査、実証実験に関する手法と検討協力
- ▶シラバス・コマシラバスのアドバイス
- ▶開発する教育カリキュラム・プログラム構成の提案・アドバイス・検討
- ▶教材ツール（アプリ）構成の提案・アドバイス・検討
- ▶G P A開発協力
- ▶普及に関するアドバイス 等

構成機関（学校・団体・機関等）の名称		役割等	都道府県名
1	姫路ハーベスト医療福祉専門学校	代表校、事業全体運営管理	兵庫県
2	北日本医療福祉専門学校	教育プログラム検討・開発・実証 実験・普及	岩手県

（2）企業・団体と役割・協力事項

【役割・協力事項】

- ▶実証実験実施協力（企業協力を得るためのポイント・アドバイス、検証協力等）

- ▶テキスト開発協力（内容の精査、アドバイス等）
- ▶開発する教育カリキュラム・プログラムへのアドバイス
- ▶教材ツール（アプリ）開発の協力とアドバイス
- ▶最新情報の提供とポイントのアドバイス 等

名称		役割等	都道府県名
1	一般社団法人日本薬業研修センター	企画・教育プログラム検討・資料提供	神奈川県
2	一般社団法人日本医薬品登録販売者協会	企画・教育プログラム検討・資料提供	東京都
3	株式会社サッポロドラッグストア	企画・教育プログラム検討・資料提供・汎用性・普及	北海道
4	株式会社 MCC マネジメント	企画・教育プログラム検討・資料提供・汎用性・普及	東京都
5	株式会社せいきキタバ薬局	企画・教育プログラム検討・資料提供・汎用性・普及	大阪府
6	ゴダイ株式会社	企画・教育プログラム検討・資料提供・実証実験・普及	兵庫県
7	株式会社キノシタヤ	企画・教育プログラム検討・資料提供・実証実験・普及	兵庫県
8	株式会社ザグザグ	企画・教育プログラム検討・資料提供・実証実験・普及	岡山県
9	姫路商工会議所 ものづくり支援センター IT 専門サポーター	汎用性・普及・評価	兵庫県
10	株式会社ビジョンクエスト	eラーニングアドバイス・汎用性・普及	兵庫県
11	株式会社クレールポート	汎用性・普及	大阪府
12	株式会社ハッピーワールド	汎用性・普及	大阪府

（３）行政機関と役割・協力事項

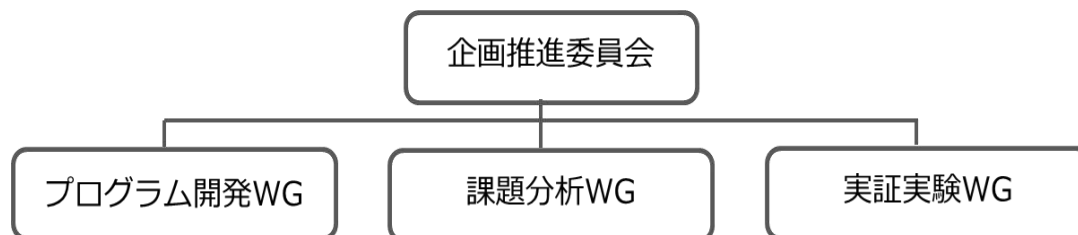
【役割・協力事項】

- ▶開発した教育カリキュラム・プログラムの評価
- ▶テキスト・教材ツール（アプリ）・実証実験等の評価・アドバイス
- ▶汎用性の妥当等に関する評価・アドバイス 等

名称		役割等	都道府 県名
1	兵庫県保健医療部 薬務課	汎用性・普及・評価	兵庫県

(4) 実施体制イメージと各会議体の役割

【実施体制イメージ】



【企画推進委員会役割】

- 事業方針・スケジュール管理（進捗管理）
- 事業全体の運営・管理
- 各 WG の調整
- 成果報告書の編集・まとめ
- 成果検証：第三者評価委員の選出 等

【プログラム開発 WG 役割】

- 知識・技能のアップデート教育プログラムの検討
- テキスト内容の検討
- アプリ内容の検討
- 課題分析 WG からの企業ニーズ調査分析の対応 等

【課題分析 WG 役割】

- プログラム開発WGから提案される内容の検討・改善
- 企業ニーズ調査分析（社会人・企業内研修対象レベルの明確化等）
- 実証実験の分析・精査・改善 等

【実証実験 WG 役割】

- 実証実験の実施・運営管理
- K P I に沿った実証実験の効果検証
- 受講生アンケート
- 学習理解度データ収集・整理 等

(5) 各会議体の目的と役割、および構成委員

①企画推進委員会

【目的】

事業全体の計画・スケジュール等の策定と進捗管理をはじめ、各WGが活動しやすいように外部協力など様々な調整を行う。

【役割】

- 事業方針・スケジュール管理（進捗管理）
- 事業全体の運営・管理
- 委員の調整（事業状況により必要に応じて有識者委員の増減調整）
- 各WGの進捗管理・調整
- 成果報告書の内容確認
- 成果検証：第三者評価委員の選出 等

【企画推進委員会構成委員】

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	西川 一	学校法人摺河学園 法人本部 本部長	企画推進 事業責任者	兵庫県
2	菅原 武	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 法人本部 副本部長	企画推進 事務局責任 者	兵庫県
3	高村幸生	北日本医療福祉専門学校 薬業科	教育プログラム検討・開 発・実証実験・普及	岩手県
4	中込和哉	一般社団法人日本薬業研修センター 理事長	企画・教育プログラム検 討・資料提供	神奈川 県
5	横田 敏	一般社団法人日本薬品登録販売者 協会 理事	企画・教育プログラム検 討・資料提供	東京都
6	森田圭一郎	株式会社サッポロドラッグストア ドラッグス トア事業本部 第1エリア本部 ドラッグス トア業務推進 H & Bケア推進担当	企画・教育プログラム検 討・資料提供・実証実 験・普及	北海道
7	荒木文明	株式会社 MCC マネジメント 管理本 部 人材開発部 人材事業推進課 課長	企画・教育プログラム検 討・資料提供・汎用性・ 普及	東京都
8	塚本隆文	株式会社せいきキハダ薬局 代表取締役社長	企画・教育プログラム検 討・資料提供・汎用性・ 普及	大阪府
9	中野陽介	ゴダイ株式会社 教育採用支援部 副課長	企画・教育プログラム検 討・資料提供・実証実 験・普及	兵庫県

10	山本恭之	株式会社キノシタヤ薬局 代表取締役	企画・教育プログラム検討・資料提供・実証実験・普及	兵庫県
11	石田由佳	株式会社ザグザグ 総務部 採用チーム	企画・教育プログラム検討・資料提供・実証実験・普及	岡山県
12	案浦幹雄	株式会社ビジョンクエスト 代表取締役	eラーニングアドバイス・汎用性・普及	兵庫県
13	阪 彰敏	株式会社クレールポート 代表取締役	汎用性・普及	大阪府
14	福田 修	株式会社ハッピーワールド 代表取締役	汎用性・普及	大阪府
15	鵜野昭二	姫路商工会議所 ものづくり支援センター IT 専門サポーター	汎用性・普及・評価	兵庫県
16	藤原秀憲	兵庫県保健医療部 薬務課 副課長	汎用性・普及・評価	兵庫県
17	片山芳信	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 医薬健康学科 学科長	教育プログラム企画検討・改善	兵庫県

②プログラム開発 WG

【目的】

アップデート教育プログラムに必要な内容の構築、および関係団体や講師等の調整を行う。

【役割】

- シラバス・コマシラバスの骨子案作成
- 知識・技能のアップデート教育プログラムの検討（K P I に沿った内容検討）
- テキスト内容の検討（骨子案作り）
- 教材ツール（アプリ）内容の検討（骨子案作り）
- 課題分析WGからの企業ニーズ調査分析の対応（教育プログラムへ反映検討）
- 教師用テキスト（指導要領）の検討 等

【プログラム開発 WG 委員会構成委員】

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	西川 一	学校法人摺河学園 法人本部 本部長	企画推進 事業責任者	兵庫県

2	菅原 武	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 法人本部 副本部長	企画推進 事務局責任者	兵庫県
3	高村幸生	北日本医療福祉専門学校 薬業科	教育プログラム検討・開 発・実証実験・普及	岩手県
4	中込和哉	一般社団法人日本薬業研修センター 理事長	企画・教育プログラム検 討・資料提供	神奈川 県
5	横田 敏	一般社団法人日本薬品登録販売者 協会 理事	企画・教育プログラム検 討・資料提供	東京都
6	森田圭一朗	株式会社サッポロドラッグストアー ドラッグス トア事業本部 第1エリア本部 ドラッグス トア業務推進 H & B ケア推進担当	企画・教育プログラム検 討・資料提供・実証実 験・普及	北海道
7	荒木文明	株式会社 MCC マネジメント 管理本 部 人材開発部 人材事業推進課 課長	企画・教育プログラム検 討・資料提供・汎用性・ 普及	東京都
8	中野陽介	ゴダイ株式会社 教育採用支援部 副課長	企画・教育プログラム検 討・資料提供・実証実 験・普及	兵庫県
9	山本恭之	株式会社キノシタヤ薬局 代表取締役	企画・教育プログラム検 討・資料提供・実証実 験・普及	兵庫県
10	片山芳信	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 医薬健康学科 学科長	教育プログラム企画検 討・改善	兵庫県

③課題分析 WG

【目的】

企業ニーズ分析結果の反映確認とその環境整備を行う。

【役割】

- プログラム開発WGから提案される内容の検討（K P I に沿った検討）
- 企業ニーズ調査項目の検討
- 企業ニーズ調査分析（調査企業数をもとに、企業等研修対象レベルの明確化等）等

【課題分析 WG 委員会構成委員】

氏名		所属・職名	役割等	都道府 県名
1	西川 一	学校法人摺河学園 法人本部 本部長	企画推進 事業責任者	兵庫県

2	菅原 武	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 法人本部 副本部長	企画推進 事務局責任者	兵庫県
3	中込和哉	一般社団法人日本薬業研修センター 理事長	企画・教育プログラム検 討・資料提供	神奈川 県
4	森田圭一郎	株式会社サッポロドラッグストア ドラッグス トア事業本部 第1エリア本部 ドラッグス トア業務推進 H & Bケア推進担当	企画・教育プログラム検 討・資料提供・実証実 験・普及	北海道
5	中野陽介	ゴダイ株式会社 教育採用支援部 副課長	企画・教育プログラム検 討・資料提供・実証実 験・普及	兵庫県
6	山本恭之	株式会社キノシタヤ薬局 代表取締役	企画・教育プログラム検 討・資料提供・実証実 験・普及	兵庫県
7	片山芳信	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 医薬健康学科 学科長	教育プログラム企画検 討・改善	兵庫県

④実証実験 WG

【目的】

企業の協力を仰ぎ、実証実験の実施とその運営管理を行う。

【役割】

- 実証実験準備：プログラム開発WGから提案される教育プログラムに対し、K P I に沿った内
容かの確認・検討
- 実証実験を開催するための次年度の手法・場所・人数・施設等の検討
- 実証実験アンケート内容検討（手法・評価項目等） 等

【実証実験 WG 委員会構成委員】

氏名		所属・職名	役割等	都道府 県名
1	西川 一	学校法人摺河学園 法人本部 本部長	企画推進 事業責任者	兵庫県
2	菅原 武	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 法人本部 副本部長	企画推進 事務局責任者	兵庫県
3	高村幸生	北日本医療福祉専門学校 薬業科	教育プログラム検討・開 発・実証実験・普及	岩手県
4	中込和哉	一般社団法人日本薬業研修センター 理事長	企画・教育プログラム検 討・資料提供	神奈川 県

5	横田 敏	一般社団法人日本薬品登録販売者協会 理事	企画・教育プログラム検討・資料提供	東京都
6	森田圭一郎	株式会社サッポロドラッグストアー ドラッグストア事業本部 第1エリア本部 ドラッグストア業務推進 H & Bケア推進担当	企画・教育プログラム検討・資料提供・実証実験・普及	北海道
7	荒木文明	株式会社 MCC マネジメント 管理本部 人材開発部 人材事業推進課 課長	企画・教育プログラム検討・資料提供・汎用性・普及	東京都
8	中野陽介	ゴダイ株式会社 教育採用支援部 副課長	企画・教育プログラム検討・資料提供・実証実験・普及	兵庫県
9	山本恭之	株式会社キノシタヤ薬局 代表取締役	企画・教育プログラム検討・資料提供・実証実験・普及	兵庫県
10	片山芳信	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 医薬健康学科 学科長	教育プログラム企画検討・改善	兵庫県

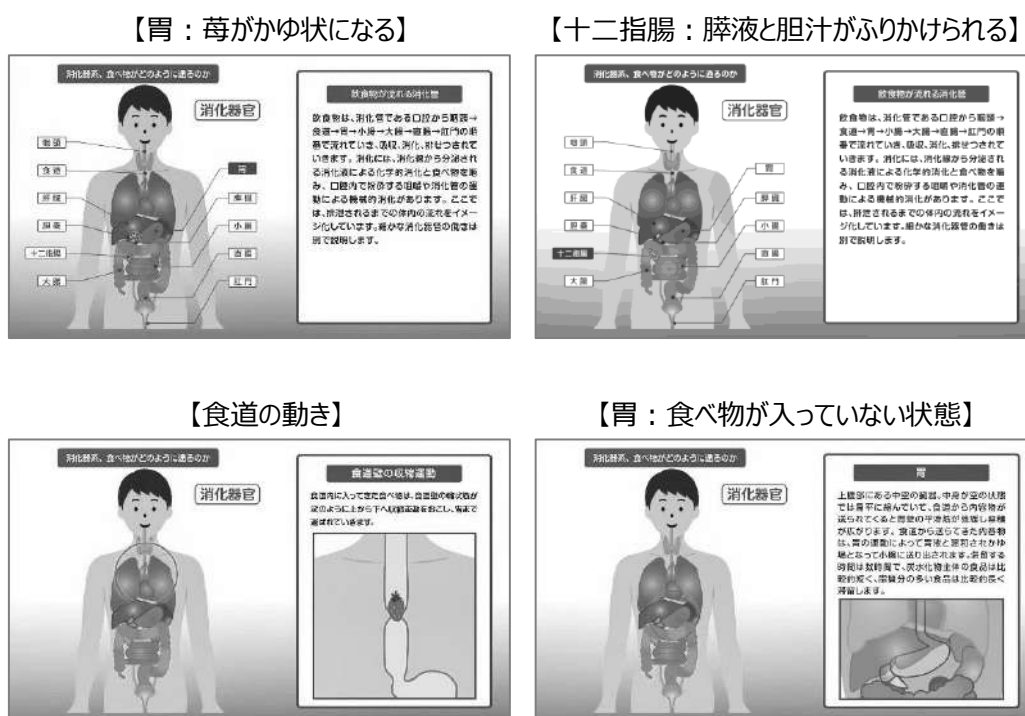
5. 令和6年度取組み概要

(1) 補助教材アプリ開発【初級編（登録販売者資格取得向け）】

令和5年度制作した動画のブラッシュアップ、および過去5年分の過去問をアプリで反映させた。補助教材の位置づけとして取組みを進めていたが、企業側からの望む声が多く、本教材として目途を立たせるレベルまで押し上げるに至った。また、本年度の事業計画では、Web公開は考えず、来年度予定していたが、触ってみたいとの声が多く、本年度Web公開できる段階まで積み上げて制作した。

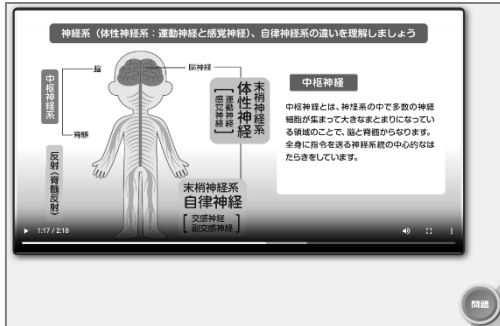


①動画修正・・・消化器系と自律神経系の部分を修正。例えば、消化器系は食べ物がかかるように修正した。胃を食べ物例とし、口腔と食道は固形、胃に入るとかゆ状になって吸収から排泄される。十二指腸では、胆汁と胆汁をかけるように修正した。以下動画抜粋。



②動画連携過去問○×形式…動画と連動した過去5年分（2019年度～2023年度）を一問一答的な○×形式で5問出題1セットとしてランダムで出題できるシステムの構築。

【中枢神経例】



動画に関する○×テスト		
#	問題	選択
1.	中枢神経系は、脳と脊髄から構成されている。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2.	末梢神経系は、脳と脊髄から構成されている。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3.	脳における血液の循環量は、心拍出量の約15%、脳の消費量は全身の約20%と多い。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
4.	脊髄は脳と末梢の間で情報を伝達しており、末梢からの刺激はすべて脳を介している。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
5.	末梢神経系に関する以下の記述の正誤について、○×で答えよ。 ・交感神経系は体の運動を亢進させ、副交感神経系は体の運動を低下させる効果がある。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐

【自律神経イメージ（交感神経）】



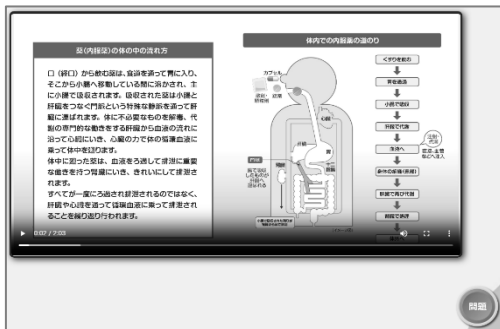
動画に関する○×テスト		
#	問題	選択
1.	心臓は、心拍数が減少する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2.	気管は拡張する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3.	心臓は、心拍数が増加する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
4.	気管及び気管支は、交感神経系が活動になると収縮し、副交感神経系が活動になると拡張する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
5.	目の瞳孔反応は瞳孔収縮することである。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐

【消化器系（食べ物が入る中を通る）】



動画に関する○×テスト		
#	問題	選択
1.	唾液には、デンプンをデキストリンや麦芽糖に分解する消化酵素「アミラーゼ」が含まれる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2.	胃液から分泌される胃酸には、胃内に殺菌性に関与する作用がある。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3.	唾液には、デンプンを分解する消化酵素が含まれる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
4.	肝臓は、膵臓の下に位置する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
5.	膵液はS状結腸、盲腸に流れ、盲腸に集まった膵液が下行結腸に送られてくる。その刺激に反応して分泌が促される。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐

【内服薬】



動画に関する○×テスト		
#	問題	選択
1.	全量作用を特徴とする薬物の多くは、使用後の一定期間、その有効成分の血中濃度が治療域に維持される。作用量及び作用機が定められている。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2.	内服薬は、全て全量作用を示す。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3.	薬物は、代謝によって生じた物質が体外へ排出されることであり、その代謝としては、肝中、胆汁中、尿中などがあるが、母体中への排出はほとんどないため、乳児に対する副作用の発現はない。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
4.	薬剤は肝臓から薬物を分泌することにより、直腸内や腸腔に滞留し、腸腔内腔の粘膜から有効成分を吸収する。吸収された有効成分は、門脈を介して肝臓に運ばれ、肝臓から全身に分布する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐
5.	消化管より吸収され、循環血液中に移行した有効成分は、主として腎臓に存在する薬物代謝酵素による代謝を受け、代謝物の形で腎臓から尿中に排泄される。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐

③ e-ラーニングシステム概要・・・過去5年分（2019年度～2023年度）を本アプリの対象範囲を抜粋し、ランダム出題でシステムを開発。管理者は、期間設定し、5回まで問題作成できる。問題は、ランダムと固定の2パターンで設定できる。

【選択画面】



【e-learning ランダム画面】



(2) 補助教材アプリ開発【ステップアップ編】

登録販売者資格取得者に向けて、業界や職種に特化した専門性の知識や改善案など含めた効果的な問題解決能力の向上を図るとともに、新たな職務や役割に就く可能性が広がることで、より高度な仕事に挑戦できる、より良い条件で働けるよう、自分の強みや弱みを理解する、自己改善のきっかけにもなりことにより、自己肯定感が高まり、さらなる挑戦に結びつける効果として開発。

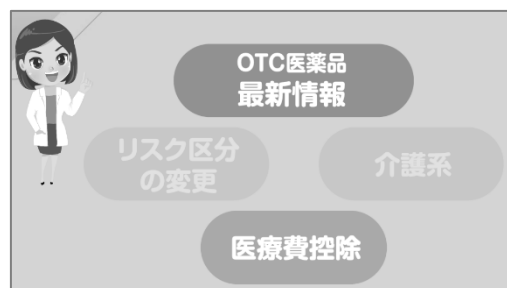
【ステップアップ編入り口画面】



【選択画面】



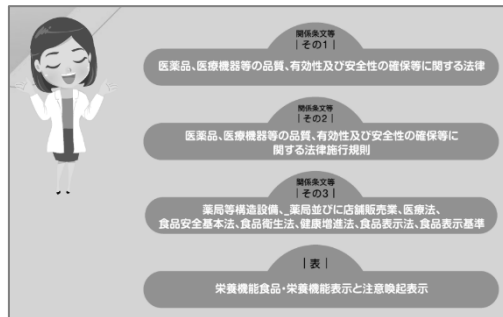
【OTC 医薬品と最新情報画面】



【OTC 医薬品最新情報一覧】

OTC医薬品最新情報		
品名・内容量	販売元	改定日
ウレバールプラスクリーム 80g×10箱×4個	大鰐薬品工業	2024/11/19
ウレバールプラスクリーム 80g×10箱	大鰐薬品工業	2024/11/19
ウレバールプラスクリーム 80g	大鰐薬品工業	2024/11/19
ウレバールプラスローション10 100ml×10箱×4個	大鰐薬品工業	2024/11/19
ウレバールプラスローション10 100ml×10箱	大鰐薬品工業	2024/11/19
ウレバールプラスローション10 100ml	大鰐薬品工業	2024/11/19
漢方せき止めトローチS「寒門冬湯」 18錠	小太郎漢方製薬	2024/11/19
フルナーゼ点鼻薬（季節性アレルギー専用） 8ml	Haileon ジャパン	2024/11/20
チオピタゴールド 30ml	大鰐薬品工業	2024/11/20

【関係条文画面】



【ハラスメントシチュエーション選択画面】



(3) シラバス・コマシラバス【初級編（登録販売者資格取得者向け）】

シラバス	
近年のドラッグストアチェーン業界の躍進は目を見張るところがあり、業界の売り上げも右肩上がりが続いています。 また、ドラッグストアチェーンに勤務するには、「登録販売者」の資格取得が必須で、その資格取得に必要な時間は300時間といわれています。 一番つまずきやすいと言われている消化器系や神経などをはじめ、薬の作用、接客技術といった部分に焦点をあてて理解に掛ける時間数の軽減につなげ、タイムパフォーマンスによる理解度向上と知識の定着効果を目指します。	

コマシラバス	
テーマ	内 容
神経系	神経系を学ぶ上で基礎を固める。特に基礎固めに必要な神経系を抽出。イメージ化できるように動画・アニメーションに反映。
	①体制神経（運動神経・感覚神経）、②中枢神経、③末梢神経、④反射（脊髄神経）、⑤自律神経（交感神経と副交感神経）、⑥自律神経の構（交感神経と副交感神経）を学ぶ。
消化器系 1	体の中でどのように飲食物が流れているかを知る。
	①体の中で飲食物がどのように流れているのか、通る順番と各消化器官をアニメーションで学ぶ。
消化器系 2	各消化器管がどのような働きをしているのか知る。
	①各消化器官の名称と働きを知る（咽頭、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、直腸、肛門、膀胱、肝臓等）。
薬が体の中に入ることは（内服薬・坐剤）	体中を廻って効果を発揮する内服薬と坐剤の体の中の入りを学ぶ。
	①内服薬が体の中に入る入り方、②坐剤が体の中に入る入り方を学ぶ。

外用薬（局所作用） 1	体の外から効果を発揮する薬を学ぶ。
	①湿布薬について学ぶ（外的からの衝撃によって、体の損傷部分がどのようなものか、含まれている有効成分がどのような働きをして、元にもどすのかなど）。
外用薬（局所作用） 2	2つの働きをする坐剤を知る。
	①局部に留まって効果を発揮することを学ぶ、②体中に回って効果を発揮すること学ぶ。

（４）実証実験

初級編の実証実験を実施

①目的：

最終年度に精度を上げて提供できるよう、主に補助教材アプリの動作の検証と過去問題の正確さの確認を目的として実施。

②実施先・人数・日時：

実施先	人 数	日 時
姫路ハーベスト医療福祉専門学校	14名	令和7年2月6日（木） 9：00～12：10
北日本医療福祉専門学校	13名	令和7年2月18日（火） 9：00～10：30

③対象：

登録販売者資格取得を目指す専門学校1年生

④実施実証授業形態：

特別授業としてコマシラバスをもとに各校それぞれの手法で検証を行う。

姫路ハーベスト医療福祉専門学校	通常授業形成で実施：神経系、消化器系の解説をし、動画視聴と過去問〇×による自己学習体験、e-learningの実施
北日本医療福祉専門学校	自己学習教材として、学生に自由に触れさせ慣れさせることを目的として実施、動画視聴、過去問〇×の自己学習、e-learning とアプリ機能や内容を時間内で色々と試しながら学習意欲の向上を狙う

⑤受講者アンケートの実施

アンケートご協力願い	
この度の登録販売者補助教材アプリは、文部科学省委託事業「一般用医薬品販売資格（登録販売者）に関するアップデートプログラム事業」の取り組みの一環として、登録販売者資格取得を目指す方々向けに、中枢神経や末梢神経、反射、自律神経といった神経系をはじめ、体の中の食べ物の流れや吸収、各消化器管の役割、薬が体の中のように流れてその効果を発揮するかといったことをイメージできるように、過去問との連携を含め開発しました。 つきましては、以下の項目につきまして本アンケートへのご回答の協力のほど、よろしくお願いいたします。	
お名前	
学校名	
学年・年齢	年 歳
1. 以下の動画についてお聞きます。動画を見ることでイメージでき、理解しやすくなると感じましたか。ア～オのいずれかに○を付けてください。また、どのようにすればもっと分かりやすくなるか、楽しく学べるかなど、ご意見をあわせてお書きください。 (1) 神経系（中枢神経、末梢神経、反射、体性神経・自律神経などについて） ア. 理解しやすくなると感じた イ. まあまあ理解しやすくなると感じた ウ. 普通 エ. あまり理解しやすくなると感じなかった オ. 理解しやすくなると感じなかった	
(2) 消化器系（食べ物が体の中を流れるイメージと各消化器管の役割イメージ） ア. 理解しやすくなると感じた イ. まあまあ理解しやすくなると感じた ウ. 普通 エ. あまり理解しやすくなると感じなかった オ. 理解しやすくなると感じなかった	
(3) 外用薬（坐剤や湿布の効き方） ア. 理解しやすくなると感じた イ. まあまあ理解しやすくなると感じた ウ. 普通 エ. あまり理解しやすくなると感じなかった オ. 理解しやすくなると感じなかった	
(4) 体の中でのくすりの流れ方（内服薬と坐剤） ア. 理解しやすくなると感じた イ. まあまあ理解しやすくなると感じた ウ. 普通 エ. あまり理解しやすくなると感じなかった オ. 理解しやすくなると感じなかった	
2. 過去5年分過去問を○×形式で動画と連動させて取り入れたことに関して理解しやすくなると感じましたか。下記のア～オのいずれかに○を付けてください。また、どのようにすればもっと分かりやすくなるか、楽しく学べるかなど、あわせてご意見をお書きください。 ア. 理解しやすくなると感じた イ. まあまあ理解しやすくなると感じた ウ. 普通 エ. あまり理解しやすくなると感じなかった オ. 理解しやすくなると感じなかった	
3. e-learning についてお聞きます。過去5年分をランダム形式で出題しています。使い勝手など、どのように思いましたか。また、どのようにすれば良くなるかなど、あわせてご意見をお書きください。 ア. 使いやすかった イ. まあまあ使いやすかった ウ. 普通 エ. あまり使いやすくなかった オ. 使いやすくなかった	
4. Zoom 機能を搭載し、授業を休んでいる中でもオンラインで授業を受講できることについてどのように思いましたか。また、どのようにすれば良くなるかなど、あわせてご意見をお書きください。 ア. 使える機能があった イ. なんとなく使える機能があった ウ. 普通 エ. あまり使う機能とは思わない オ. 使える機能とは思わない	
5. その他ご意見がございましたらお願いします。	

6. 会議実績

(1) 第1回企画推進委員会会議

・開催日時：令和6年6月23日（月） 15:00～17:00

・会 場：姫路ハーベスト医療福祉専門学校 会議室

・出席者：5名

【目 的】

・本事業の取り組みに対しての共通認識を行うことを目的とした会議

【会議次第】

1_ 15:00 開 会

2_ 15:05 委員自己紹介

3_ 15:20 議 事

(1) 令和5年度取り組み内容の説明（成果物説明等）

(2) 令和6年度事業概要説明

(3) 令和6年度スケジュール説明

4_ 16:50 その他（連絡事項・意見交換等）

5_ 17:00 閉 会

(2) 第1回プログラム開発WG会議

・開催日時：令和6年9月20日（金） 15:00～17:00

・会場：姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場

・出席者：5名

【目的】

・開発するアプリ補助教材内容に関して共通認識を行うことを目的とした会議を開催

【会議次第】

1_ 15:00 開会

2_ 15:05 議事

(1) 開発するアプリイメージの共有認識

(2) 開発進捗状況報告と意見交換

3_ 16:50 その他（連絡事項・意見交換等）

4_ 17:00 閉会

(3) 第1回実証実験WG会議

・開催日時：令和6年10月4日（金） 15:00～17:00

・会場：姫路ハーベスト医療福祉専門学校 会議室・オンライン

・出席者：会場4名、オンライン2名 計6名

【目的】

・実証実験に向けて開発する補助教材アプリ内容について意見交換目的とした会議

【会議次第】

1_ 15:00 開会

2_ 15:05 議事

(1) アプリ開発進捗状況報告と意見交換

・登録販売者資格取得者向け（初級者編）

・登録販売者有資格者向け（アップデート編）

(2) 実証実験について（内容とスケジュールなど）意見交換

3_ 16:50 その他（連絡事項・意見交換等）

4_ 17:00 閉会

(4) 第2回プログラム開発WG会議

・開催日時：令和6年11月23日（水） 15:00～17:00

・会場：姫路ハーベスト医療福祉専門学校 会議室・オンライン

・出席者：会場3名、オンライン3名 計6名

【目的】

・開発するアプリ補助教材の内容と実証実験の時期について意見交換を行うことを目的とした会議を開催

【会議次第】

- 1_ 15:00 開 会
- 2_ 15:05 議 事
 - (1) 開発進捗状況報告と意見交換
 - (2) 実証実験に向けた意見交換
- 3_ 16:50 その他（連絡事項・意見交換等）
- 4_ 17:00 閉 会

(5) 第2回実証実験WG合同会議

- ・開催日時：令和6年12月4日（水） 15:00～17:00
- ・会 場：姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場・オンライン
- ・出席者：会場3名、オンライン5名 計8名

【目 的】

- ・実証実験に向けて開発する補助教材アプリ内容について意見交換目的とした会議

【会議次第】

- 1_ 15:00 開 会
- 2_ 15:05 議 事
 - (1) アプリ開発進捗状況報告と意見交換
 - ・登録販売者資格取得者向け（初級者編）
 - ・登録販売者有資格者向け（アップデート編）
 - (2) 実証実験について（内容とスケジュールなど）意見交換
- 3_ 16:50 その他（連絡事項・意見交換等）
- 4_ 17:00 閉 会

(6) 第1回課題分析WG会議

- ・開催日時：令和6年2月9日（金） 15:00～17:00
- ・会 場：姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教場
- ・出席者：6名

【目 的】

第3回プログラム開発WG・第1回実証実験WG合同会議において、動画修正内容に関する確認を行い、作業を進める承諾を得ること。また、企業ヒアリング結果報告（途中結果報告）から本事業で開発する方向性の確認を目的とした会議を開催

【会議次第】

- 1_ 15:00 開 会
- 2_ 15:05 議 事
 - (1) プログラム開発WGと実証実験WG会議による反映箇所
 - (2) 企業ヒアリング結果途中報告

(3) 企業ヒアリング結果から当初開発する方向性の確認

3_ 16 : 50 その他（連絡事項等）

4_ 17 : 00 閉 会

第 2 章 令和6年度活動詳細

第2章 令和6年度活動詳細

1. 補助教材アプリ開発

令和5年度作成した動画のブラッシュアップを図りつつ、過去5年分を網羅した過去問〇×形式、e-learning、ハラスメント系、法改正、OTC 医薬品最新情報、税制と取り組んだ。

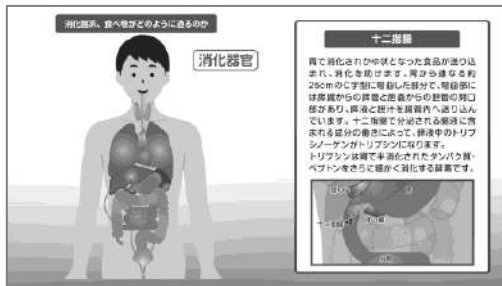
(1) 令和5年度の動画修正の特徴部分を抜粋



①動画修正・・・消化器系と自律神経系の部分を修正。例えば、消化器系は食べ物があるように消化されるのかをイメージできるように修正した。苺を食べ物例とし、口腔と食道は固形、胃に入るとかゆ状になって吸収から排泄される。十二指腸では、膵液と胆汁を食物にふりかけられるといった動画などを追加した。以下動画抜粋。



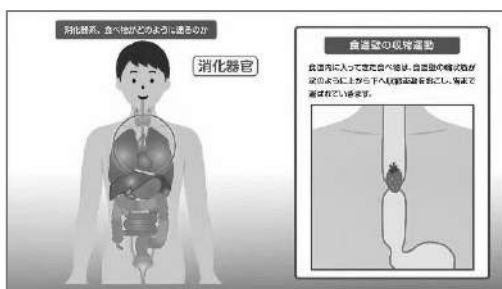
【十二指腸：アップ画面
（胆汁と膵液が振りかかる）】



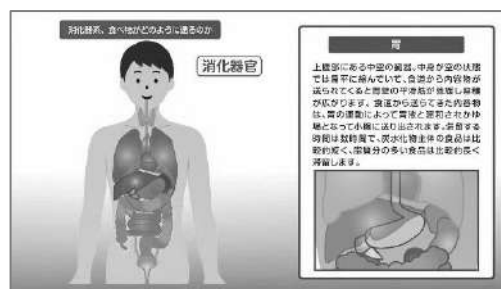
【体を回転させ消化器管の位置が把握可能】



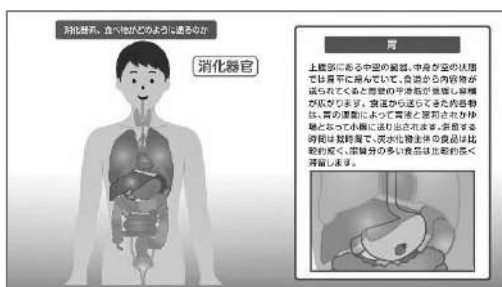
【食道の動き】



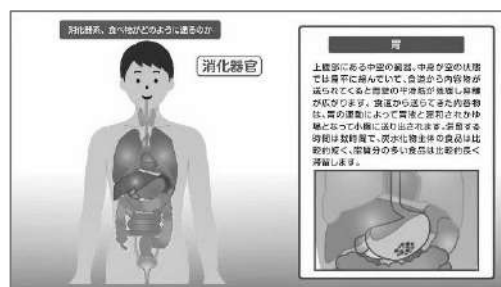
【胃：食べ物が入っていない状態】



【胃：食べ物が入ると膨らむ】

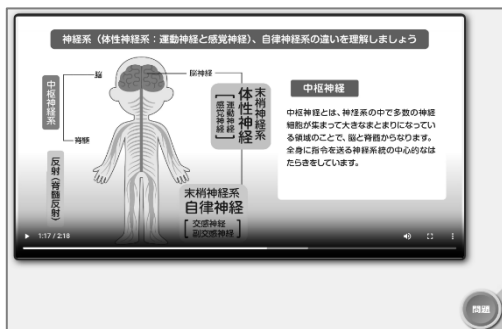


【胃：固形からかゆ状になる】



②動画連携過去問○×形式…動画と連動した過去5年分（2019年度～2023年度）を一問一答的な○×形式で5問出題1セットとしてランダムで出題できるシステムの構築。

【中枢神経例】



動画に関する○×テスト		
#	問題	回答
1.	運動系は、脳と末梢の間で刺激を伝えており、末梢からの刺激に対して脳を介して刺激を送っている。	☐ ☐
2.	中枢神経系は、脳と末梢から構成されている。	☐ ☐
3.	脳における血液の循環量は、心拍出量の約15%、脳幹の消費量は全身の約20%と多い。	☐ ☐
4.	感覚系は脳と末梢の間で刺激を伝えており、末梢からの刺激はすべて脳を介している。	☐ ☐
5.	末梢神経系に関する以下の記述の正誤について、○が正、×が誤。	☐ ☐

【末梢神経】

神経系（体性神経系：運動神経と感覚神経）、自律神経の違いを理解しましょう

末梢神経
末梢神経とは、中枢神経系（脳と脊髄）以外の神経系で、脳と脊髄から体の隅々にまで届けられる神経のことです。
末梢神経系には、体性神経（運動神経・感覚神経）と自律神経の2つがあります。

1:26 / 2:18

開始

動画に関する〇×テスト		
#	問題	選択
1.	末梢神経系に関する以下の記述の正誤について、○か×で答えよ。 ・交感神経系は瞳孔を収縮させ、副交感神経系は瞳孔を拡大させる効果をもたず。	☐ ○ ☐ ×
2.	肝臓は、交感神経系が活発になるとグリコーゲンを分解し、ブドウ糖を放出する。	☐ ○ ☐ ×
3.	末梢神経系は、脳や脊髄から体の表面に伸びており、体性神経系と自律神経系に分類されている。	☐ ○ ☐ ×
4.	中枢は、末梢からの刺激を受け取って統合し、それらに反応して興奮を起し、末梢へ刺激を送り出すことで、人間の身体を制御している。	☐ ○ ☐ ×
5.	脊髄は脳と末梢の間で刺激を伝えており、末梢からの刺激はすべて脳を介している。	☐ ○ ☐ ×

【自律神経の構造】

自律神経の構造

交感神経
副交感神経

自律神経

1:03 / 1:28

開始

動画に関する〇×テスト		
#	問題	選択
1.	胃では、副交感神経が活発になると胃液の分泌が増える。	☐ ○ ☐ ×
2.	骨格筋の収縮は、運動を続けることでグリコーゲンが減少し、酸素や栄養分の供給不足が起こるとともに、グリコーゲンの代謝に伴って生成する乳酸が蓄積して、筋繊維の収縮性が低下する現象である。	☐ ○ ☐ ×
3.	通常、交感神経系と副交感神経系は、互いに拮抗して働く。	☐ ○ ☐ ×
4.	交感神経系と副交感神経系は、互いに拮抗して働き、一方が活発になっているときには他方は活動を抑制して、各臓器・器官（効果器）を制御している。	☐ ○ ☐ ×
5.	副交感神経系が交感神経系より優位になると、瞳孔は収縮する。	☐ ○ ☐ ×

【自律神経イメージ（交感神経）】

神経系（交感神経と副交感神経）の優位になっている状態

【交感神経】
「闘争・逃走」反応を司る。心拍数を増やし、血圧を上げる。瞳孔を開き、血糖値を上げる。消化管の活動を抑制する。呼吸を速くする。体温を上げる。瞳孔を開く。血糖値を上げる。消化管の活動を抑制する。呼吸を速くする。体温を上げる。

【副交感神経】
「休息・消化」反応を司る。心拍数を減らし、血圧を下げる。瞳孔を縮め、血糖値を下げる。消化管の活動を促進する。呼吸を遅くする。体温を下げる。瞳孔を縮める。血糖値を下げる。消化管の活動を促進する。呼吸を遅くする。体温を下げる。

0:14 / 0:34

開始

動画に関する〇×テスト		
#	問題	選択
1.	心臓は、心拍数が増加する。	☐ ○ ☐ ×
2.	気管は拡張する。	☐ ○ ☐ ×
3.	心臓は、心拍数が減少する。	☐ ○ ☐ ×
4.	気管及び気管支は、交感神経系が活発になると収縮し、副交感神経系が活発になると拡張する。	☐ ○ ☐ ×
5.	目の主な成分は瞳孔を収縮することである。	☐ ○ ☐ ×

【自律神経イメージ（副交感神経）】

神経系（交感神経と副交感神経）の優位になっている状態

【交感神経】
「闘争・逃走」反応を司る。心拍数を増やし、血圧を上げる。瞳孔を開き、血糖値を上げる。消化管の活動を抑制する。呼吸を速くする。体温を上げる。瞳孔を開く。血糖値を上げる。消化管の活動を抑制する。呼吸を速くする。体温を上げる。

【副交感神経】
「休息・消化」反応を司る。心拍数を減らし、血圧を下げる。瞳孔を縮め、血糖値を下げる。消化管の活動を促進する。呼吸を遅くする。体温を下げる。瞳孔を縮める。血糖値を下げる。消化管の活動を促進する。呼吸を遅くする。体温を下げる。

0:26 / 1:04

開始

動画に関する〇×テスト		
#	問題	選択
1.	気管、気管支は収縮する。	☐ ○ ☐ ×
2.	気管、気管支は、拡張する。	☐ ○ ☐ ×
3.	気管支は、交感神経系が活発になると収縮し、副交感神経系が活発になると拡張する。	☐ ○ ☐ ×
4.	肝臓では、グリコーゲンの合成が行われる。	☐ ○ ☐ ×
5.	心臓の主な成分は心拍数を減少することである。	☐ ○ ☐ ×

【消化器系（食べ物が体の中を通る）】

#	問題	回答
1.	唾液には、デンプンをデキストリンや麦芽糖に分解する消化酵素（ブチアリン、唾液アミラーゼともいう。）が含まれる。	☐ ☒
2.	胃壁から分泌される胃酸には、胃門を殺菌性に保つ役割やトリプシノーゲンにする作用がある。	☐ ☒
3.	唾液には、デンプンを分解する消化酵素が含まれる。	☐ ☒
4.	肝臓は、臓臓膜の下に位置する。	☐ ☒
5.	胃壁では胃酸は、直接に胃酸し、胃酸に溶まった胃壁が下り経路に運ばれてくるとその刺激に反応して分泌が促される。	☐ ☒

【外用薬（坐剤：体の中を通るイメージ）】

The diagram illustrates the route of a live agent through the digestive system. It shows a cross-section of the head with labels for '口咽' (oral pharynx), '唾液腺' (salivary gland), '舌根' (lingual root), '喉頭・気管' (larynx/trachea), '肺' (lung), '胃' (stomach), '十二指腸' (duodenum), '小腸' (small intestine), '大腸' (large intestine), and '肛門' (anus). A red arrow indicates the path of the agent from the mouth down to the large intestine.

動画に関する○×テスト		
ナ	問題	選択
1.	坐剤は、内服の薬よりも全身作用が見られるが正しい。	○ ×
2.	一般に消化管からの吸収は、医薬品成分の濃度が高い方へ受動的に拡散していく現象ではなく、消化管が積極的に取り込むものである。	○ ×
3.	消化管における有効成分の吸収量や吸収速度は、消化管内内容物や他の医薬品の作用によって影響を受けることはない。	○ ×
4.	内服薬の有効成分の消化管からの吸収量や吸収速度は、消化管内内容物や他の医薬品の作用によって影響を受ける。	○ ×
5.	坐剤は、直腸内で溶解させ、高い直腸内濃度の維持から有効成分を吸収させるものである。	○ ×

【外用薬（坐剤：局所に留まるイメージ）】

動画に関する〇×テスト

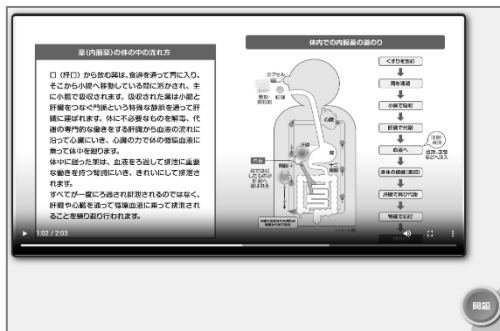
番号	問題	選択
1.	坐骨は、肛門から挿入すると直腸内で溶解し、強い直腸汚染の刺激から有効成分が吸収されるため、内服薬より迅速な全身作用が望むかに見える。	
2.	消化管における有効成分の吸収量や吸収速度は、消化管汚濁物や他の医薬品の作用によって影響を受ける。	
3.	全身作用を期待しない小児用薬は、本来、有効成分が消化管から吸収されることによって薬效を發揮するわけではなく、有効成分はその主要薬性により排泄されることとなるが、中には消化管内で透過する際に結晶析出が形成されてしまうものがある。	
4.	一般に消化管からの吸収は、医薬品成分の薬量がいかに多いかにより受動的に支配されている現象ではなく、消化管が積極的に取り込むものである。	
5.	点鼻薬の成分は鼻粘膜血液中に移行しやすく、初めに肝臓で代謝を受けて全身に分布する。	

【内服薬】

[illegible]

動画に関する○×テスト			
＃	問題	選択	
1.	金糸作用を抑制する薬品類の多くは、使用後の一定期間、その有効成分の血中濃度が治療域に維持されるため、使用量及び使用頻度が定められている。	☒	☐
2.	内服薬は、全てを食後作用を示す。	☐	☒
3.	脂溶性は、代謝によって主じた物質が体外へ排出されることである。その経路としては、尿中、胆汁中、汗などがあるが、母乳への移行はほとんどないため、乳児に対する副作用の発現はない。	☐	☒
4.	薬剤は直接門下静脈系を挿入することにより、直腸内へ溶解させ、薄い直腸内腔の粘膜より有効成分を吸収させるものもあり、直腸粘膜下層に豊富に分布する静脈から直腸に循環血液の中に入るため、内服の場合より速やかに全身症状が現れる。	☒	☐
5.	消化管より吸収され、循環血液中に移行した有効成分は、上として腎臓に存在する薬物代謝酵素による代謝を受け、代謝物の形で腎臓から尿中に排泄される。	☒	☐

【内服薬：体の中を流れる】



動画に関する○×テスト		
#	問題	選択
1.	全身体作用薬には、一般に投与量と比べる程度の時間が必要である。	☐ ☐
2.	有効成分は主に小腸で吸収される。	☐ ☐
3.	有効成分の吸収量や吸収速度は、消化管内内容物や他の医薬品の作用によって影響を受ける。	☐ ☐
4.	消化管では、医薬品濃度の高い方から低い方へ能動的に吸収される。	☐ ☐
5.	医薬品を十分な時間をあけずに後投与すると血中濃度を高くしても、ある濃度以上になるとより強い薬効は得られなくなり、有害な作用(副作用や毒性)も現れにくくなる。	☐ ☐

- ③ e-ラーニングシステム概要・・・過去5年分（2019年度～2023年度）を本アプリの対象範囲を抜粋し、ランダム出題でシステムを開発。管理者は、期間設定し、5回まで問題作成できる。問題は、ランダムと固定の2パターンで設定できる。

【選択画面】



【e-learning ランダム画面】



(2) 補助教材アプリ開発【ステップアップ編】

登録販売者資格取得者に向けて、業界や職種に特化した専門性の知識や改善案など含めた効果的な問題解決能力の向上を図るとともに、新たな職務や役割に就く可能性が広がることで、より高度な仕事に挑戦できる、より良い条件で働けるよう、自分の強みや弱みを理解する、自己改善のきっかけにもなりことにより、自己肯定感が高まり、さらなる挑戦に結びつける効果として開発。

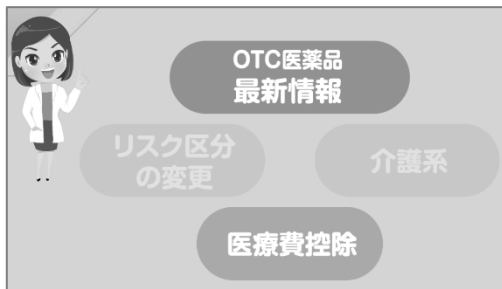
【ステップアップ編入り口画面】



【選択画面】



【OTC 医薬品と最新情報画面】



【OTC 医薬品最新情報一覧】

OTC医薬品最新情報			
品名・内容量	販売元	改定日	
ウレバルプラスクリーム 80g×10箱×4個	大冢薬品工業	2024/11/19	
ウレバルプラスクリーム 80g×10箱	大冢薬品工業	2024/11/19	
ウレバルプラスクリーム 80g	大冢薬品工業	2024/11/19	
ウレバルプラスローション10 100ml×10箱×4個	大冢薬品工業	2024/11/19	
ウレバルプラスローション10 100ml×10箱	大冢薬品工業	2024/11/19	
ウレバルプラスローション10 100ml	大冢薬品工業	2024/11/19	
漢方せき止めトローチS「寒門冬薬」 18錠	小太郎漢方製薬	2024/11/19	
フルナーゼ点鼻薬（季節性アレルギー専用） 8ml	Haieon ジャパン	2024/11/20	
チオビタゴールド 30ml	大冢薬品工業	2024/11/20	

【OTC 医薬品最新情報画面】



【税控除情報】

医療費医薬品購入に係る税控除について

■薬局、店舗販売業に関連する部分を抜粋（令和6年12月31日現在）
介護保険に係る部分は、薬局、店舗販売業が関連することはありません。

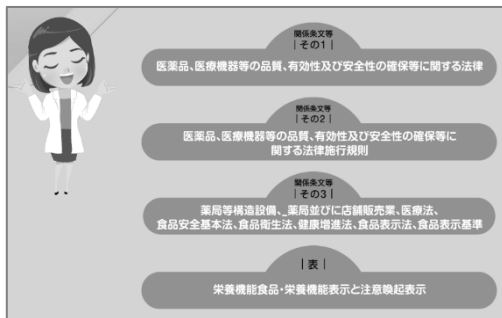
1. 医療費控除（確定申告による通常の医療費控除）

「医療費控除の特例（セルフメディケーション税制）」を受けた場合は、医療費控除（通常の医療費控除）を受けることはできません。

① 控除の対象
1月1日～12月31日の期間で、実際に支払った下記の医療費が控除の対象となります
※ 生計を一にする配偶者、その他親族のために支払った「医療費」が対象
※ 「治療」や「療養」に必要な医薬品の購入の対価が、対象となる

《対象となるもの：例》
医師・歯科医師による診療等を受けるために直接必要なもののうち、以下の費用
・通院費、医師等の送迎費
・入院の対価として支払う部屋代、食事代
・医療用具の購入費用（医師の指示による）

【関係条文画面】



【関係条文】

（参考）関係条文等
○ 医薬品医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和35年法律第145号）抄

（目的）
第一条 この法律は、医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器及び再生医療等製品（以下「医薬品等」という）の品質、有効性及び安全性の確保並びにこれらの使用による保健衛生上の危害の発生及び拡大の防止のために必要な規制を行うとともに、指定薬物の規制に関する措置を講ずるほか、医療上特にその必要性が高い医薬品、医療機器及び再生医療等製品の研究開発の促進のために必要な措置を講ずることにより、保健衛生の向上を図ることを目的とする。

○ 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行規則（昭和36年厚生省令第1号）抄

（開設の申請）
第一条 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（以下「法」という）第四条第二項の申請書は、様式第一によるものとする。
2 法第四条第二項第六号の厚生労働省令で定める事項は、次のとおりとする。
一 通常の営業日及び営業時間

【ハラスメントシチュエーション選択画面】



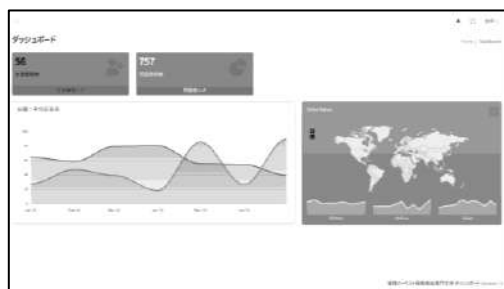
【ゲーム感覚で学ぶ】



(3) 補助教材アプリ開発【管理者画面】

e-learning の管理、受講者の進捗管理をはじめ、神経系と消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。10 問を 1 回とし、5 回まで設定可能。全体を網羅する場合は、ランダム。神経系に絞りたい場合は選択して出題といった方法で出題できる。また、過去に出題した問題は管理されているため、そこから容易に引き出すこともできる。

【管理者画面 (e-learning)】



【過去 5 年過去問数】

ID	問題	年次	所属
101	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2019 年度	消化器系
102	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2018 年度	消化器系
103	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2017 年度	消化器系
104	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2016 年度	消化器系
105	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2015 年度	消化器系
106	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2014 年度	消化器系
107	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2013 年度	消化器系
108	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2012 年度	消化器系
109	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2011 年度	消化器系
110	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2010 年度	消化器系

【ランダム出題や選択出題可能】

問題番号	問題	年次	所属
101	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2019 年度	消化器系
102	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2018 年度	消化器系
103	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2017 年度	消化器系
104	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2016 年度	消化器系
105	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2015 年度	消化器系
106	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2014 年度	消化器系
107	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2013 年度	消化器系
108	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2012 年度	消化器系
109	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2011 年度	消化器系
110	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2010 年度	消化器系

【過去に出題した問題を保存】

問題番号	問題	年次	所属
101	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2019 年度	消化器系
102	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2018 年度	消化器系
103	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2017 年度	消化器系
104	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2016 年度	消化器系
105	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2015 年度	消化器系
106	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2014 年度	消化器系
107	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2013 年度	消化器系
108	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2012 年度	消化器系
109	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2011 年度	消化器系
110	消化器系に関する過去 5 年間の過去問題からランダムと選択の両方で出題可能。	2010 年度	消化器系

(4) 受講者仕様書

受講者用が受講前に使い方を確認する

新規登録、ログインについて

インターネット環境があれば新規登録でき、ID、パスワードを発行できます。

発行したID、パスワードをログイン画面で入力しログインできます。

【新規登録、ログイン手順】

①新規登録ボタンを押します。

※既にログインID、パスワードを発行している場合は、そちらを入力しログインしてください。

②メールアドレス、名前電話番号を入力し、登録ボタンを押すと、入力したメールアドレスにユーザー登録完了メールが届きます。

※現在テストサーバーのため、GmailやYahoo!mail等を登録の方は、登録完了メールが迷惑メールフォルダにはじかれてしまいます。

③メールを確認します。

【ユーザー登録完了】姫路ハーベスト医療福祉専門学校

from@test.com
宛先: 自分

ログインID: 12345678901234567890
パスワード: 12345678901234567890

④メールに記載してあるログインIDとパスワードを入力し、ログインボタンを押すとTOPメニュー画面が開きます。

令和6年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
一般用医薬品販売資格（登録販売者）に関するアップデートプログラム事業

ログインIDはメールアドレスをご使用下さい。
ユーザーが新規登録されました。
メールに記載されたIDとPWでログインしてください。

ログインID: 12345678901234567890
パスワード: 12345678901234567890

ログイン
新規登録

姫路ハーベスト医療福祉専門学校

管理者ログイン

↓

令和6年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
一般用医薬品販売資格（登録販売者）に関するアップデートプログラム事業

ユーザー: テスト 太郎

登録販売者
資格取得向け

登録販売者
有資格者向け
ステップアップ

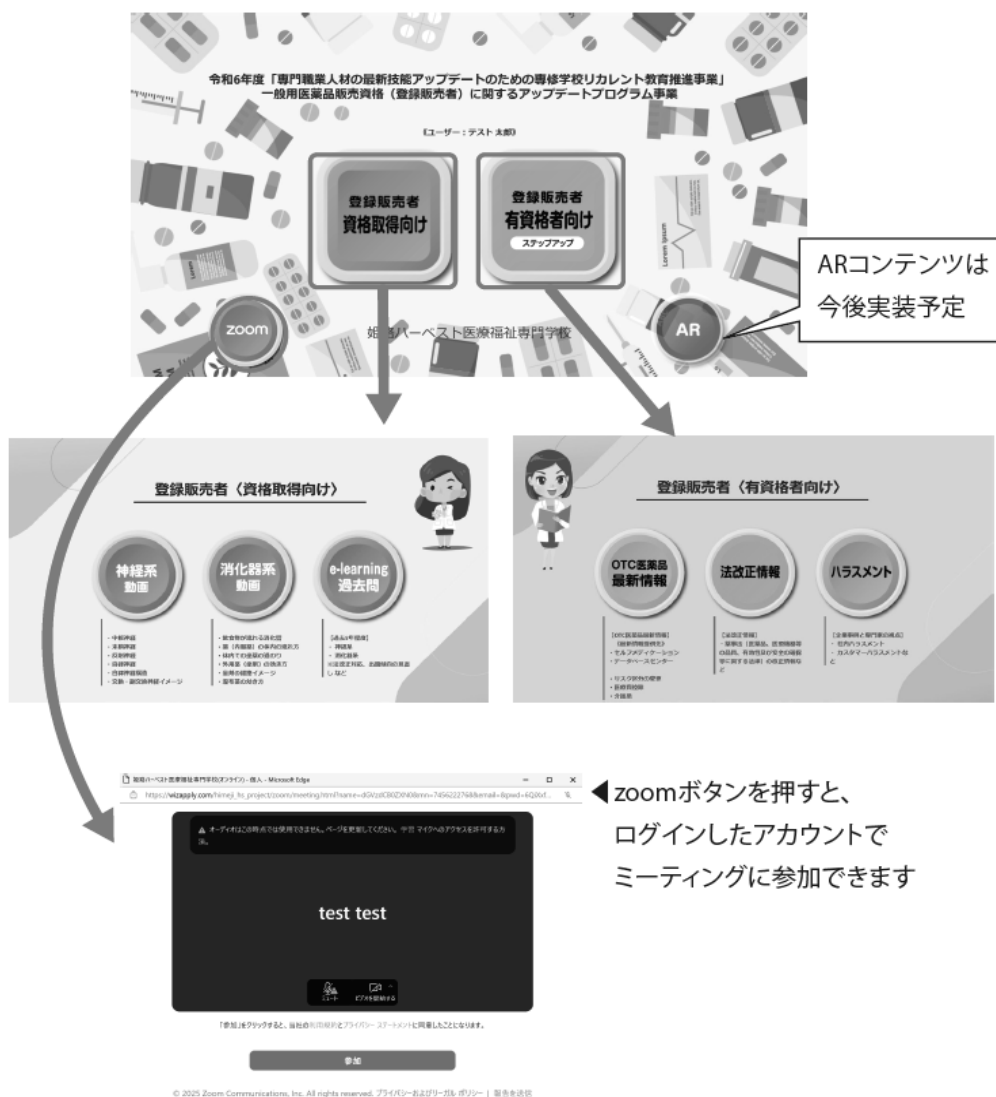
姫路ハーベスト医療福祉専門学校

トップメニュー

登録販売者の資格を取得するための学習と、すでに資格を取得した方が実務で活かせる知識やスキルを身につけるための学習コンテンツを提供しています。具体的には、資格取得向けと有資格者向けの2つのメニューがあります。

【操作方法】

登録販売者資格取得向け、登録販売者有資格者向け、zoomの3つのボタンがあるので押すとそれぞれのページへ移行します。



登録販売者 資格取得向け

資格取得者向けには、神経系動画、消化器系動画、およびe-learning過去問の3つの学習コンテンツがあります。

神経系動画および消化器系動画では、動画を通じて学習し、動画ごとの○×問題を解くことで理解を深めることができます。

e-learning過去問は、1回あたり10問の問題を過去5年分の過去問題からランダムに出題します。

動画コンテンツ

神経系と消化器系の2種類の動画コンテンツがあります。

神経系、消化器系の各事象ごとの動画があり映像と音声で理解が深まります。

【操作方法】

神経系動画、消化器系動画のいずれかのボタンを押すと各メニューが表示されます。



▲各メニューが表示されるので、それぞれのボタンを押すと対応する動画を視聴できます。

▼画面をクリックで一時停止or再生できます。



プログレスバーを操作して動画を進めたり戻したりできます。
また、音量の調整や、画面の拡大、再生速度の調整ができます。

問題ボタンを押すと、
○×問題が表示されます。

○×問題コンテンツ

各動画には問題ボタンがあり、動画に関連する○×問題が出題され、動画で学習した内容を確認しながら答えることができます。これにより、学習内容の定着を図るとともに、自分の理解度を確認することができます。

【操作方法】



◀問題を解き、○×いずれかのボタンを選択します。
問題は毎回ランダム5問出題されます。

動画に関する○×テスト

#	問題	選択
1.	自律神経系に関する以下の記述の正誤について、○か×で答えよ。 ・自律神経系は、交感神経系と副交感神経系からなる。	○ ×
2.	以下の末梢神経系に関する以下の記述について、()の中に入っている文字は正しいか、○か×で答えよ。 交感神経の節後神経の末梢から放出される神経伝達物質は「アセチルコリン」であり、副交感神経の節後神経の末梢から放出される神経伝達物質は「ノルアドレナリン」である。ただし、汗腺を支配する交感神経の末梢では、例外的に「ノルアドレナリン」が伝達物質として放出される。 交感神経が活発になっているときは、瞳孔は（収縮）し、心拍数は（減少）する。	○ ×
3.	交感神経系に関する以下の記述の正誤について、○か×で答えよ。 ・交感神経系が活発になると、瞳孔が収縮し、心拍数は増加する。	○ ×
4.	末梢神経系に関する以下の記述の正誤について、○か×で答えよ。 ・交感神経系は瞳孔を収縮させ、副交感神経系は瞳孔を拡大させる効果をもたず。	○ ×
5.	末梢神経系に関する以下の記述の正誤について、○か×で答えよ。 ・交感神経の節後神経の末梢から放出される神経伝達物質は「ノルアドレナリン」であり、副交感神経の節後神経の末梢から放出される神経伝達物質は「アセチルコリン」である。	○ ×

評価

◀○×ボタンを選択するとボタンが点灯します。

すべてのボタンを選択し終わると評価ボタンが点灯します。



動画に関する○×テスト

#	問題	選択
1.	自律神経系に関する以下の記述の正誤について、○か×で答えよ。 ・自律神経系は、交感神経系と副交感神経系からなる。	○ ×
【解答】 ○ 正解 【解説】 記述文章通り。		
2.	以下の末梢神経系に関する以下の記述について、()の中に入っている文字は正しいか、○か×で答えよ。 交感神経の節後神経の末梢から放出される神経伝達物質は「アセチルコリン」であり、副交感神経の節後神経の末梢から放出される神経伝達物質は「ノルアドレナリン」である。ただし、汗腺を支配する交感神経の末梢では、例外的に「ノルアドレナリン」が伝達物質として放出される。 交感神経が活発になっているときは、瞳孔は（収縮）し、心拍数は（減少）する。	○ ×
【解答】 × 正解 【解説】 () 内の正しい文字は、ノルアドレナリン、アセチルコリン、アセチルコリン、拡大、増加の順である。交感神経の節後神経の末梢から放出される神経伝達物質はノルアドレナリンであり、副交感神経の節後神経の末梢から放出される神経伝達物質はアセチルコリンである。ただし、汗腺を支配する交感神経の末梢では、例外的にアセチルコリンが伝達物質として放出される。交感神経が活発になっているときには、瞳孔は拡大し、心拍数は増加する。		
3.	交感神経系に関する以下の記述の正誤について、○か×で答えよ。 ・交感神経系が活発になると、瞳孔が収縮し、心拍数は増加する。	○ ×
【解答】 × 不正解 【解説】 交感神経系が活発になると、少量の瞳孔の収縮を伴い、心拍数は増加し、気管や気管支は収縮する。		
4.	末梢神経系に関する以下の記述の正誤について、○か×で答えよ。 ・交感神経系は瞳孔を収縮させ、副交感神経系は瞳孔を拡大させる効果をもたず。	○ ×
【解答】 × 正解 【解説】 交感神経系は瞳孔を拡大させ、副交感神経系は瞳孔を収縮させる効果をもたず。		
5.	末梢神経系に関する以下の記述の正誤について、○か×で答えよ。 ・交感神経の節後神経の末梢から放出される神経伝達物質は「ノルアドレナリン」であり、副交感神経の節後神経の末梢から放出される神経伝達物質は「アセチルコリン」である。	○ ×
【解答】 ○ 正解 【解説】 記述文章通り		

あなたの正解数は: 4/5

◀評価ボタンを押すと解答・解説、正答数が表示されます。

正解は緑、不正解は赤で解答・解説が表示されます。

39

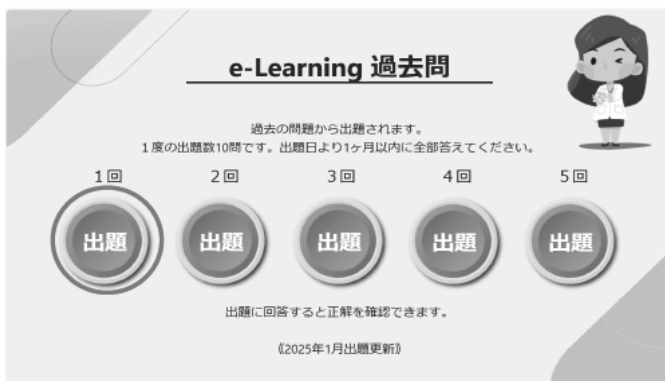
e-learning-過去問

1回10問の過去問題をランダムに出題します。出題される問題は、登録販売者試験の過去問を基にしており、受験者が実際の試験に慣れることができるように設計されています。各回のテスト終了後、その場で解答と解説を見ることができるため、理解が深まります。

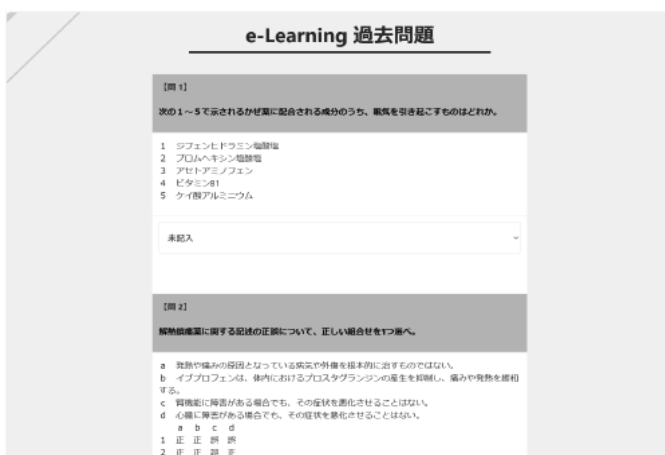
【操作方法】



◀e-learning過去問ボタンを選択するとメニューページへ



◀出題ボタンを押すと問題が表示されます



e-Learning 過去問題

【問 1】

次の 1～5 で示される **かぜ薬** に配合される成分のうち、**悪寒**を引き起こすものはどれか。

1 イブプロフェン

2 プロピロフェン

3 アセトアミノフェン

4 ビタミンB1

5 ケイ酸アルミニウム

未記入

答え

未記入

1

2

3

4

5

b イブプロフェンは、体内におけるプロスタグランジンの産生を抑制し、痛みや発熱を緩和する。

c 胃腸病に障害がある場合でも、その症状を悪化させることはない。

d 心臓に障害がある場合でも、その症状を悪化させることはない。

a b c d

1 正 正 誤 誤

2 正 正 誤 正

3 正 誤 誤 誤

4 誤 誤 正 正

5 誤 誤 正 誤

未記入

【問 2】

解熱鎮痛薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a 多くの解熱鎮痛薬には、体内におけるプロスタグランジンの産生を促す成分が配合されて

◀未記入ボタンを押すと、数字が表示されます。その中から、当てはまる選択肢の数字を選択していきます

アスピリンに関する次の記述について、正しいものを1つ選びなさい。

1 アスピリンは、15歳未満の小児に対しては、一般用医薬品として使用できる。

2 アスピリンは、胎児や出産時の母体の影響を考慮して、出産予定日1週間以内の使用を避ける。

3 アスピリンは、他の解熱鎮痛成分と比較して胃腸障害を起こしにくく、胃粘膜への悪影響がない。

4 アスピリンは、まれに重篤な副作用として肝機能障害を生じることがあり、主な症状に、全身倦怠感、黄疸のほか、発熱、発疹、皮膚の腫痛感、吐き気がある。

1

【問 10】

解熱鎮痛成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

a アセトアミノフェンには血液を凝固しにくくさせる作用があり、医薬用医薬品として、血栓ができやすいに對する血栓予防薬の成分としても用いる。

b イブプロフェンとアスピリンは、解熱及び鎮痛の作用は比較的高いが、抗炎症作用は低い。

c 他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合される。

d イブプロフェンはアスピリンに比べて腎臓への悪影響が大きくなり、腎臓に対する副作用に注意が必要である。

e サリチル酸は、15歳未満の小児に対しては、いかなる場合も一般用医薬品として使用してはならない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

3

解答

◀すべての問題を解答し終えたら、ページ最下部の解答ボタンを押します

41

【問 1】
かぜ薬に配合される成分とその主な作用の関係について、正しいものを組合せを下記から選びなさい。

（配合成分）	（主な作用）
a セミアルカリプロピドナーゼ	— 抗炎症作用
b ノスカピン	— 鼻汁分泌抑制作用
c クロルフェニラミンマレイン酸塩	— 鎮痛作用
d プロムヘキシシン塩酸塩	— 去痰作用

1 (a, b) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (c, d)

×不正解（あなたの解答：1）

【答え】 2
【解説】
a 正
b 誤 ノスカピンは、痰を稀える成分である。
c 誤 クロルフェニラミンマレイン酸塩は、くしゃみや鼻汁を稀える成分である。
d 正

【問 2】
かぜ薬に配合される成分及びその期待される主な作用の関係について、正しい組み合わせを下記から一つ選びなさい。

成分	作用
ア グアヤコルスルホン酸カリウム	— 炎症による腫れを和らげる
イ メチルエフェドリン塩酸塩	— 鼻粘膜の充血を和らげ、気道・気管支を広げる
ウ ノスカピン	— 痰を稀える
エ クレマスチンブマル酸塩	— 発熱を鎮め、痛みを和らげる

1 (ア、イ) 2 (ア、エ) 3 (イ、ウ) 4 (ウ、エ)

○正解（あなたの解答：3）

【答え】 3
【解説】
ア 誤 グアヤコルスルホン酸カリウムは、腫れを和らげる成分である。記述は、セミアルカリプロピドナーゼ、プロメタリン、グリチルリチン酸二カリウム等に関する記述である。
イ 正
ウ 誤
エ 誤

◀ 解答・解説が表示されます

×不正解（あなたの解答：未解答）

【答え】 4
【解説】
a 誤 アセトアミノフェンは、主として中脳作用によって解熱・鎮痛をもたらすため、末梢における抗炎症作用は期待できない。記述の文は、アスピリンに関する記述。
b 正
c 誤 イブプロフェンはアスピリン等と比べて腎臓への悪影響が少なく、抗炎症作用も示すことから、頭痛、経痛、月経痛（生理痛）、腰痛等に使用されることが多い。
d 正

ページ最下部に正解数が表示されます。

《正解数》
10問中 0問 正解
選択に戻る

選択に戻るボタンでelearningのメニューページへ戻ります

e-Learning 過去問

過去の問題から出題されます。
1度の出題数10問です。出題日より1ヶ月以内に全部答えてください。

1回 2回 3回 4回 5回

済み 出題 出題 出題 出題

出題に回答すると正解を確認できます。

《2025年1月出題更新》

◀ 1回の出題問題を終わると、出題ボタンが済みボタンに変わります。
済みボタンを押すと、解答・解説画面が表示されます。

登録販売者 有資格者向け

有資格者向けには、OTC医薬品最新情報、法改正情報、ハラスメントの3つの学習コンテンツがあります。これらのコンテンツは、資格取得後も役立つ情報を提供し、実務におけるスキルと知識を向上させることを目指しています。



OTC医薬品最新情報

最新の医薬品に関する情報を定期的に更新し、現場での適切な判断と対応をサポートします。新薬の発売情報や既存薬の改訂情報、使用上の注意点などを詳しく学ぶことができます。

【操作方法】



◀いずれかのボタンを選択します。
※現在機能するボタンは、OTC 医薬品最新情報、医療費控除のみです。
介護系とリスク区分の変更は今後更新します。

OTC医薬品最新情報			
品名・内容量	販売元	改定日	
ウレバールプラスクリーム 80g×10箱×4箱	大鵬薬品工業	2024/1/14	
ウレバールプラスクリーム 80g	大鵬薬品工業	2024/1/14	
ウレバールプラスクリーム 10g	大鵬薬品工業	2024/1/14	
ウレバールプラスクリーム 10g	大鵬薬品工業	2024/1/14	
ウレバールプラスクリーム 10g	大鵬薬品工業	2024/1/14	
ウレバールプラスクリーム 10g	大鵬薬品工業	2024/1/14	
ウレバールプラスクリーム 10g	大鵬薬品工業	2024/1/14	
ウレバールプラスクリーム 10g	大鵬薬品工業	2024/1/14	
ウレバールプラスクリーム 10g	大鵬薬品工業	2024/1/14	
ウレバールプラスクリーム 10g	大鵬薬品工業	2024/1/14	

医療費医薬品購入に係る税控除について

■薬局、店頭販売薬に該当する部分を除外（令和6年12月31日現在）
介護保険に係る部分は、薬局、店頭販売薬が関連することはないので対象外です

1. 医療費控除（確定申告による通常の医療費控除）

「医療費控除の特例（セルフメディケーション税制）」を受けた場合は、医療費控除（通常の医療費控除）を受けることはできない

①控除の対象

1月1日～12月31日の期間で、実際に支払った下記の医療費が対象となります

※主計を一にする配偶者、その他親族のために支払った「医療費」が対象
※「治療」や「療養」に必要な医薬品の購入の対価が、対象となる

《対象となるもの：例》

- 医師・歯科医師による診療等を受けるために直接必要なものうち、以下の費用
 - ・通院費、医師等の送迎費
 - ・入院の対価として支払う部屋代、食事代
 - ・医療用器具の購入賃借の費用（医師の指示による）
 - ・義手、義足、松葉杖、義歯、聴覚や補聴器の購入費用
 - ・6か月以上寝たきりの人のおむつ代で、その人を治療している医師が発行した「おむつ使用証明書」のあるもの

品名・内容量、販売元、改定日が記載された表が表示されます。表の各行がそれぞれの商品のボタンになっており、ボタンを押すと医薬品の詳細が表示されます。

ウレバールプラスクリーム 80g×10箱×4/80g×10箱/80g

大鵬薬品工業

かゆみはかゆみ止めで止める

ウレバールプラスクリーム

保湿

肌本来

かゆみを伴う乾燥肌に

保湿剤（医薬品）

乾燥性皮膚治療薬

ウレバールプラスクリーム

2024

エプソムやアムニオンによる保湿効果の持続により、季節に合わせた保湿が実現し、肌を乾燥から守ります。また、保湿効果、保湿の持続により、乾燥の症状が軽減し、肌の状態が改善されます。また、保湿効果、保湿の持続により、乾燥の症状が軽減し、肌の状態が改善されます。また、保湿効果、保湿の持続により、乾燥の症状が軽減し、肌の状態が改善されます。

●ウレバールプラスクリームの特徴

乾燥性皮膚に伴うかゆみを抑え、保湿効果を高め、肌の状態を改善します。

乾燥対策

かゆみ止め対策

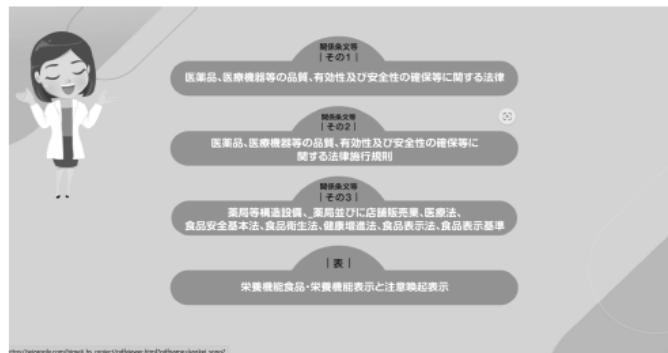
●こんなカサカサ皮膚に効果があります。

法改正情報

薬事法や関連法規の改正に関する最新情報を提供し、法令遵守の重要性を理解するためのサポートを行います。

【操作方法】

各ボタンを押すと、法改正についての文章が表示されます



【参考】関係条文
○医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律
(昭和35年法律第145号) 抄

【目的】
第一条 この法律は、医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器及び再生医療等製品(以下「医薬品等」といふ。)の品質、有効性及び安全性の確保並びにこれらの使用による保健衛生上の危害の発生及び拡大の防止に必要な規制を行うために、自主規制の促進に関する措置を講ずるほか、医療上特にその必要性が高い医薬品、医薬部外品及び再生医療等製品の研究開発の促進のために必要な措置を講ずることにより、保健衛生の向上を図ることを目的とする。

【法の責務】
第二条 この法律の目的を達成するため、医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保、これらの使用による保健衛生上の危害の発生及び拡大の防止その他の必要な措置を策定し、及び実施、なげねばならない。

【製造工程等の義務】
第三条 製造工程、地域保健法(昭和二十二年法律第四号)第五十三条の政令で定める市(以下「保健所を設ける市」といふ。)及び特別区は、前条の施策に際し、国との適切な役割分担を講ずる等、当該地域の状況に応じた施策を実施し、及び実施しなげねばならない。

【医薬品等関連事業者等の義務】
第四条 医薬品等の製造販売、製造(小分けを含む。以下同じ。)、販売、貸与若しくは譲渡を業とし

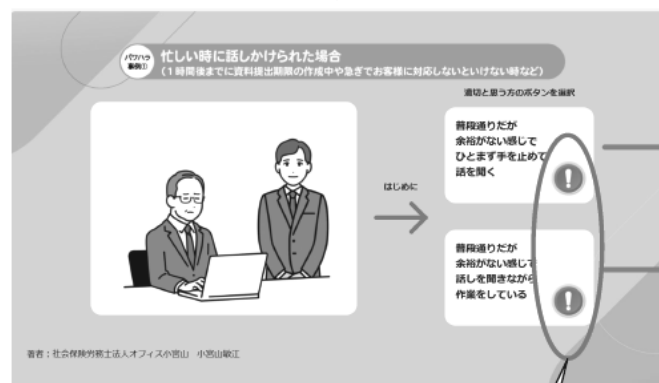
ハラスメント

職場でのハラスメントに関する学習コンテンツを通じて、効果的な対策と予防の方法を学びます。アニメーションを用いたわかりやすい解説で、ハラスメントの種類や影響、具体的な対応策についての理解を深めることができます。

【操作方法】

各ボタンを押すと、それぞれの事例に対応したアニメーションが再生されます。

※現在利用できるのはパワハラ事例①、②のみです



当てはまると思うボタンを選択していきます。
ボタンを押すと次のアニメーションページへ進みます。

(5) 管理者仕様書

管理者が e-learning を行う場合の管理の仕方

管理者画面

管理者画面では、生徒の登録情報の管理、各生徒の学習の進捗状況や成績の確認、e-learning過去問の出題管理などを行うことができます。これにより、管理者は生徒一人ひとりの学習状況を詳細に把握し、生徒に応じた的確な指導が提供できるようになります。さらに、問題の出題傾向を分析し、必要に応じて出題内容を調整することで、効果的な学習支援を実現します。

管理者ログイン手順

①入口画面右下にある管理者ログインボタンから管理者画面へ入ることができます。



②ユーザー名とパスワードが求められるので入力し、ログインボタンを押すと管理者画面ページへ入ることができます。

ログイン

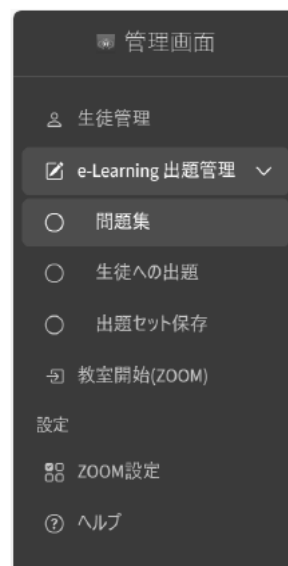
<https://wizapply.com>

ユーザー名

パスワード

管理者画面TOP

生徒管理、問題管理、問題の平均正答数グラフを見ることができます。



生徒管理

生徒の登録、各生徒のe-learning進捗状況の確認、生徒の詳細情報を確認できます。

こちらからでも生徒を登録できるようにする予定です。

生徒管理

生徒登録

名前 (姓) 名前 (名)

メールアドレス(必須) パスワード

電話番号

性別 ☐ 生徒情報 ☐ 生徒情報更新時の変更有無

登録

生徒一覧

ID	名前	メールアドレス	e-Learning進捗率(今月分)	登録日
01	山田 太郎	tanaka.taro@example.com		2025年02月18日
02	山田 太郎	tanaka.taro@example.com		2025年02月18日
03	山田 太郎	tanaka.taro@example.com		2025年02月18日
04	山田 太郎	tanaka.taro@example.com		2025年02月18日

生徒一覧です。
IDの数字を押すと、各生徒の詳細情報が表示されます。

今月分の
elearningの進捗状況が簡単なグラフで表示されます。

生徒の詳細情報

生徒の詳細

登録番号 1

名前 タスト 太郎

メールアドレス kato.taro@example.com

電話番号 kato.taro@example.com

削除

生徒の成績表

e-Learning進捗率(今月分)

e-Learning正解率(今月分)

今月分のelearningの進捗状況や正解率がグラフで表示されます。

削除ボタンで、登録してある生徒の情報を削除することができます。

e-learning出題管理 — 問題集と管理

問題の登録や管理、登録した問題の一覧を見ることができます。

ここに問題文解答、解説等を入力し、登録ボタンを押すと、問題一覧に追加されます。

コメント欄に、各問題が消化器系か神経系かを記載します。これにより、ランダムセット機能を使用した際に、消化器系の問題が7問、神経系の問題が3問の割合でランダムに選出されます。

問題一覧です。
問題のID（数字）を押すと問題の修正が可能です。

問題集と管理 Home / DrillBook

問題を登録 (Markdown形式)

表題

問題

解説

答え 1

コメント(ランダム・検索用)

登録 CSVで一括登録

問題一覧

ID	表題	答え	コメント	作成日
757	腎臓薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。	3	2023年度 消化器系	2025年01月22日
756	腎臓薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを1つ選ばない。	3	2023年度 消化器系	2025年01月22日
755	腎臓薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。	2	2023年度 消化器系	2025年01月22日
754	腎臓薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。	2	2023年度 消化器系	2025年01月22日

問題集の修正 Home / DrillBook / DrillBook Detail

問題集の修正 (Markdown形式)

表題

問題

解説

答え 5

コメント(ランダム・検索用) 2023年度 消化器系

修正 削除

▲修正ボタンを押すと修正内容が反映されます。

削除ボタンを押すとその問題は削除されます。

e-learning出題管理 — 生徒への出題・登録・修正

生徒へ出題する問題を登録できます。

1セットは10問を5回分で構成されています。

補助機能として、ランダムセットボタンを配置。
このボタンを押すと、消化器系7問、神経系
3問の割合で問題がランダム選出されます。

設定年月を選択して表示ボタンを押すと、
その年月に設定した問題を表示できます。

確定ボタンで問
題を登録するこ
とができます

問題番号を入力
してお好みの問
題を出題するこ
とも可能です

生徒への出題 登録・修正			
バージョン			
設定年月	2025年01月	表示	確定
補助機能	ランダムセット	セットを選択	セット実行
問題1 設定			
#	問題番号	表題	コメント
問1	258	脳や神経系の働きに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。	2022年度 神経系
問2	591	腎臓に作用する薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。	2021年度 消化器系
問3	481	胆汁及び肝臓に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。	2020年度 消化器系
問4	67	脳筋を促す薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。	2019年度 神経系
問5	649	次の表は、一般用医薬品に含まれている主な有効成分の量を示したものである。この医薬品に関する記述のうち、正しい組み合わせはどれか。	2022年度 消化器系
問6	509	健胃を目的とした生薬成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。	2020年度 消化器系
問7	484	消化と代謝に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。	2020年度 消化器系
問8	400	消化器系とビタミンの関わりに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。	2019年度 消化器系



「セットを選択ボタン」を押すと
保存したテストのセットを呼び出したり
新しくセットを作成することができます

新規作成を選択し
セット名を入力。
「セットを作成」で
保存されます

新規作成の場合

テストセット2 セットを作成

セットを選択

セットを選択

テストセット1

<新規作成...>

セット実行

既存のセットを
選択する場合

テストセット1 セット実行

▲セットを選び実行ボタンを押すと
選択したセットが表示されます

セットを選択

セットを選択

テストセット1

テストセット2

<新規作成...>

▲保存したセットが反映されます

e-learning出題管理 — 出題セットの保存一覧

保存した問題の確認や削除ができます。

セットを選択し、「セットを表示」ボタンで
選択したセットが表示されます

「セットを削除」ボタンで表示されている
セットの削除ができます

出題セットの保存一覧 Home / Drill Set

オペレーション

出題セット テストセット1 セット表示 セット削除

問題1 設定

#	問題番号	表題	コメント
問1	362	脱乳を促す薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。	2013年度 神経系
問2	749	流膿薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。	2013年度 消化器系
問3	637	薬の吸収に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。	2012年度 消化器系
問4	166	鎮痛薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。	2010年度 神経系
問5	148	脱乳を促す薬とアルコールの相互作用に関する記述について、() に入力するべき文字の正しい組み合わせを一つ選べ。	2010年度 神経系
問6	152	脱乳を促す薬とその配合成分等に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下の欄から選びなさい。	2010年度 神経系
問7	622	消化器系に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。	2012年度 消化器系
問8	464	消化器系に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。	2010年度 消化器系
問9	627	次の消化酵素のうち、胃内においてタンパク質を消化する酵素として働くものはどれか。	2012年度 消化器系
問10	474	小腸に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。	2010年度 消化器系

問題2 設定

#	問題番号	表題	コメント
問1	205	かぜ（感冒）の症状の緩和に用いられる漢方処方製剤に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。	2011年度 神経系

教室開始(ZOOM)、ZOOM設定

管理者メニューから教室開始(ZOOM)ボタンを押すことでzoomを開始できます。

ZOOM設定を押すとZOOM API画面が表示されミーティングID、パスワードの設定ができます。



2. 実証実験

(1) 実証実験

①実施先・人数・日時

実施先	人 数	日 時
姫路ハーベスト医療福祉専門学校	14名	令和7年2月6日(木) 9:00~12:10
北日本医療福祉専門学校	13名	令和7年2月18日(火) 9:00~10:30

③対象:

登録販売者資格取得を目指す専門学校1年生

(2) 実証授業風景およびアンケート

①実証授業風景(姫路ハーベスト医療福祉専門学校)



②アンケート結果

1.以下の動画についてお聞きます。

動画を見ることでイメージでき、理解しやすくなった感じましたか。

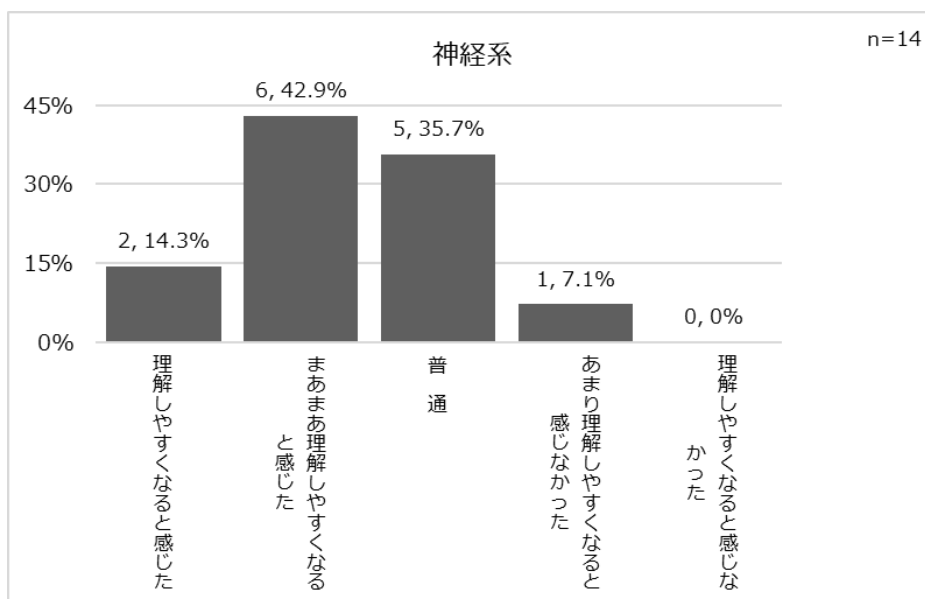
ア～オのいずれかに○を付けてください。また、どのようにすればもっと分かりやすくなるか、楽しく学べるかなど、ご意見をあわせてお書きください。

(1)神経系（中枢神経、末梢神経、反射、体性神経・自律神経などについて）

項 目	回 答	割 合
ア 理解しやすくなったと感じた	2	14.3%
イ まあまあ理解しやすくなったと感じた	6	42.9%
ウ 普 通	5	35.7%
エ あまり理解しやすくなったと感じなかった	1	7.1%
オ 理解しやすくなったと感じなかった	0	0%

14 100%

主に、動画と問題の出し方の選定が求められること。
問題と解答の校正を徹底することが求められる。



《コメント》

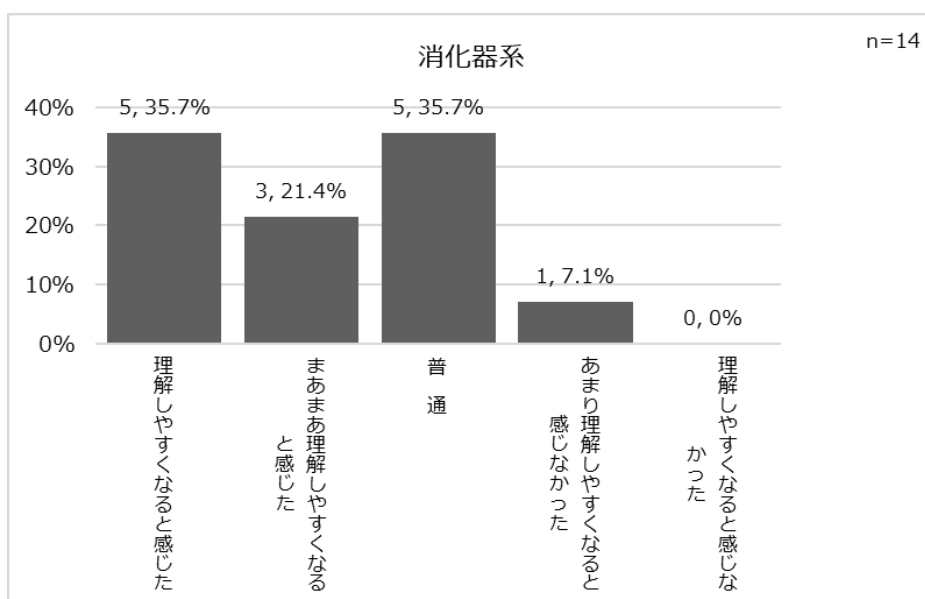
- ・絵があったから分かりやすいと思った
- ・動画と問題がちょっと違っていた
- ・過去問をする回数を増やしてほしい
- ・解説の動画（間違えたところ）があるともっとわかりやすくなる
- ・日本語が難しかった
- ・神経系の中での各動画の問題が混ぜ混ぜだったから

- ・中枢神経・反射では、中枢神経と反射の問題を出したらいいと思った
- ・説明が難しかった

(2)消化器系（食べ物が体の中を流れるイメージと各消化器管の役割イメージ）

項 目	回 答	割 合
ア 理解しやすくなったと感じた	5	35.7%
イ まあまあ理解しやすくなったと感じた	3	21.4%
ウ 普 通	5	35.7%
エ あまり理解しやすくなったと感じなかった	1	7.1%
オ 理解しやすくなったと感じなかった	0	0%
	14	100%

主に、イラストの改善が十分ではなかった。
問題と解答の校正を徹底することが求められる。



《コメント》

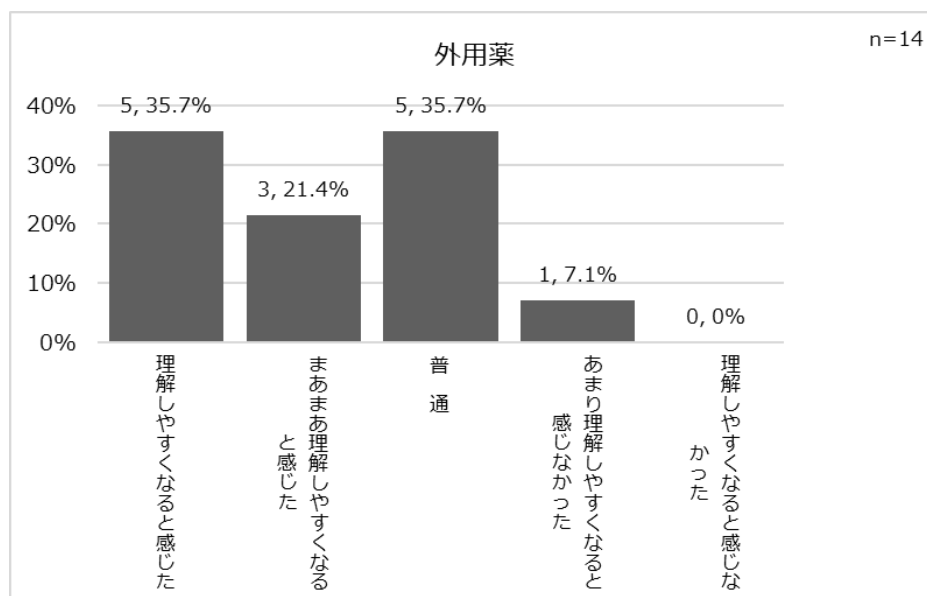
- ・授業では寝てしまうのに、動画と問題をやれば覚えやすく起きておくことができた
- ・イラストをもっとわかりやすくしてほしい
- ・問題と解答が違っているところがあった
- ・動画と連動していないところが出ていたので、それが直してほしい
- ・説明が難しかった

(3)外用薬（坐剤や湿布の効き方）

項 目	回 答	割 合
ア 理解しやすくなったと感じた	5	35.7%
イ まあまあ理解しやすくなったと感じた	3	21.4%
ウ 普 通	5	35.7%
エ あまり理解しやすくなったと感じなかった	1	7.1%
オ 理解しやすくなったと感じなかった	0	0%

主に、イラストの改善が十分ではなかった。

14 100%



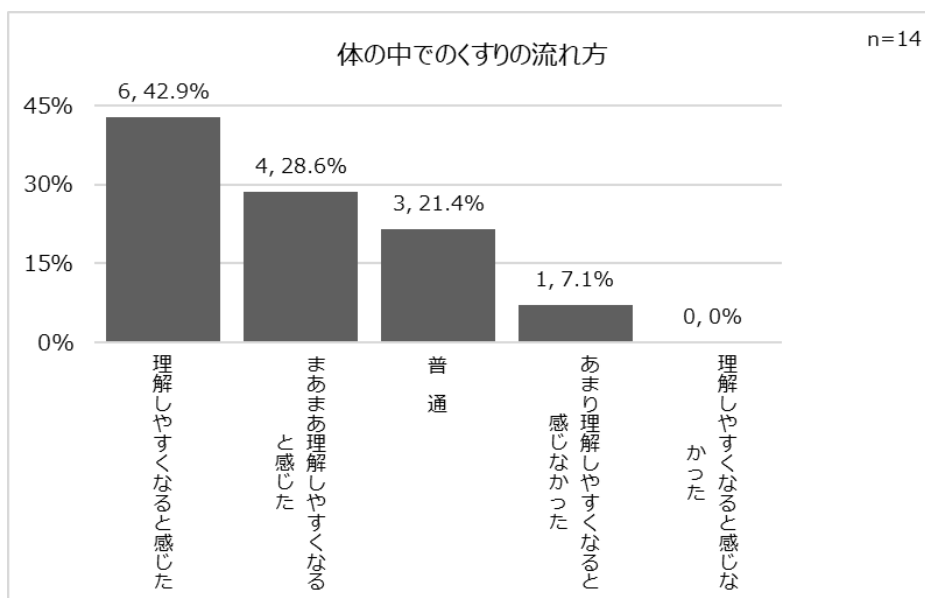
《コメント》

- ・外用薬の動画を見て役に立った
- ・内服薬とイラストを分けてほしい
- ・わかりやすい
- ・動画と連動していないところが出ていたので、それが直してほしい
- ・説明が難しかった

(4)体の中でのくすりの流れ方（内服薬と坐剤）

項 目	回 答	割 合
ア 理解しやすくなると感じた	6	42.9%
イ まあまあ理解しやすくなると感じた	4	28.6%
ウ 普 通	3	21.4%
エ あまり理解しやすくなると感じなかった	1	7.1%
オ 理解しやすくなると感じなかった	0	0%
	14	100%

わかりやすさの声はあるが、イラストの改善が十分ではなかった。



《コメント》

- ・内服薬の色が背景と似ていて見えにくかった
- ・坐剤も背景が一緒で見えにくかった
- ・外用薬とイラストを分けてほしい
- ・わかりやすい
- ・動画と連動していないところが出ていたので、それが直ってほしい

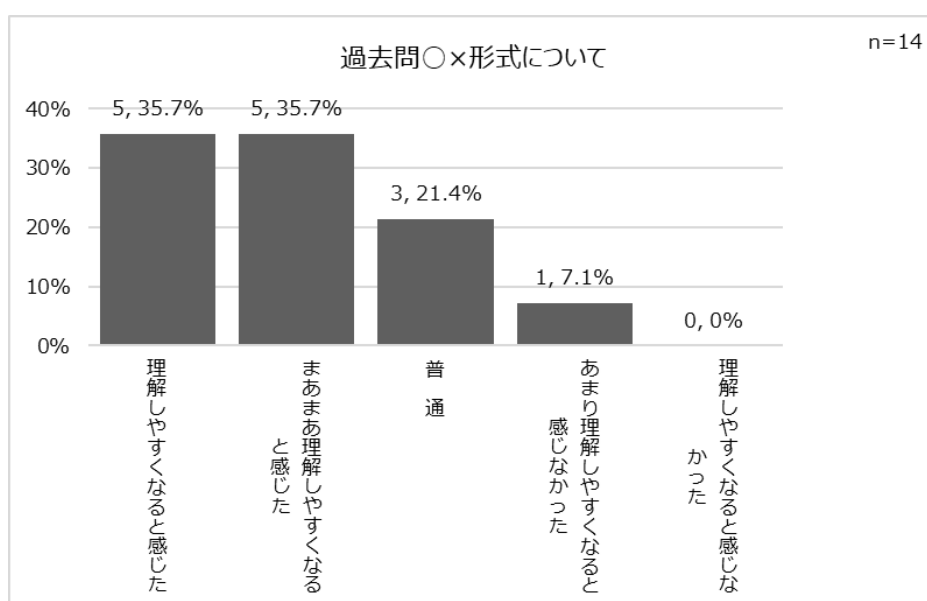
2.過去5年分過去問を○×形式で動画と連動させて取り入れたことに関して理解しやすくなると感じましたか。

下記のア～オのいずれかに○を付けてください。また、どのようにすればもっと分かりやすくなるか、楽しく学べるかなど、あわせてご意見をお書きください。

項 目	回 答	割 合
ア 理解しやすくなると感じた	5	35.7%
イ まあまあ理解しやすくなると感じた	5	35.7%
ウ 普 通	3	21.4%
エ あまり理解しやすくなると感じなかった	1	7.1%
オ 理解しやすくなると感じなかった	0	0%

14 100%

手法としては良いものの、問題と解答の校正を徹底することが求められる。



《コメント》

- ・過去問をする回数を増やしてほしい
- ・メモ機能がほしい
- ・理解しやすかった

3.e-learning についてお聞きます。

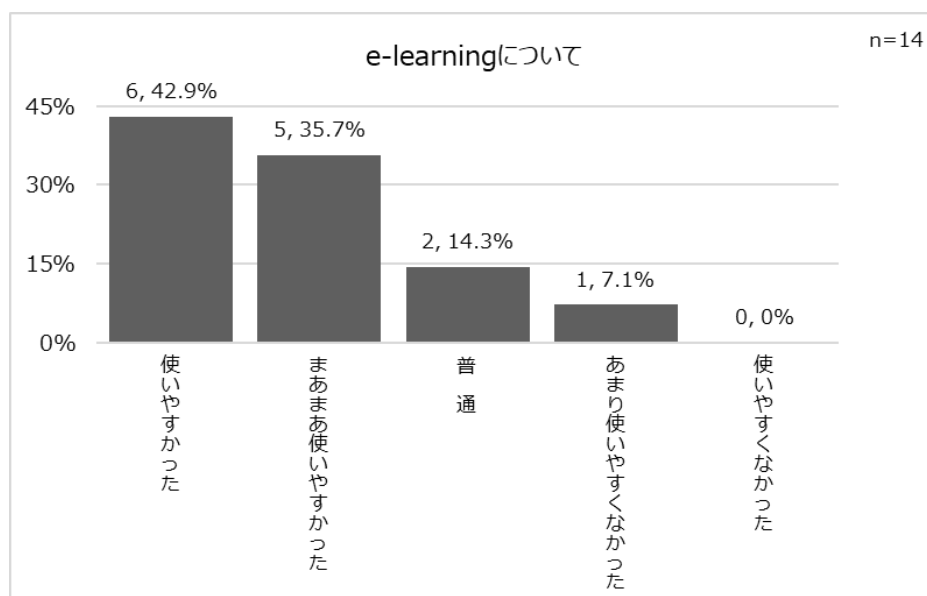
過去 5 年分をランダム形式で出題しています。使い勝手など、どのように思いましたか。

また、どのようにすれば良くなるかなど、あわせてご意見をお書きください。

項 目	回 答	割 合
ア 使いやすかった	6	42.9%
イ まあまあ使いやすかった	5	35.7%
ウ 普 通	2	14.3%
エ あまり使いやすくなかった	1	7.1%
オ 使いやすくなかった	0	0%

手法としては良いものの、
問題と解答の校正を徹底
することが求められる。

14 100%



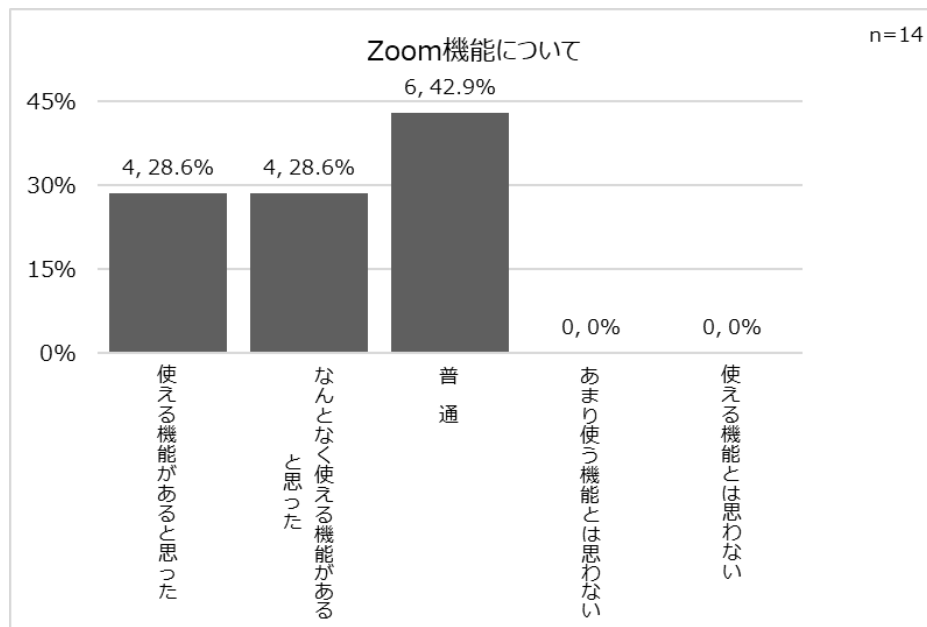
《コメント》

- ・文字が途中で切れている問題があった
- ・問題を解いた後、すぐに解説があって分かりやすかった
- ・外出時でもできるように回数を増やしてほしい
- ・メモ機能ができるところがほしい

4.Zoom 機能を搭載し、授業を休んでいる中でもオンラインで授業を受講できることについてどのように思いましたか。また、どのようにすれば良くなるかなど、あわせてご意見をお書きください。

項 目	回 答	割 合
ア 使える機能があると思った	4	28.6%
イ なんとなく使える機能があると思った	4	28.6%
ウ 普 通	6	42.9%
エ あまり使う機能とは思わない	0	0%
オ 使える機能とは思わない	0	0%
	14	100%

実証実験段階で機能がある程度になっているが、本格的に授業で使えるようになると回答が変わると思われる。



《コメント》

- ・Zoom があるのはうれしい
- ・良いと思う

5.その他ご意見がございましたらお願いします。

- ・消化管のところが絵が動いたりして分かりやすく楽しかった
- ・開いてすぐ動画が始まらない方が良い
- ・動画だと授業を進めにくそう
- ・絵もあって良かった

③実証授業風景（北日本医療福祉専門学校）



④アンケート結果

1.以下の動画についてお聞きます。

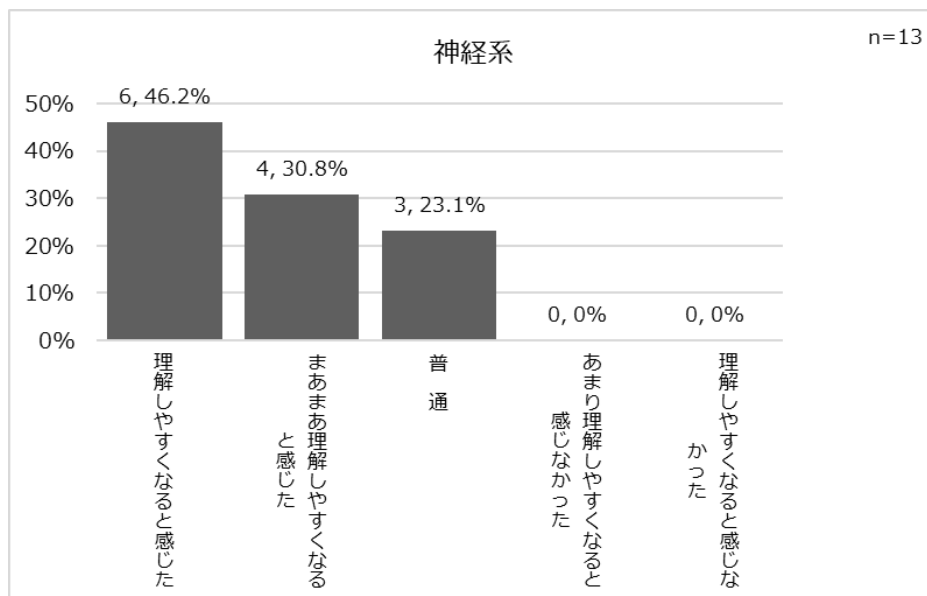
動画を見ることでイメージでき、理解しやすくなった感じましたか。

ア～オのいずれかに○を付けてください。また、どのようにすればもっと分かりやすくなるか、楽しく学べるかなど、ご意見をあわせてお書きください。

(1)神経系（中枢神経、末梢神経、反射、体性神経・自律神経などについて）

項 目	回 答	割 合
ア 理解しやすくなった感じた	6	46.2%
イ まあまあ理解しやすくなった感じた	4	30.8%
ウ 普 通	3	23.1%
エ あまり理解しやすくなった感じなかった	0	0%
オ 理解しやすくなった感じなかった	0	0%
	13	100%

概ね、イメージできるものと思われる。



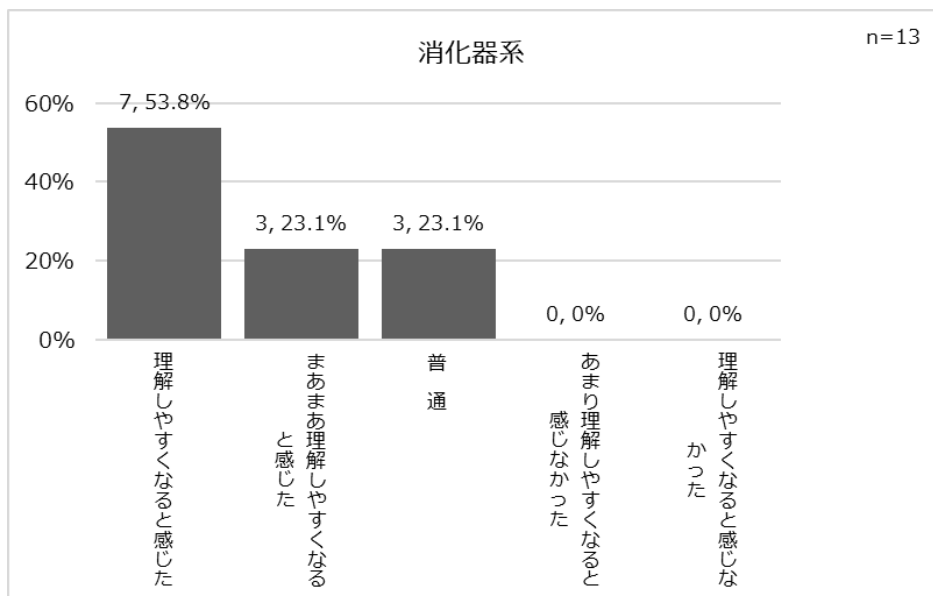
《コメント》

・絵をリアルにしてもいいと思った

(2)消化器系（食べ物が体の中を流れるイメージと各消化器管の役割イメージ）

項 目	回 答	割 合
ア 理解しやすくなると感じた	7	53.8%
イ まあまあ理解しやすくなると感じた	3	23.1%
ウ 普 通	3	23.1%
エ あまり理解しやすくなると感じなかった	0	0%
オ 理解しやすくなると感じなかった	0	0%
	13	100%

概ね、イメージできるものと思われる。

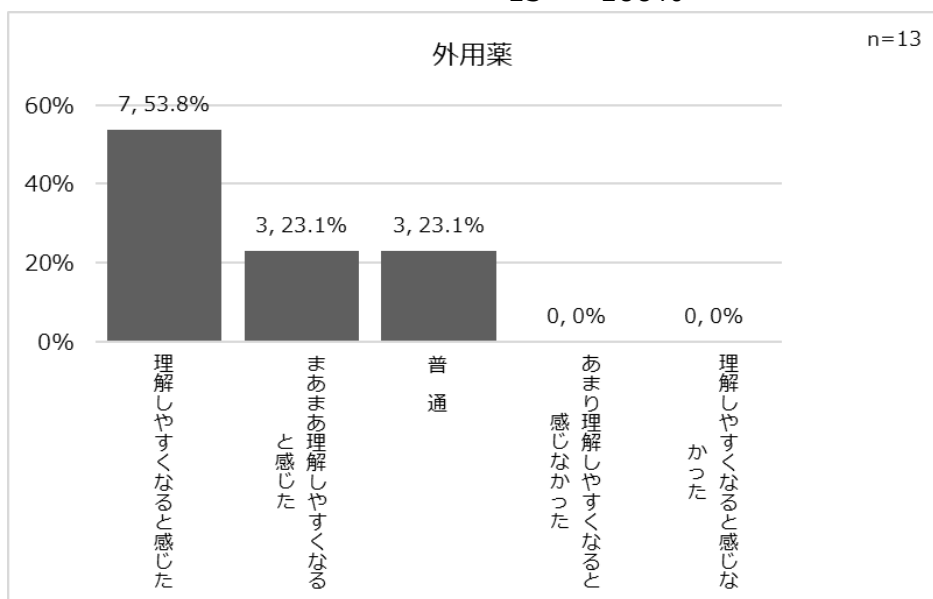


(3)外用薬（坐剤や湿布の効き方）

項 目	回 答	割 合
ア 理解しやすくなると感じた	7	53.8%
イ まあまあ理解しやすくなると感じた	3	23.1%
ウ 普 通	3	23.1%
エ あまり理解しやすくなると感じなかった	0	0%
オ 理解しやすくなると感じなかった	0	0%

概ね、イメージできるものと思われる。

13 100%

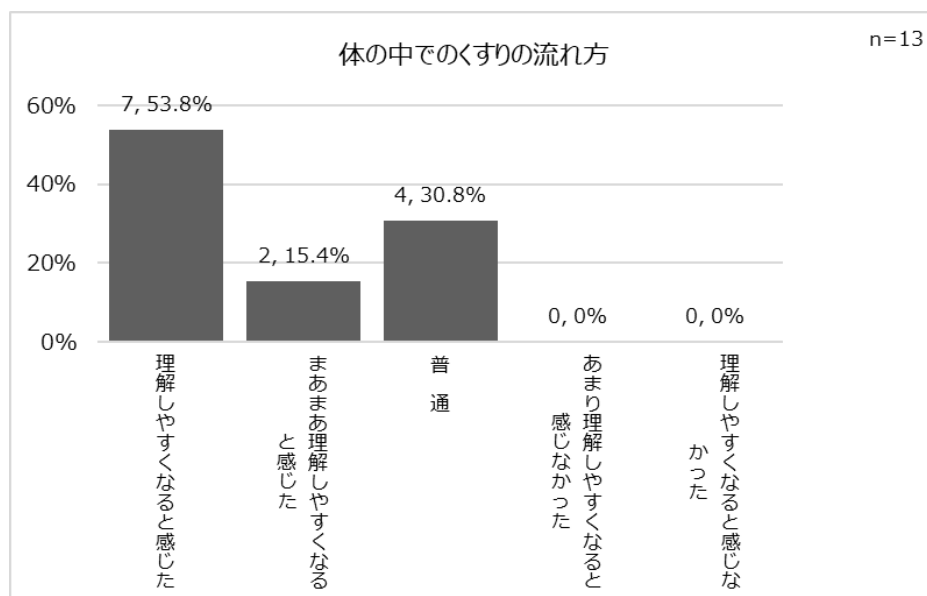


(4)体の中でのくすりの流れ方（内服薬と坐剤）

項 目	回 答	割 合
ア 理解しやすくなると感じた	7	53.8%
イ まあまあ理解しやすくなると感じた	2	15.4%
ウ 普 通	4	30.8%
エ あまり理解しやすくなると感じなかった	0	0%
オ 理解しやすくなると感じなかった	0	0%

概ね、イメージできるものと思われる。

13 100%



《コメント》

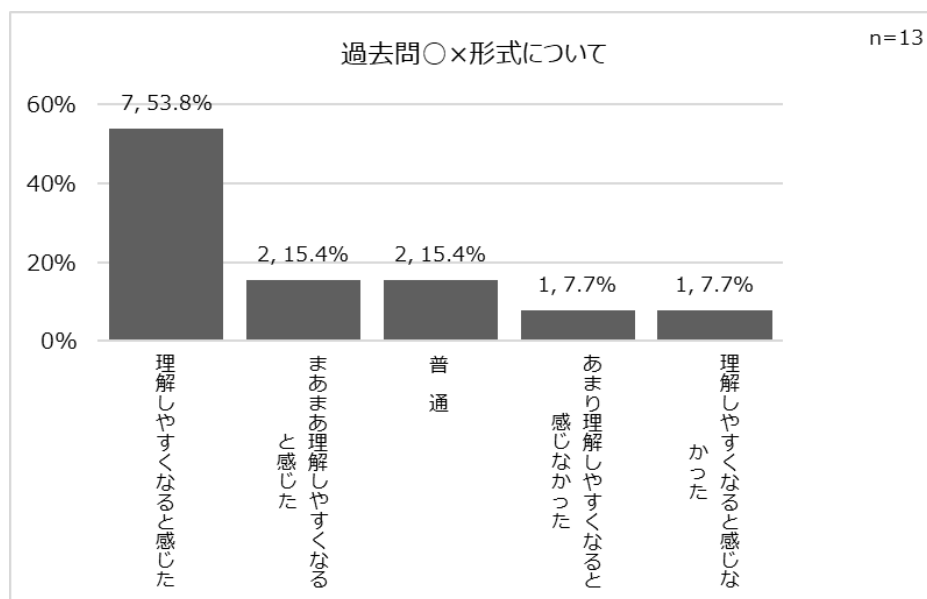
・体の中の図があってわかりやすかった

2.過去5年分過去問を○×形式で動画と連動させて取り入れたことに関して理解しやすくなったと感じましたか。

下記のア～オのいずれかに○を付けてください。また、どのようにすればもっと分かりやすくなるか、楽しく学べるかなど、あわせてご意見をお書きください。

項 目	回 答	割 合
ア 理解しやすくなったと感じた	7	53.8%
イ まあまあ理解しやすくなったと感じた	2	15.4%
ウ 普 通	2	15.4%
エ あまり理解しやすくなったと感じなかった	1	7.7%
オ 理解しやすくなったと感じなかった	1	7.7%
	13	100%

手法としては良いものの、問題と解答の校正を徹底することが求められる。



《コメント》

- ・開発段階というのもあってあまりよくわからなかった
- ・動画を見てから問題を解くので分かりやすかった
- ・誤字脱字が多く、答えが合っても不正解とされることがあった

3.e-learning についてお聞きます。

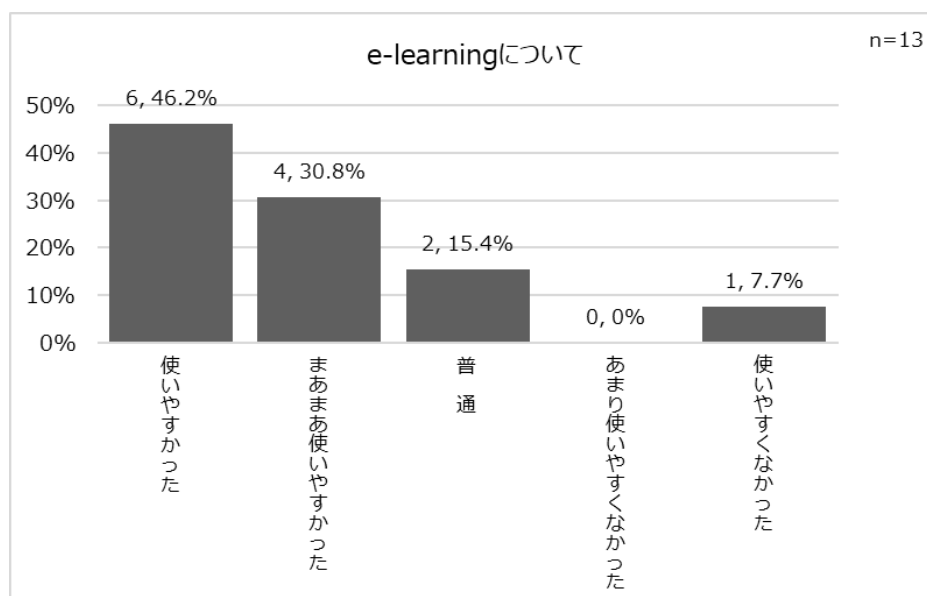
過去 5 年分をランダム形式で出題しています。使い勝手など、どのように思いましたか。

また、どのようにすれば良くなるかなど、あわせてご意見をお書きください。

項 目	回 答	割 合
ア 使いやすかった	6	46.2%
イ まあまあ使いやすかった	4	30.8%
ウ 普 通	2	15.4%
エ あまり使いやすくなかった	0	0%
オ 使いやすくなかった	1	7.7%

13 100%

手法としては良いものの、
問題と解答の校正を徹底
することが求められる。



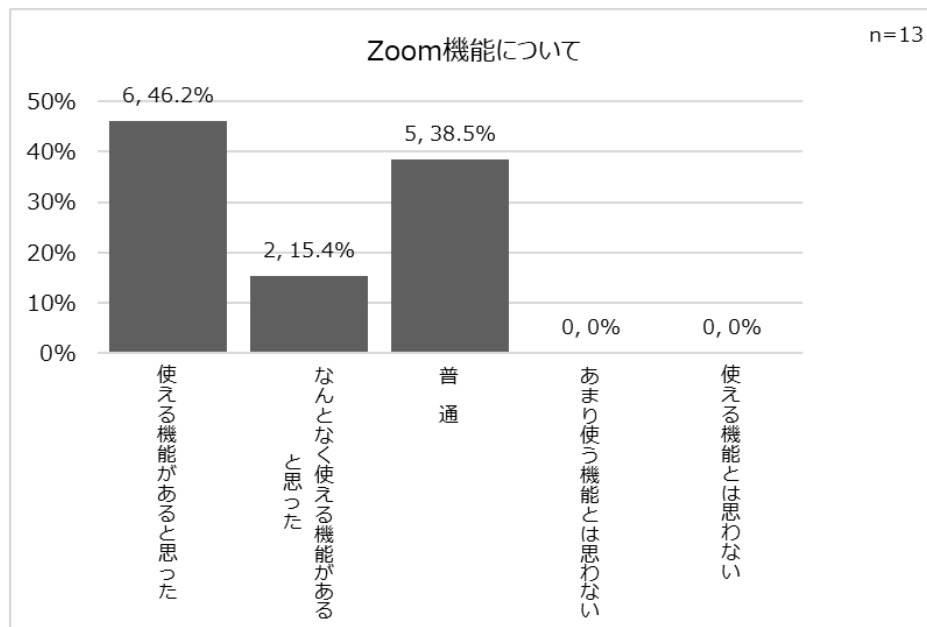
《コメント》

- ・マウスなどで書き込むことができるようなものだったら問題を解きやすくなったと感じた
- ・対策ができたと思った
- ・誤字脱字が多く、答えが合っていないも不正解とされることがあった

4.Zoom 機能を搭載し、授業を休んでいる中でもオンラインで授業を受講できることについてどのように思いましたか。また、どのようにすれば良くなるかなど、あわせてご意見をお書きください。

項 目	回 答	割 合
ア 使える機能があると思った	6	46.2%
イ なんとなく使える機能があると思った	2	15.4%
ウ 普 通	5	38.5%
エ あまり使う機能とは思わない	0	0%
オ 使える機能とは思わない	0	0%
13		100%

実証実験段階で機能がある程度になっているが、本格的に授業で使えるようになると回答が変わると思われる。



5.その他ご意見がございましたらお願いします。

- ・リアルな画像にして、リアルな内蔵の動画を取り入れてもいいと思った
- ・堅苦しいと感じたから
- ・戻るボタンがあった方が良い
- ・目次一覧があってもいい
- ・問題と解答が違っていたところがあった
- ・音楽はいらないと思った
- ・文章のポイントになる部分に色をつけて目立たせた方が分かりやすい

⑤アンケート結果（２校合算）

1.以下の動画についてお聞きます。

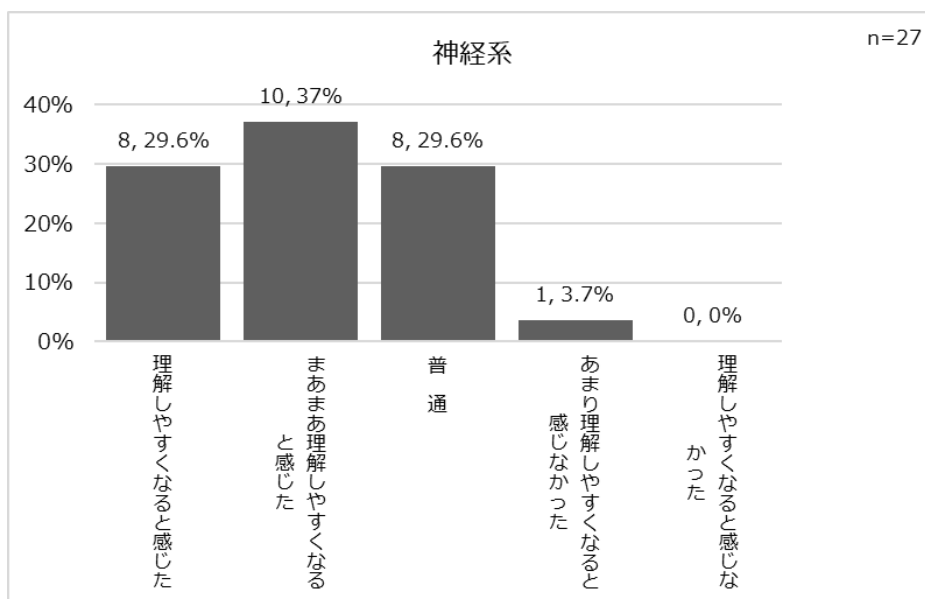
動画を見ることでイメージでき、理解しやすくなったと感じましたか。

ア～オのいずれかに○を付けてください。また、どのようにすればもっと分かりやすくなるか、楽しく学べるかなど、ご意見をあわせてお書きください。

(1)神経系（中枢神経、末梢神経、反射、体性神経・自律神経などについて）

項 目	回 答	割 合
ア 理解しやすくなったと感じた	8	29.6%
イ まあまあ理解しやすくなったと感じた	10	37%
ウ 普 通	8	29.6%
エ あまり理解しやすくなったと感じなかった	1	3.7%
オ 理解しやすくなったと感じなかった	0	0%
	27	100%

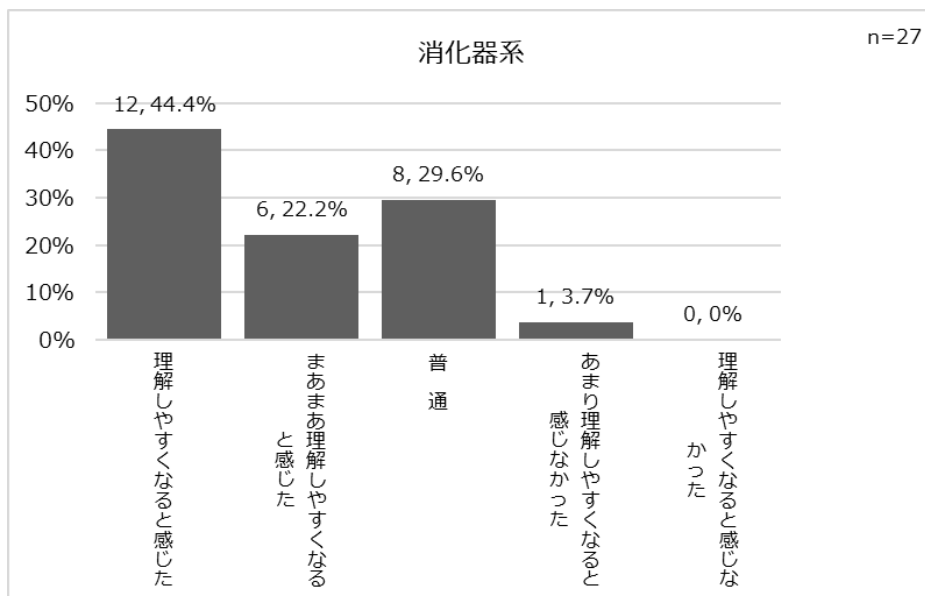
全体的に多少の効果は見られるものの、効果的であるとは言い難い結果であった。



(2)消化器系（食べ物が体の中を流れるイメージと各消化器管の役割イメージ）

項 目	回 答	割 合
ア 理解しやすくなると感じた	12	44.4%
イ まあまあ理解しやすくなると感じた	6	22.2%
ウ 普 通	8	29.6%
エ あまり理解しやすくなると感じなかった	1	3.7%
オ 理解しやすくなると感じなかった	0	0%
	27	100%

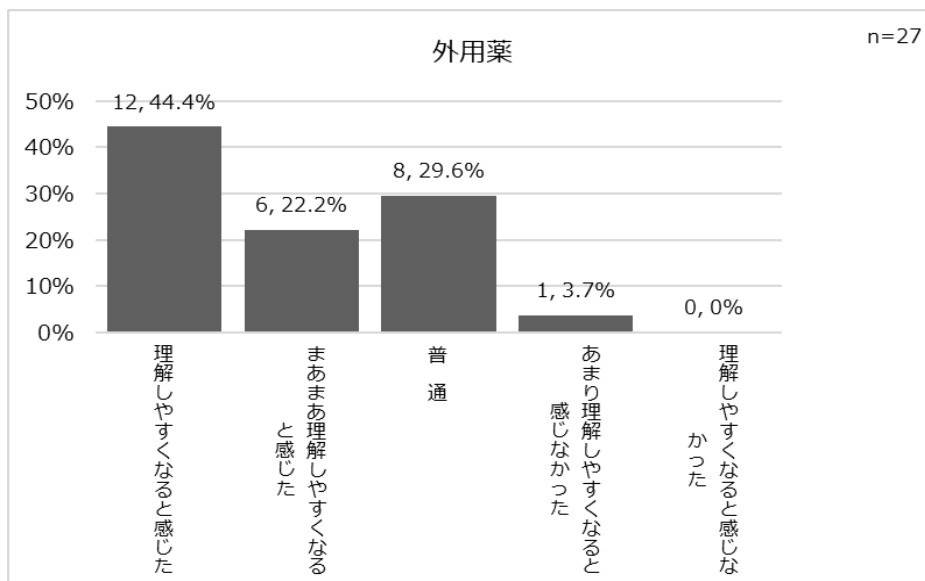
全体的に多少の効果は見られるものの、効果的であるとは言い難い結果であった。



(3)外用薬（坐剤や湿布の効き方）

項 目	回 答	割 合
ア 理解しやすくなると感じた	12	44.4%
イ まあまあ理解しやすくなると感じた	6	22.2%
ウ 普 通	8	29.6%
エ あまり理解しやすくなると感じなかった	1	3.7%
オ 理解しやすくなると感じなかった	0	0%
	27	100%

全体的に多少の効果は見られるものの、効果的であるとは言い難い結果であった。

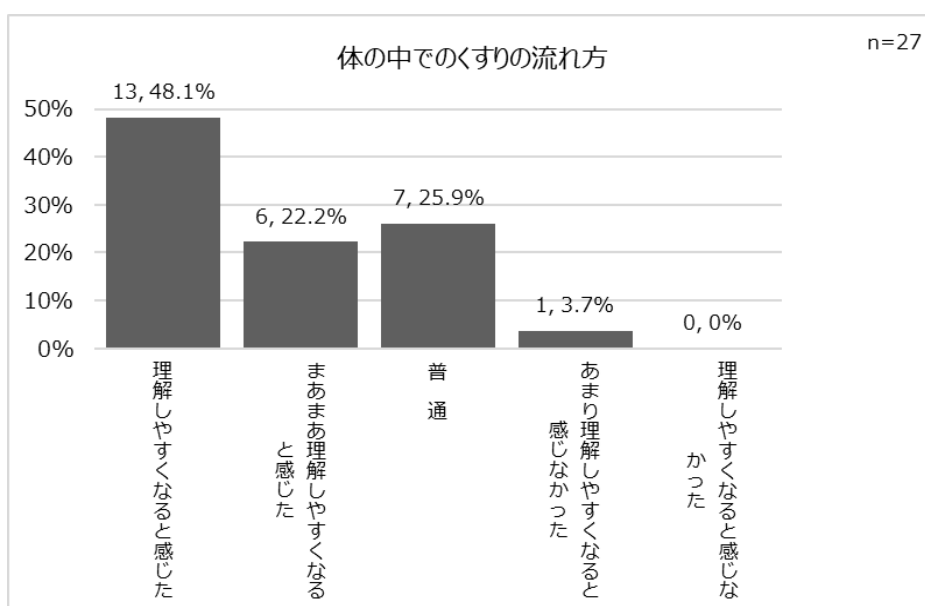


(4)体の中でのくすりの流れ方（内服薬と坐剤）

項 目	回 答	割 合
ア 理解しやすくなると感じた	13	48.1%
イ まあまあ理解しやすくなると感じた	6	22.2%
ウ 普 通	7	25.9%
エ あまり理解しやすくなると感じなかった	1	3.7%
オ 理解しやすくなると感じなかった	0	0%

概ね、効果的であった。

27 100%

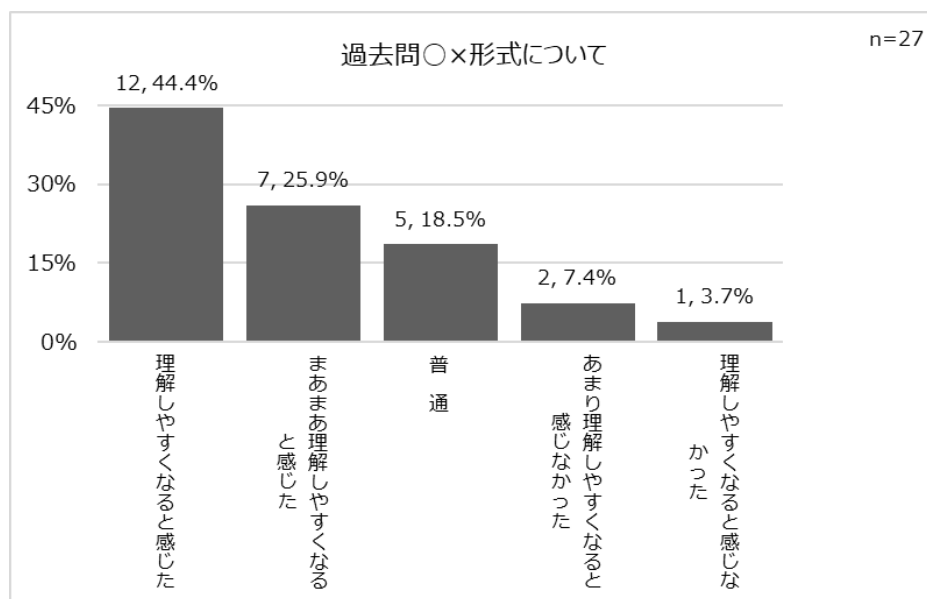


2.過去5年分過去問を○×形式で動画と連動させて取り入れたことに関して理解しやすくなったと感じましたか。

下記のア～オのいずれかに○を付けてください。また、どのようにすればもっと分かりやすくなるか、楽しく学べるかなど、あわせてご意見をお書きください。

項 目	回 答	割 合
ア 理解しやすくなったと感じた	12	44.4%
イ まあまあ理解しやすくなったと感じた	7	25.9%
ウ 普 通	5	18.5%
エ あまり理解しやすくなったと感じなかった	2	7.4%
オ 理解しやすくなったと感じなかった	1	3.7%
	27	100%

手法は良かったが、問題と解答の校正の徹底が必要である。



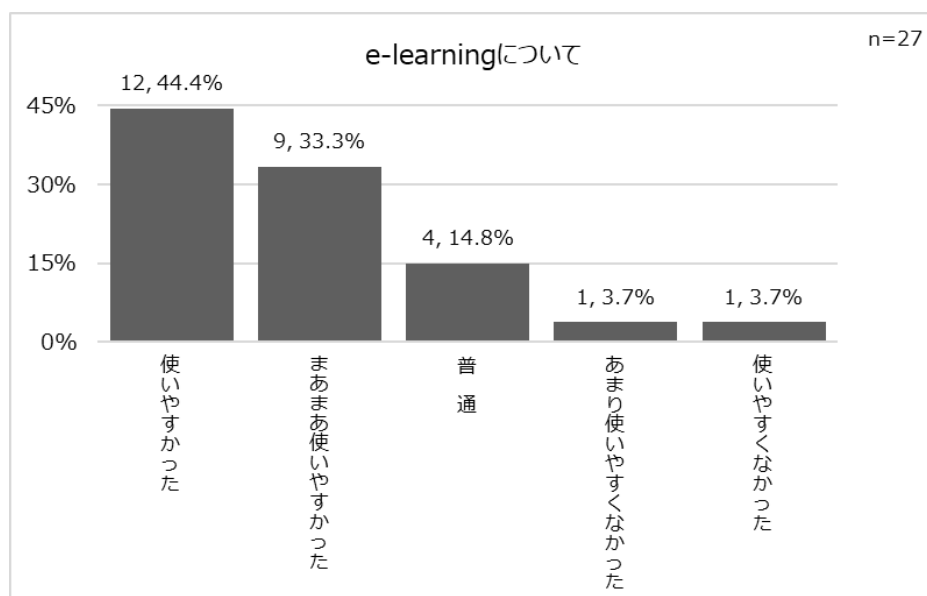
3.e-learning についてお聞きます。

過去 5 年分をランダム形式で出題しています。使い勝手など、どのように思いましたか。

また、どのようにすれば良くなるかなど、あわせてご意見をお書きください。

項 目	回 答	割 合
ア 使いやすかった	12	44.4%
イ まあまあ使いやすかった	9	33.3%
ウ 普 通	4	14.8%
エ あまり使いやすくなかった	1	3.7%
オ 使いやすくなかった	1	3.7%
	27	100%

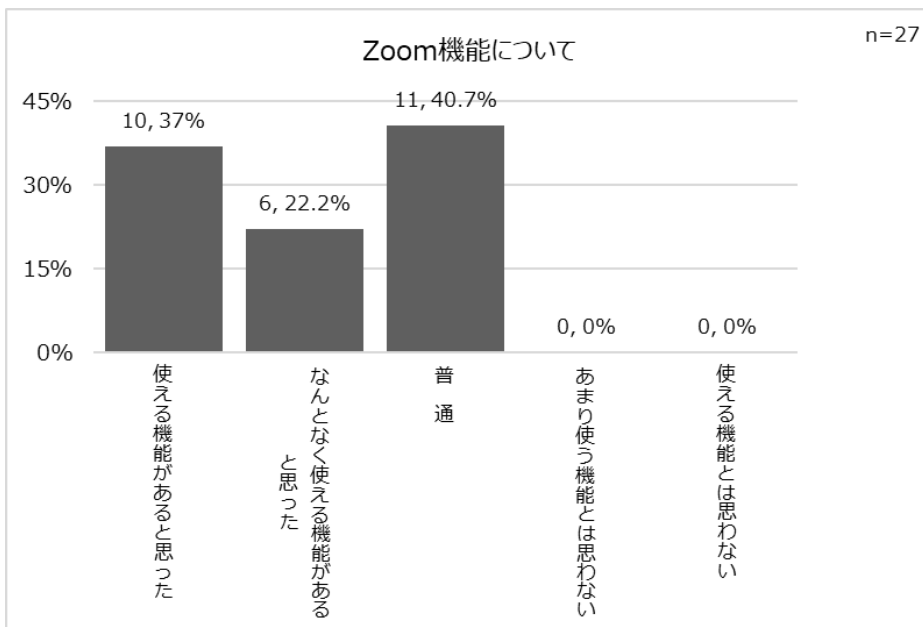
手法は良かったが、問題と解答の校正の徹底が必要である。



4.Zoom 機能を搭載し、授業を休んでいる中でもオンラインで授業を受講できることについてどのように思いましたか。また、どのようにすれば良くなるかなど、あわせてご意見をお書きください。

項 目	回 答	割 合
ア 使える機能があると思った	10	37%
イ なんとなく使える機能があると思った	6	22.2%
ウ 普 通	11	40.7%
エ あまり使う機能とは思わない	0	0%
オ 使える機能とは思わない	0	0%
27		100%

実証実験段階で機能がある程度になっているが、本格的に授業で使えるようになると回答が変わると思われる。



⑥講師アンケート

実証実験の講師をしてみて各項目について意見を伺った。

【講師 1】

<時短について>

- ・触ったばかりで感覚としか言えないが、以下の点で慣れるともっと効果は上がると思う。
- ・課題作成など30～40分／日の時間負担軽減につながると思う。
- ・使い方や最初に要点を学生に伝える話し方に慣れると感覚ではあるが、少なくとも10分／コマ程度は余裕が生まれると思う。その分、○×問題などの確認回数が増やせ、学生の理解度向上の効果はあると思う。

<負担軽減部分について>

- ・課題を作成、印刷する負担が減る。食べ物や薬がどのように体の中で流れているか、テキストやyou tube よりもイメージができることで、説明を何度もすることがなくなる。
- ・学生に動画を見ながらよく聞いていてと捉えてほしい要点だけで学生が主体的に取り組む姿勢が見えること。
- ・e-learning のランダム出題と選択方式は良かった。課題として活用しやすい。

<特に良かったところ>

- ・実際に学生自身で触って学ぶため、普段やる気がない学生もやる気が出てきたように思えたこと。
- ・食道を通る際に食べ物がどのように運ばれているのか、食道の動きがあるのが良かった。
- ・胃の動き、食べ物がないときに入ったときの胃の動きがあるのが良かった。他にはない。
- ・e-learning の過去問がランダムと選択式に出題を選べるところは、授業の課題や追い込み時期などに使える。10問／回で出題されるもの良い。
- ・動画との連動の○×問題は、授業の中では授業内容に沿った問題が出題されるのではないので、使いづらいが、学ぶ上では電車内でもバス内、食事しながらといったながらできるので良いと思った。

<課題・改善点>

- ・動画との連動の○×問題の出題の仕方が悪かった。また、解答の見せ方をシンプルにした方が良かった。シンプル過ぎると間違っただけの解説を読まないで、一概には言えないが。
- ・動画との連動の○×問題の正答も管理できるとなお良いと思ったが、問題が固定されていないため難しいと思う。
- ・動画との連動の○×問題で問題を解いてから動画に戻らないと動かないので、繰り返しできるボタンがあると良い。

【講師 1】

<時短について>

- ・事前学習や補習などの課題に役立つと思われる。
- ・課題作成など30分／日の時間負担軽減につながると思う。
- ・学習前に見せることで、説明する時間が20分／日程度になると思われる（個人対応も含む）。

<負担軽減部分について>

- ・課題の作成負担軽減
- ・学生に動画を見せることで、今回はいつも寝る学生が起きていた。普段それを注意することで授業が一旦止まる場合もあるため、その負担が少なくなることは大きい。
- ・過去問〇×形式や e-learning のランダム出題と選択方式は良い。課題として活用しやすい。

<特に良かったところ>

- ・実際に学生自身で触って学ぶため、刺激になることが良かった
- ・食道を通る際に食べ物がどのように運ばれているのか、食道の動き、胃の動きで食べ物がいないときに入ったときの胃の動きがあるのが良かった。
- ・e-learning の過去問がランダムと選択式に出題を選べるところは、授業の課題や追い込み時期などに使える。10問／回で出題されるもの良い。
- ・動画との連動の〇×問題は、自ら反復することができるため、これから2年生になると役に立つと思った。

<課題・改善点>

- ・動画との連動の〇×問題と解答の間違いが目立った。原稿はしっかりしていても、アプリに落とすところで不具合が生じる場合もある。校正力が大きな改善点。
- ・動画との連動の〇×問題の関係性をもっと高める必要がある。
- ・消化器管を色々見ていくとき、戻る場合が一つずつであるため、トップに戻るなどのボタンが必要。
- ・予算的には難しいと思うが、e-learning で地域ごとの選択肢があると良いと思った。
- ・改善ではないが、ハラスメント系は充実させてほしい。学生もドラッグストアにアルバイトに行っているもので、ステップアップ編に入っているが、関心は高い。
- ・法改正の内容と見せ方の検討も必要と思う。

第 3 章 令和6年度総括と次年度の 方向性について

第3章 令和6年度総括と次年度の方向性について

1. 補助教材アプリ開発

本年度は、初級編（登録販売者資格取得向け）には、令和5年度の動画をブラッシュアップしつつ、過去5年間の過去問と動画の連携〇×形式プログラムを構築、また、e-learningシステムを構築した。また、Zoom機能を搭載し、一度に1,000人までのオンライン授業の環境も整備した。

動画の具体的なブラッシュアップ例は2章で示しているが、消化器系や神経系の働きがイメージつきやすくする効果を狙ってブラッシュアップを図った。

一方、ステップアップ編においては、OTC医薬品最新情報の提供と法改正、ハラスメント系、税制とコンテンツの拡充は図ったが、精査するまでには至っていない。

補助教材という位置づけで開発に取り組んでいるものの、メイン教材として開発する希望が多いだけでなく、関連性の高いものがあるため、当初の予定内容より、広く深く開発を進めることになっている状況である。

2. 実証実験

本年度は、時期的な関係で社会人への実証実験が困難となり、専門学校1年生に対して実証実験を実施した。

（1）実証実験

①実施先・人数・日時

実施先	人 数	日 時
姫路ハーベスト医療福祉専門学校	14名	令和7年2月6日（木） 9：00～12：10
北日本医療福祉専門学校	13名	令和7年2月18日（火） 9：00～10：30

③対象：

登録販売者資格取得を目指す専門学校1年生

（2）アンケート結果からの考察

補助教材アプリを使った実証実験を実施した結果、アプリの仕組み自体は好奇心を誘うようなもので、学生も楽しみながら触っていたが、残念なことに、動画の作り込みが十分ではなかったこと、動画を進めて見ていると前に戻るにもストレスが生まれるものになってしまっていること、過去問と動画の連携ができていないこと、問題と解答の間違ひが多く校正不足なことなど不具合が多く表れた。

これらの状況により、学生からの評価は今一つ伸びなかった。ただし、当初より掲げていた講師の負担減やタイムパフォーマンス向上といった観点からは、講師アンケートからも負担軽減につながることで、普段授業中で居眠りしている学生が実証実験授業を受けている間は終了の時間が来るまで手を止めないで色々と自ら操作していた。これは、注意によって授業が止める必要がない効果を生み出しており、それは講師の負担軽減につながる可能性が高いと考えられる。

このように、本事業で開発を進めている補助教材アプリは学習意欲を高める効果が期待できるものと思われる。そのためには、講師や学生からの指摘を真摯に受け止め、改善していくことが必要である。その姿勢が評価を高めることにつながると考える。

3. 令和6年度総括

本年度は、予定していたアプリ開発、e-learning システム開発、実証実験を実施することはできたが、改善する課題が多く出てしまった。その理由としては、開発する方向性は高評価であるものの、当初の計画をはるかに上回る範囲の対応が影響を及ぼし、内容を固めるまでに時間が掛かってしまった。そのため、開発期間が短くなり、実証実験までに十分な検証と不具合を調整・改善する時間の余裕がなかったことが原因であると考えられる。

ただ、このような背景があった中で実証実験を実施したにも関わらず、受講者アンケート結果では、極端には多くはないものの、過半数を上回る方々が、動画では理解しやすくなったとの回答があった。講師からも課題作成などに20～30分／日の負担軽減が見込めるなど期待値は高いと考える。

動画の作り方と問題と解答の精度が低いことが、この度の実証実験では期待値を下げている要因となっているため、それを払拭していく方向で進めていくことが必要である。

4. 次年度の活動

令和7年度は下記の内容に取り組む

- (1) アプリシステムの見直しと改善：操作改善など
- (2) 動画・アニメーションのさらなる改善：受講者の声を反映する（分けるべきところが一つになっているものをしっかりと分けるなど）
- (3) 過去問の問題と解答の校正強化：数人体制で再度校正を行う
- (3) ARの開発：例）ドラッグストア店内にパネル設置し、消化器管が見られるなど
- (4) 実証実験の実施：協力先企業をはじめ、実証実験を行う。実施可能な期間に合わせて開発を進める。

第 4 章 会議録

＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和6年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」専門職業人材の最新技能アップデートプログラムの開発「一般用医薬品販売資格（登録販売者）に関するアップデートプログラム事業」
会議名	第1回企画推進委員会会議
開催日時	令和6年6月28日（金） 15：00～17：00
場 所	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 会議室
出席者	委員： 菅原 武（事務局責任者）、中込和哉、横田 敏、中野陽介（ゴダイ株式会社）、森田圭一朗（株式会社サッポロドラッグストアー） （計5名）
【 議 事 内 容 】 【 目 的 】 本事業の取り組みに対しての共通認識を行うことを目的とした会議を開催した。 【 次 第 】 1_ 15：00 開 会 2_ 15：05 委員自己紹介 3_ 15：20 議 事 （1）令和5年度取り組み内容の説明（成果物説明等） （2）令和6年度事業概要説明 （3）令和6年度スケジュール説明 4_ 16：50 その他（連絡事項・意見交換等） 5_ 17：00 閉 会 ＜配布資料＞ 【資料1】 議事次第 【資料2】 事業概要（PPTX） 【資料3】 令和5年度成果物（動画） 以下、次第に沿って会議が進められた 1. 開 会 【菅原事務局責任者】 この度は、本事業のご協力をいただきまして誠にありがとうございます。また、お忙しい中お時間をいただきましてありがとうございます。令和6年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」専門職業人材の最新技能アップデートプログラムの開発「一般用医薬品販売資格（登録販売者）に関するア	

「アップデートプログラム事業」のキックオフ会議とした第一回企画推進委員会会議を開催いたします。委員の皆さまのご協力をいただき、2年目の取り組みができることとなりました。また、新しく本年度から委員として参加いただく方も増えました。誠にありがとうございます。本事業にご協力いただく上で、改めまして事業概要の説明、昨年度の報告と今年度に取り組む内容について次第に沿って説明していきます。よろしくお願いいたします。

事業としては、対象者はドラッグストアチェーン企業の登録販売者資格取得を目指す方、すでに資格取得されている有資格者の方を対象にタイムパフォーマンスと理解度の向上を行う上で使用する教材開発、実務に生かすことができる情報提供に関する補助教材アプリ開発を行うことです。など

2. 委員自己紹介

【中込委員】日本薬業研修センターの理事長をしています中込です。昨年に引き続き、よろしくお願いいたします。

【横田委員】日本医薬品登録販売者協会の横田です。昨年に引き続き、よろしくお願いいたします。

【森田委員】株式会社サッポロドラッグストアの森田です。今年から委員で参加いたします。よろしくお願いいたします。

【中野委員】ゴダイ株式会社の中野です。少しでのお役に立てればと思っています。昨年に引き続き、よろしくお願いいたします。など

3. 議 事

【菅原事務局責任者】

本日の会議ですが、昨年度の成果物の説明や本年度の取組みなど皆さまと共有しながら進めていきたいと思います。

(1) 令和5年度取り組み内容の説明（成果物説明等）が下記の通り行われた

お配りしました資料をご確認願います。皆さまには繰り返しのご説明になりますが、リカレント事業として、対象者はドラッグストアチェーン企業の登録販売者資格取得を目指す方、すでに資格取得されている有資格者の方を対象にタイムパフォーマンスと理解度の向上を行う上で使用する教材開発、実務に生かすことができる情報提供に関する補助教材アプリ開発を行うことです。

登録販売者資格を目指す方を例に挙げますと、ドラッグストアチェーンで必要な登録販売者資格を取得する上で、躓きやすい部分に対して動画などを作成し、それをアプリ化し、視覚や聴覚などから苦手な部分、理解に時間が掛かる部分の時短を目指します。それにより、学ぶ方や教える方にとって負荷を軽減することを目的とした開発事業です。

実証実験を通して、皆さまに使い勝手の良いものとなるように開発して行きたいと思います。構成機関としては、配布資料3ページに記載されています通り、当校が受託機関で文部科学省の窓口となり、教育機関、協力団体、協力企業といった方々で構成されています。実

施体制は、が畏怖資料4ページをご覧ください。本日の企画推進委員会会議は、委員の方々全員で構成されています。その下に各WG、プログラム開発WG、調査分析WG、実証実験WGがございます。役割につきましては繰り返しご説明していますので記載されている内容をご確認ください。

次に配布資料5ページについて説明いたします。ターゲットしましては、先ほどお話ししましたように、ドラッグストアチェーンで働く方です。登録販売者資格を目指す方、すでに登録販売者資格を持っている方を対象としています。この二つへアプローチし、それぞれ、専門知識とスキルアップを目的としています。効果や評価につきましては、実際に実証実験を行った上で明らかになってきますので、ここでは方向性を示す程度にしています。昨年度取り組んだ内容としましては、企業ヒアリングを行いまいしました。その結果が、配布資料6ページから11ページになります。要点を集約した形で締めさせていただきます。

①登録販売者資格取得や資格取得後に関する課題については、登録販売者資格取得前は、知識の定着ができていない、聞きなじみがないものに対しては、やれない、やらないから入るため、モチベーションが上がらない。2回目以降になるとなかなか合格できずにいる人がいる。という回答傾向であった。単なる見る、聞くに留まる教材開発ではなく、参加型を取り入れた教材開発の取り組みを行っている。そのため、モチベーションを上げる、保つことの一助となるものになると考える。登録販売者資格取得後のステップアップや管理者養成は、現在のWeb教材の内容について、動画の時間が長い、学ぶ意味がわからない、やった感のみ、定着まではない。といった不満が多かった。

ヒアリングをしていると本事業で開発を進めているアプリによる補助教材に期待感を抱いていただいている。現在のWeb教材とは異なる活用方法を見出し、提供できるように取り組んでいきたい。

②現在の資格取得・研修に掛る時間については、登録販売者資格取得に掛ける時間数は、現時点では200時間～300時間の回答傾向であった。100時間の差は、すでに知識として持っているといった個人の知識ベースや能力の差によるものがあると思われる。

また、様々な受験対策のやり方があるため、計画当初段階と変わらず、300時間という時間をベースとして考えて取り組んでいく。その中で、時間が掛かる部分については、多くが2章と3章に時間を要している。3章に至っては、勉強する時間の半分程度を要しているとの回答傾向であった。回答傾向からは事業計画当初の方針と変わっていないが、漢方や法律系については追加でどのように反映させていくのかを考えていきたい。

③現在の登録販売者の資格取得に掛けている時間などをもっと効率化できれば良いとお考えでしょうかについては、ヒアリング先企業からは、すべて「はい」ということであった。時間数軽減は可能な限りという回答もあったが、概ね250時間を最大値の目安にすることが望まれていると思われる。期待値は高いと考える。

④本事業が取り組む内容については、参加型の教材は無い、3Dなどが興味深い、ARがどのようなものになるのかが興味がある。といったことから、なるべく分割した内容で作ってほしい、理解度向上や時間高効率化による職場負担軽減効果につながる、動画やイラストで反映する

部分は、イメージしやすそう、教える社員の負担が減る、職場負担は少なくなりそう、次々に自ら取り組んでいけるものになると思う。といった回答傾向であった。本事業が掲げているタイムパフォーマンスと知識の定着の期待が持てる取り組みであると考えである。

⑤開発する教育プログラムの方向性についてでは、今までにない教材を作っている取り組みは面白い、絞り込みはできていると思うので良い、教える側にも配慮しているところも評価できる、あった方が良く、理解度も上がると思う、間違いではない、正しい、社内研修では便利なものになると思う、動画だけではなく、自分で触れる機能などが入ってくるのは楽しめといった回答であった。本事業の取り組む方向性は間違っていないと考える。

⑥取り入れて欲しい内容についてでは、2章と3章を取り入れてほしいが多かった。この点は、事業計画当初段階と同じであり、本事業が絞り込んでいる内容は間違いではないものの、各部の名称と説明文がつながり、そこから過去問につながるようなものといったアプリ構造の考え方を見直す回答もあった。

また、その他に漢方や法律系、副作用部分については、どのような展開で反映させていくのか検討する必要があると考える。⑦実証実験協力についてでは、実証実験の協力は、様々な企業事情がある中で協力に前向きな回答が得られた。本事業が取り組む内容に、興味・関心度が高いことを感じさせる回答傾向であった。といった回答でした。

まとめとしては、報告書にも掲載していますが、今回、本事業の取り組みに対しての回答傾向から総合的な判断として、本事業で取り組んでいる内容は、興味深いもので期待値が高く、取り組みの方向性は適切な形で進んでいると捉えられると思います。

ただし、方向性は正しいが、見せ方、扱い方などについては、さらに検討を重ね、精査していく必要がございます。今後、取り入れるべき内容をどのような形でアプリに組み込んでいくか、また、さらに必要なコンテンツの上乗せなどの検討などです。

その一方で、実証実験の協力に前向きな企業が多かったことが結果として出ていました。ただ、膨大な内容になるため、制作にかかる時間も限られている中で、中途半端に一度に多い機能を扱わせるより、一つ一つ確実に積み上げながら検証を重ね、多くの方々にとって使い勝手の良いものを作り上げていくことになると思われます。

では、実際に開発するアプリの概要ですが、配布資料12ページに全体のイメージ図を記載しています。オンデマンドでもオンラインでも可能なアプリ開発をする。その中で、消化器系であれば、動画や説明文が流れたり、実際に触って立体的に見ることができるようにかいたりすることができるものや、食べ物がどのように体の中を流れているのか、ロールプレイン的なもの、過去問の e-learning、法改正情報といった様々な機能が入ったものを作り上げていくことを考えています。

現在、消化器系に特化して開発を進めてはいますが、進めていくにつれ、範囲が広がってきていることも否めない状況ですが、その点は調整をしながら進めていきたいと思っています。本事業期間でできるところはやり、その後、必要なものに関しては、引き続き、事業終了後に検討していきたいと考えています。昨年度はどのようなことをしたかですが、配布資料13ページから18ページになります。主に、ナレーション付きの動画を作成しました。神経

系は、中枢神経、末梢神経、自律神経、反射といったところの動画になります。制作期間も短かったこともあり、たたき台的なものにはなりません。皆さまにはDVDをお送りしていますが、確認いただくため動画を流します（動画を流し確認）。テキストのイラスト部分をよりイメージできるように動画作成しています。その他、消化器系で食べ物が体内でどのように流れているのかを動画作成しています（動画を流し確認）。胃の中でかゆ状になり、小腸で吸収され、大腸を通過して排便されるといった流れです。胃でかゆ状になるといったところがイメージできないところをできるようにした動画です。

ただ、昨年度作成した動画では、流れとナレーションが連携できていないので、この点は、本年度修正をしていきます。また、昨年度は正面からのものだけでしたが、本年度は、横から見るとどのような位置になっているか、体を回転させて見えるようにしていきたいと考えています。薬に関しても、口から入った薬は、小腸で吸収される、門脈を通るところのイメージが付きづらいとのことで動画作成しています。

また、どのように血液に入っていくかといった全体的な流れ、体外に排出されるところや一回ではなく、何回も体の中を巡って薬が効いていくといったところをイメージできるように動画作成しています。この動画見ながらイメージができることで勉強が進むと考えています。

次に、坐剤の効き方として肛門から直接痛みがある部分に働きかけるところを動画作成しています（動画を流す）。肝臓で代謝を受けることなく直接働きかけるため、効果が早く出ることをイメージできると考えています。局部に留まって効いているイメージとして、坐剤の効果の範囲だけになっていますので、坐剤が徐々に消えていくようにしていきたいと思います。皆さまの意見を聞きながら、昨年度成果物として動画を作成しました。

本年度は、これらをブラッシュアップさせ、立体感であったり、ナレーションと流れをしっかりとなつなげたり、まずは流れの部分を取り組むことをしていきます。湿布につきましても、配布資料19ページでは湿布の効き方の動画について説明します。健康な状態から腫れや痛みがあると血液の流れが悪くなる、湿布の成分効果によって腫れや痛みが無くなると血行が良くなるといったことをイメージした動画になります（動画を流す）。この動画を見ることでどのように効くかというイメージが付き、血流をよくする痛みの改善があるといった成分の勉強が進むと考えます。

【中込委員】外から坐剤が入っていくところがあって留まって溶けるようになるともっと良くなると思う。

【横田委員】ぐっと入れるような感じがでると良いと思う。

【菅原事務局責任者】ありがとうございます。昨年度は、神経系であったり、消化器系であったり、外用薬といった部分を動画にしました。等

(2) 令和6年度事業概要説明が下記の通り行われた

【菅原事務局責任者】本年度は何を取り組むのかということになりますが、配布資料21ページをご覧ください。先ほど、視聴しました平面的なものを立体的にする。資格取得向けに

過去問を中心とした e-learning。過去難問あるかは、これから制作チームの方で打ち込みながら分量を調整して皆さまとご相談しながら進めていきたいと思っています。

ARについてですが、場所を特定する必要がございますので、どこかの企業様の店舗の一部であったり、当校の実習教室であったりと、それぞれ消化器器官が卵みたいな形が出る。ポケモンGOのようなイメージを持っていただくと良いと思います。その位置を高さと横の位置といった座標軸を設定してゲーム感覚でできるようにしていきたいと思っています。

例えば、店舗でレジ待ちのお客様がお子様と遊びながら軽く学びにつながるようなものになればと考えています。あとは、他に動画反映があるかといったことを検討したいと考えています。第3章部分の薬の成分の覚え方ができるかどうかを今のところ探っていきたいと考えています。

次に、実証実験を企業様や専門学校様でできるように考えています。ただし、今のところですが、今のところですが、ネット環境ではなく、タブレットなどに入れ込んだ形になると思います。これは、進めながら検討を重ねていきたいと思っています。タブレットに入れ込んだ形となった場合は、AR機能は使えないことになります。先ほどの動画の視聴・説明文を見る形になると思います。初心者向けや有資格者の学び直しといった軽めになると思われます。

本事業はリカレント事業ですので、実際に有資格者向けの開発も求められますので、e-learning による法改正、コミュニケーション関連としてハラスメント系を事例に進める、言い方を完全に否定するのではなく、注意するような感じのものを考えています。ここでは、カスハラなどが多い中、どのような事例があるか、部下の方の接し方、言い方といったものを皆さまにお聞きしたいと考えています。他人を不快にさせない接し方、言い方などを提供できればと考えています。

次に、新薬情報の提供などを考えています。画像と説明文などが提供できればと思います。本年度は、このような取り組みの方向で進めていきたいと思っています。以上が、昨年度の振り返りと本年度の取り組みの説明となります。

【中込委員】ハラスメント系は動画で進めるのか。

【菅原事務局責任者】タップ式で考えています。例えば、一つのクレームを想定した場合、回答例などの選択肢をいくつか用意していずれか一つを選ぶ、ここで選んだものが×であっても、もう一歩進んで選んで×にするなどといったことを今の段階では考えています。

【中込委員】イラスト動画で開発して行くのか。

【菅原事務局責任者】若い方、高齢の方、お子様連れといった年齢に反映したイラストで考えています。

【森田委員】ゲーミフィケーションということで、想像して出て来たのは、よくあるシミュレーションゲーム、ケーススタディ的みたいなもの、選択したものが正しい場合は、機嫌が良くなり笑顔になる。間違ったもの、少し怪しいものを選んだ場合は、機嫌が悪くなる。限りなくダメな場合は、クレームにつながる。といったケースがカテゴリーごとに何パターンかある。最後に点数を表示できるようなものがあると良いと思った。

【菅原事務局責任者】ありがとうございます。実際に、ご指摘のようなものはいくつかございます。まだ、開発の方向性が確定的ではないので、ご意見を参考にしながら検討を重ね進めていきたいと思います。

【中野委員】接客するのは有資格者であるため、非常に良いと思う。話を聞いてその悩みを解消することが必要。話を聞く姿勢が悪いと先に進めないということが気付くようなものになれば良いと思った。ARの場合であるが、例えば弊社店舗で実施すると希望した場合、それは対応できるのか。

【菅原事務局責任者】そのように考えていただいて構いません。昨年度ヒアリングした企業様の中でも興味があるところがありました。ドラッグストアで遊べるといった感じのものができるとお客様とのコミュニケーションも向上するのではないかと考えています。

【中野委員】色んな健康機器などを置いて接客しているところもあるので、これを機会にやってみたいと思う。

【菅原事務局責任者】動画に関しても様々なものが出されています。ある教育関係の企業では小学生向けにリアルな臓器を動画で作成しているものがございます。リアルであるがゆえに若干引き気味で見てしまったことがあります。捉え方は様々で良いと思いますが、アニメチック的な方が、今回取り組む事業では良いのかなと感じました。

【中野委員】お客様が炎症起きている部分に対して、イメージできるようなものであると接客する側も薬の効果の説明もしやすくなる。そのようなものにつながると思う。そこには分かりやすさは必要であるが、リアルさは必要ない。

【森田委員】言葉だけでは伝わりづらいものはある。やはり目で見てその情報を知っていたくことは重要と思う。

【菅原事務局責任者】そこは、次のステップになると思われます。立体感と炎症状況を3D化することで分かりやすさの追求はいいきたいと思います。ただ、数が膨大になるため、ある程度絞っていく必要はあります。

【中野委員】代表的な例に絞って、胃薬や肩が痛い、腰が痛いといったキーワードで考えることも良いと思う。痛みが消えて改善していくような動画を取り入れるのも良いと思う。

【菅原事務局責任者】ありがとうございます。検討していきます。あと、薬の成分を理解させる、覚え方として、代表的な薬からの結びつきが良いのではというのもあるので、先生、講師の立場として意見をいただき、可能であれば動画に落とし込めたらと考えています。

【中野委員】直接の商品名を出すことは大丈夫なのか。

【菅原事務局責任者】その点は、製薬メーカーさんなどに問い合わせをしていきたいと思います。

【中野委員】お客様に説明するときもバファリンやアリナミンといった代表的な商品名を出すと納得されるし、指導する際にも使っていることでもあるので実現できると良いと思う。

【菅原事務局責任者】解熱鎮痛剤などロキソニンがございしますが、どこのロキソニンのパッケージを見せると受け入れやすいのかといったことを学生目線でできればと考えています。

【中込委員】受験対策の場合は、かなり多くのことを覚える必要があるが、実際の現場では

そこまで多くは必要としない。風邪薬を例に出しても2～3例あれば事足りる。それがきちんと説明できることが大事なことになる。

【菅原事務局責任者】本当は3章全部できればと思いますが、多すぎるため、とりあえず、代表事例をいくつか絞って進めていきたいと考えていますので、ご協力いただきますと幸いです。

【中込委員】抗ヒスタミン、抗ヒスタミン、アドレナリン作動といった成分の薬を取り上げて、どの症状にどのように効いているのかをした方が良いかもしれない。

【菅原事務局責任者】ありがとうございます。検討します。

【森田委員】注意が必要なところでは、あとイブプロフェンや総合感冒薬でドエヌビーヒンと呼ばれる成分が複合的に含まれている極力誰でも知っているネームバリューがある商品だけでも有名な成分をすべて網羅しているものを出来る限り絞って選んでいただきたい。

【中野委員】風邪薬が良いのではないか。

【森田委員】ケースに合わせて切り口を変える。同じ商品でも注意しなければならないこと、鎮痛成分であれば、年齢制限や抗ヒスタミン成分、重複するようなものといった切り口を変えてできると思う。あとは、アプリに入れている商品の製造中止などによって無くなるケースがあるので、恒久的なところは考えておいた方が良いと思う。

【菅原事務局責任者】上手くいくかは分かりませんが、今回を通して、メーカーとの距離が縮まった場合は、そういった情報交換ルートができると考えています。

【中野委員】変更があったときとかは、添付文章を公開しなければならないので、そこまでハードルは高くないと思う。

【菅原事務局責任者】様々な薬がありますが、どのメーカーさんのものがあるといいのかなどはありますか。バランスを取るうえでは色々な会社さんがあるといいとは思いますが、ご協力いただくかどうかは現時点では分かりかねる部分がありますので。

【中野委員】まずは一社に絞ってそれから徐々に増やしていくことでも良いと思う。

【横田委員】OTC協会はどうか。協力してくれると思う。

【中野委員】OTCの薬について登録をはじめ、リストなどを作成している。

【横田委員】PMDAという独立行政法人医薬品医療機器総合機構の一般用医薬品の添付文章を公開しているところは、OTC協会の加盟企業である。ただ、OTC協会に加盟していないPB商品などはそこには入れない。

【森田委員】載っていないのもあるということか。だいたい引っ掛かるのですべて載っていると思っていた。

【菅原事務局責任者】OTC協会さんに問い合わせると良いということでしょうか。

【横田委員】そういう手もあるということ。OTC協会を通すと特定のメーカー色が付かないので、良いと思う。

【中野委員】情報の出どころという意味ではありだと思う。

【菅原事務局責任者】出典先ということで、考えて良いのでしょうか。

【横田委員】そこからの情報ということであれば、バランスが取れると思う。事務局で協力

してくれる人もいると思う。

【菅原事務局責任者】どなたかご存じであれば教えていただきたいのですが、いかがでしょうか。本事業の趣旨や目的を説明して、ご協力いただけるか相談したいと思いますが、いかがでしょうか。

【横田委員】連絡すれば大丈夫と思うので連絡してみる。一般の方に知ってもらえる機会にもあると思うので協力いただけると思う。

【菅原事務局責任者】ありがとうございます。お忙しい中お手数をおかけいたしますが、よろしく願いいたします。皆さまのご意見をいただきながら制作していきたいと思います。今後の会議についてですが、8月末は登録販売者の本試験となり、来月中旬から特訓に入られると思いますので、9月中旬以降にしたいと思います。その頃には、ある程度このような形のものでできるということをお示しできると思います。昨年度のブラッシュアップ部分は先行して進め、薬の成分やハラスメント系といったコンテンツ部分につきましては、皆さまのご意見を反映していきたいと思います。

【中野委員】過去問のところだが、同じ問題が出題されるのか。一問一答形式で出題されるのかどうか聞きたい。

【菅原事務局責任者】基本は本試験に寄り添った形で考えています。現時点では、一般的によくある e-learning を想定しています。それが良いか悪いかは、実証実験を通して判断したいと考えています。実証実験をした上で、一問一答形式が良いということであれば、そのように変えていきたいと思っています。あとは弱い部分をどのように見つけるかは、これから考えていきたいと思っています。ある程度こなしていく中で集約して再度出題するなどどこまで反映できるかは分かりかねますが考えていきたいと思っています。

【中野委員】すべてをやるとなると時間が掛かるので、一部分で同じような問題でも出題の仕方によって苦手な部分に分かるようになってもらうため一問一答形式で行っているが、アプリがどのような形で進めるのか、出てきてから意見していきたいと思う。

【菅原事務局責任者】受講者が問題に対して解答した結果などといったことは、管理者が見られるようにはしていきたいと考えています。そこでこのような傾向で出題された場合は、弱いなど判断していただけるようになればと考えています。等

(3) 令和6年度スケジュール説明が下記の通り行われた

【菅原事務局責任者】次回以降の会議につきましては、8月中には年間のスケジュールをお示ししたいと思います。また、実証実験においては、1月中旬以降を考えています。9月の会議は中旬以降で来月にご案内したいと思います。よろしくお願いいたします。等

4. その他

【菅原事務局責任者】昨年度制作した動画を授業ですると普段寝ている学生も起きて見ている光景が出てきています。効果はあると思いました。

【森田委員】登録販売者資格を目指す上での動画の使い方についてお聞きしたい。動画を見

せた後に実際の関連した問題を出してつなげているのか、それとも講義としてすべて教えることに特化して行っているのか。

【菅原事務局責任者】後者の方で、講義として教えています。

【森田委員】試験対策ということであれば、そこに連動させる方が良いと感じた。今覚えたものが試験問題ではこのように出題されるといったつながりを持ったやり方で進めるとタイミング的にもすごく効果が出ると感じた。全てそのようにつなげていくと学生にとっても腑に落ちていくのではないかと思った。

【菅原事務局責任者】おっしゃられる通りだと思います。将来的には、そのようにつなげるようなものができると思います。

【森田委員】せっかく動画があるので、上手く試験対策までつなげられるようにできればと思う。

【菅原事務局責任者】動きについて文章ではどのように書かれているか腑に落ちないといけませんね。

【中野委員】出題のされ方としては手引の文章が使われているため、そこを理解することが難解である。それが絵や動画で見られるようになると腑に落ちると思う。

【森田委員】有資格者の教育であれば動画だけで良いと思うが、資格取得を目指す方にとっては、ちんぷんかんぷんで全く聞いていないことを学ぶことになるため、試験対策としては連動した方が良く思う。

【菅原事務局責任者】当校の現段階では、初歩的な食べ物の流れであったり、生理学的な体の働きであったりとまだまだ入口の部分で使用している状況で、試験対策までのレベルではない興味を持ってもらえるような1年生に今は使用している状況です。

【中野委員】一番大変なところでもあり、最も大事なところで、それで普段寝ている学生が起きて話を聞いているというところに持つて行くことができてすごいこと。弊社も高校卒や大卒と様々な新入社員がいるが、全体で教えるので理解度がそれぞれ違うし、火の付き方も違う。

【森田委員】そうであれば、一番大変で苦労するところ、そこで効果が出てきているということは方向性としては正しかったことになっている。

【中込委員】ゴールを示して、そこにたどり着くにはここができないといけないということを分かってもらえることが難しい。等

5. 閉 会

【菅原事務局責任者】本日は、お忙しい中誠にありがとうございます。引き続き、よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

< 会 議 録 >

【会議風景】



＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和6年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」専門職業人材の最新技能アップデートプログラムの開発「一般用医薬品販売資格（登録販売者）に関するアップデートプログラム事業」
会議名	第1回プログラム開発WG会議
開催日時	令和6年9月20日（金） 15:00～17:00
場 所	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 会議室
出席者	委員： 菅原 武（事務局責任者）、中込和哉、横田 敏、山本恭之、片山芳信 （計5名）
【 議 事 内 容 】 【 目 的 】 開発するアプリ補助教材内容に関して共通認識を行うことを目的とした会議を開催した。 【 次 第 】 1_ 15:00 開 会 2_ 15:05 議 事 （1）開発するアプリイメージの共有認識 （2）開発進捗状況報告と意見交換 3_ 16:50 その他（連絡事項・意見交換等） 4_ 17:00 閉 会 ＜配布資料＞ 【資料1】議事次第 【資料2】事業概要（PPTX） 以下、次第に沿って会議が進められた 1. 開 会 【菅原事務局責任者】本日は、お忙しい中、まだ残暑厳しい暑さの中にも関わらず、会議ご出席いただきまして誠にありがとうございます。第一回プログラム開発WG会議を開催いたします。本日の会議は開発の進み具合と企画推進委員会会議から新たな協力先を取り付けられたことの報告などを中心に進めていきたいと思ひます。 資料の確認をいたします。お手元の次第及び会議資料のご確認をお願いします。また、会議資料はモニターでも映していますので、見やすい方でご覧いただければと思ひます。よろしくお願ひいたします。	

2. 議 事

(1) 開発するアプリイメージの共有認識と(2) 開発進捗状況報告と意見交換が以下のように行われた。

【菅原事務局責任者】機能の開発についてですが、Z o o m機能を生かしたオンライン、それぞれの消化器系の臓器を映しながら学べる、オンデマンド機能、自分で消化器系を出しながら学べる、動画は体内の薬の流れや食べ物の流れ、過去問がメインになりますが、過去5年分の消化器系出題を e-learning 機能を使って行う。といったものになります。

その他AR機能も考えていますが、本年度は難しいので来年度に取り組む方向です。これらを一つのパッケージにして提供するといった感じです。中身のコンテンツにつきましては、後ほど説明します。

本年度の取組みは、昨年度取り組みました動画のブラッシュアップを行います。動画を流しながら説明していきます(以降動画を流しながら説明)。ナレーションと動画の動きが揃っていないところがございますのでそれを揃えていきます。昨年とはイラストが違います。臓器の位置も体を横から見た場合このようになっているということを見せるため、回転させています。

また、現段階では、丸で臓器を囲っていますが、見にくいので色分けなどを考えています。追加で食道の動きを取り入れています。食べ物が逆流しなで胃まで到達するためにはどういう動きになっているかを見られるようにしています。受け入れやすいよう良い意味でシンプルなイラストで作成しています。といった感じで作成しています。

【中込委員】肝臓と胃の部分のイラストの色のところ、胃のナレーションの際に大きく映し出される際に、肝臓の色をもっと薄くして胃を強調した方が良い。ここで肝臓に色を入れる必要はない。

【菅原事務局責任者】その通りだと思います。十二指腸の部分も同じようにしたいと考えています。メリハリができていないところがございますので、修正していきたいと思います。

次に、e-learning システムについてですが、どのような内容にするかと申しますと、動画と同じところの神経系と消化器系の2019～2023年に出題された5年分の過去問を本試験の形で反映します。全体で200問以上ありますので、ランダム出題形式で考えています。来年度になりますと2019年度のものは削除し、2020～2024年ということで考えています。あまり積み上げますと膨大になる怖れがございますので、今のところこのように考えています。5年分が良いのかは、6年分にした方が良いのかといったことはこれから考えていくことになります。最終的な形式として苦手な部分をグラフ化するにはどのように括るのかといったことを検討しています。

例えば、消化器系の出題方式で問いに関してなのか、臓器に関してなのかといったところが変わってきます。並び替えの正しさなどは得意であるが、歯、胃、腸関係などの臓器は弱いといったところまで細かく見せるのか。といったところも踏まえたゴール感を検討しています。予算と時間の関係もございますので、それらを含めた上での検討をしています。現在は、2019～2023年度の5年分の過去問題を打ち込んでいるところです。

ARに関しましては、店頭や店内を想定していますが、AR用のパネルを作成して消化器系の臓器などを見せる方向で検討しています。パネルにしたのは、ARは座標軸を考える必要がございますので、高さ部分は一定にしておきたいということでそのように考えています。

また、動画の追加機能についてですが、過去問と連携することを考えています。先ほど流しました動画の胃などのアップのところを動かせる機能を付けますが、そこに自主学習として過去問ができるようにする。これは〇×方式で考えています。実際の本試験形式では e-learning で、消化器系臓器などのイラストでは自主学習で〇×形式という形で考えています。ここでは、集計、グラフ化の機能はいれません。

あとオンラインですが、一度に1,000人規模までを想定したものを考えています。同じ時間帯で1,000人までという想定をして進める予定です。それを超える人数は入れない方もいるようになりますが、今は、1,000人スタートで考えています。

【中込委員】過去問のランダム出題についてだが、各年度4～5問出題するということか。分野で4～5問ということか。

【菅原事務局責任者】各年度の消化器系からの4～5問出題する方向ですが、現段階では、その方向で考えているというだけであり、完全にランダム出題するのかといったことも含め、全体の問題数によって偏りがあっても良くないと思っていますので、これから議論が必要と考えています。

【中込委員】試験問題の作成の手引きによって作られているため、年度毎は意味が無いと思う。制度改正により、古く使えない問題が入ってきてしまう。よって、新しい年代の問題を多く使用するのが良い。毎年8ブロックで独自の試験問題で行われている。1,000問の問題が新しくでている。消化器系であっても20問は毎年出ている。それを使っていた方が良い。

【菅原事務局責任者】前年度の内容が良いのでしょうか。

【中込委員】23年度、24年度は使える問題ではある。22年度の問題は、内容次第であるが、制度改正前の問題が入っていると思われる。問題の添削をして、制度改正のものが入っていたら、削除する作業が必要である。

【菅原事務局責任者】出題する問題に関しましては、ご相談したいと思います。数をこなすことで達成感と自信が持てることもありますので、そのような視点からボリュームを持たせることができればと考えて、過去5年分と考えた次第です。19年度から23年度の消化器系や神経系の過去問の箇所は、赤字で括弧に入っていますので、これに制度改正前のもので問題として好ましくないものは〇×でチェックいただけますと助かります。

【中込委員】時間をもらえれば協力できるので、送ってもらえればよい。薬が絡んでいないものであれば、改正に左右されないところがあるので、その部分は比較的早くチェックできると思う。

【菅原事務局責任者】ありがとうございます。チェックは紙が早いと思いますので、プリントしてお送りしたいと思います。横田委員のご協力いただいてOTC協会さんにお伺いした

のですが、データベースセンターさんが良いとのことでご紹介いただき、特別に許可をいただきました。教育する立場として、本事業員の北日本医療福祉専門の高村先生から、例えば、風邪薬でいえば、どのような商品を見せるのかということでもいただきました。学生にはイブプロフェン、アセトアミノフェン、15歳以上と15歳未満といった括りで赤字部分の成分を理解するようにと分かりやすい事例として、ベンザブロックIPとパブロンSの写真で教えているということでした。このような写真は本体メーカーさんの許可がないと勝手に使用できないこともあり、特にWeb上に挙げられないため、データベースセンターさんの許可を得ることでこのことが解決することになり、自由に使用できるようにしました。

ただし、出典としてデータベースセンターさんを記載することになります。このようなルールのもと、最新のOTC医薬品の情報を取ることができるようになりました。鼻炎系であれば、ストナジェルサイナスを事例に学生さんに教えているといくことです。片山委員では、薬から教えるということはございますか。

【片山委員】薬から教えるということは限定的な形としてはいい。このようなものがあるといった紹介程度にしている。

【菅原事務局責任者】教え方として薬からというパターンはないということでしょうか。

【片山委員】そのようなパターンで教えてはいない。

【菅原事務局責任者】教え方は様々な形があるということが分かった。ありがとうございます。最新情報の選定についてですが、様々なOTC医薬品の最新情報は日々更新されるようですが、全てが必要な内容ではないと思われます。この点は皆さまにご協力いただきたいと思います。

情報例として配布資料10ページを参照いただければと思います。話が前後となりますが、有資格者向けとして、関係法令は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律と中心に法改正情報を提供していく、提供方法はe-learning、もしくは単純に法改正情報の改正前後を本でいえば見開きによる提供といった形で今のところ考えています。

次に、コミュニケーション関係としてハラスメント関係を手掛ける予定です。今のところ社労士に手伝ってもらい、会社でのパワハラ系を考えています。企業事例として委員の方に協力していただきました。基本、パワハラなどのハラスメントを起こす人はハラスメントの概念がないことが多い、失くすことは非常に難しいようですが、そこを注意できるような環境にすることが必要ということで進めようと考えています。

事例に関しましては、配布資料12～16ページを参照いただければと思います。本人は注意していると思っているが、熱心になりすぎて言葉に力が入って受け取り側がパワハラとってしまうこともあります。このようなことを注意してもらえるようなものを作りたいと思います。

イメージとして配布資料17ページのようなものになります。言葉の選び方でやる気をなくすのではなく、感謝されるようなやる気ができるような言葉があるという気づきを与えるように導ければと考えています。

次にナレーターのキャラクターについて変更のご連絡です。以前、お見せしましたキャラクターでは、動画にすると線が弱すぎていたため、しっかり目のものを作成してみました。おっとり系とキャリアタイプで作成してみました。

【片山委員】消化されていくもの、炭水化物や脂質といったそれぞれのキャラクターがあっても良いのかなと感じた。ナレーションとしてはこれでも良いとは思った。

【中込委員】それでは傍観者ではなく当事者になってしまうので違うのではないか。

【片山委員】学生と話をするとう消化されて小腸で吸収されるということは何となく分かっているようではあるが、それぞれの要素がどういったものか。胃で半消化されるものがどういものであるかといったことがイメージつきやすくなるのではと思った。

消化器系の動画全体のことで良いが、胃のところでペプトンという言葉が出てくるところで、説明文に対してのイメージが結び付いていないということも感じて話をした。十二指腸のところも色々出てくるのでせつかく動画があっても説明文とイメージの結びつきできないようなと思った。

【菅原事務局責任者】この部分は、私も気になっていたところで、消化液などを振りかけるようなイメージに変更するようにしています。

【片山委員】胃のところでも、はじめは扁平になっていて食べ物が入ってくると大きくなるといった動きのものが良いと思った。説明の内容と動画をリンクしてもらえれば良い。

【菅原事務局責任者】風船みたいなイメージで作るとのことですね。

【中込委員】玉子焼きなど具体的な食べ物が入ってどのように変わるのかといった感じにするということになるのか。

【片山委員】そういう示し方もあるが、特に何をということではなく、文章化されたものが動きにつながるようになるとイメージが膨らみやすく面白いと思った。

【菅原事務局責任者】この動画の中で具体的な部分というと、胃、十二指腸の他はありますか。

【中込委員】吸収でいうと小腸部分になるが、動画にするとなると難しい。胃や十二指腸で細かくされたものが栄養分として吸収されていくといった文章が中心になるのは仕方ないと思う。吸収されなかったものは大腸に残り、排泄されていくという流れになる。

【片山委員】胃の中で滞留時間がある。油ものとそうでないものでは滞留時間が違うといったことにつながるようなものになると良いと思う。白衣を着たキャラクターがナレーションで動画とリンクした文章を読み上げるといったものは良いと思う。

【菅原事務局責任者】成分を覚えることに関してですが、語呂で覚えるということはいかがでしょうか。例えば風邪薬の成分でいいますとア+ミンが多いといったことなどです。YouTubeでも多く出ていますが、これをアプリに入れるかどうかは別としまして現状あるのかお聞きしたいと思います。

【中野委員】語呂を使ったものが多く出ているが、個人的な意見としてはかえって覚えにくいと思う。

【山本委員】カタカナで覚えようとするとう難しくなる。英語で覚えるようにすると覚えやす

くなると思う。覚えなくてもいいが、少し深掘りすると入りやすくなるかもしれない。

【横田委員】語呂で覚えようとは思わない、カタカナで覚えようとする確実に覚えづらいと感じる。鎮痛や胃腸薬といった薬ごとに整理して覚えると良いと思う。試験には出ないところではあるが、入っていると逆に覚え方のきっかけ作りになるかも知れない。

【中込委員】漢方は調薬成分まで深掘りすると面白いと思うが、難しくなりすぎる。

【菅原事務局責任者】語呂で覚えるといったものは反映しないようにします。店舗管理の方は、使うことでしょうか。

【山本委員】知識は何のために使うのか、やはり理解して伝えるために覚えるので、自分が理解していなく、まる暗記の知識は使い物にはならない。

【横田委員】今の登録販売者資格試験対策は、相手に伝えるまでのことはなく、試験に受かるための暗記させるものになっている。

【中野委員】実際に現場出でてお客様の症状に対しての成分説明するときになってはじめて気づく。

【横田委員】昔のドラッグストアで行われていた対応と違って、今は添付文章以上の説明は控えるといった流れになっている。お客様の質問に対して違った回答をしてしまう流れになっている。

【山本委員】テレビで流れている薬のCMは、もっと読み込んだものを伝えているため、現場とズレが生じている。ただ、お客様が相談されたときに、その症状と薬の成分が合致するか、その説明がしっかりとできるかということだけは指導している。

【菅原事務局責任者】実際の手引きとのすり合わせ、調整含めて進めていきたいと思います。法改正の追っかけについてご意見を伺いたいと思いますが、今の法律があって、法改正があった部分の情報提供をしていくことにはなりますが、見開きで公布日や施行日を明記して新旧といった感じで提供することで良いのか、解説付きを入れて提供していくのが良いのかということになると思いますが、膨大な量になってしまっただけで対応できないということになれば自走できなくなってしまい本末転倒となります。

情報は文章、テキストベースで良いと思われますか。使い勝手が良いようにしていきたいと考えています。現段階ではテキストベースで提供を考えています。

【山本委員】二段階あると思う。法改正の変更の条文があって、それに関係する品目や名称といったリストが必要になる。条文と内訳が必要なところは情報提供する。それがボタンなどをクリックすると二段階で出てくるといったようになると使い勝手は良くなると思う。法改正の情報のアップデートがしやすくなると思う。実務に直結できると思う。

【横田委員】法律があり、施行規則があり、通知があるといった段階をクリックして進めるようなものになると実務に役立つものなると思う。

【菅原事務局責任者】新しい情報を更新した際には、全てが新しくなっている。施行前の情報は通知するという流れで進めたいと思います。

【山本委員】厚生労働省のサイトに飛ぶようなものでも良いと思う。

【中込委員】ただ、PDFで膨大な文章が並んでいるだけにはなるので、分かりづらい。読

< 会 議 録 >

んで分かる方は良いが、やはり解説があると分かりやすくなると思う。

【横田委員】変わったところだけを解説風にした方が良いと思う。厳密に言えば、新旧の理解は必要であるが、現場としてはお客様への対応方法は変わったもので対応するため、変わったところだけで引き抜いて解説付きの方が良いと思う。

【中込委員】例えば、売られている医薬品で例外規定があったものが、例外規定が全て無くなったという通知があるが、実際には、変わったことによってどのような影響を及ぼすのかといったおものは文章だけでは伝わらない。改正の必要性などの解説付きは必要である。研修に使うとなるとそこまで掘り下げる必要がある。

【横田委員】サプリの事件などがあったが、食品衛生法が変わるとなると健康被害の報告義務の変更など実際には現場では必要な知識である。商品名、商品のパッケージはすごく大事である。通知では商品に結びつかないが商品を見ると日常業務を結びつくので、そこで覚えることになると思う。

【菅原事務局責任者】今回協力していただく、データベースセンターさんからの情報があると結びつきやすくなるということでしょうか。

【横田委員】商品のパッケージを見ると身近に感じる。商品を掲載した理由はどのように説明するのか。

【菅原事務局責任者】お客様目線で選んだということで説明したいと思います。

【山本委員】市場のシェア率から選ぶと良いかもしれない。ただ、現場では商品名や商品パッケージではなく成分を覚えるようには指導している。

【菅原事務局責任者】ハラスメント系についてですが、今月末に社労士から原稿が届く予定ですので、確認して次の会議でご報告したいと思います。等

3. その他

【菅原事務局責任者】次回の会議は、すでに会議スケジュールは皆さまにお送りしていますが、実証実験WGで10月4日（金）15時～、会議開催をいたします。よろしくお願いいたします。等

4. 閉 会

【菅原事務局責任者】本日は、お忙しい中誠にありがとうございます。引き続き、よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

< 会 議 録 >

【会議風景】



＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和6年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」専門職業人材の最新技能アップデートプログラムの開発「一般用医薬品販売資格（登録販売者）に関するアップデートプログラム事業」
会議名	第1回実証実験WG会議
開催日時	令和6年10月4日（金） 15：00～17：00
場 所	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 会議室・オンラインホスト
出席者	委員： 会議室：菅原 武（事務局責任者）、山本恭之、中野陽介（ゴダイ株式会社）、片山芳信（計4名） オンライン：中込和哉、森田圭一朗（株式会社サッポロドラッグストアー）（計2名） （合計6名）
【 議 事 内 容 】 【 目 的 】 実証実験に向けて開発する補助教材アプリ内容について意見交換目的とした会議を開催した。 【 次 第 】 1_ 15：00 開 会 2_ 15：05 議 事 （1）アプリ開発進捗状況報告と意見交換 ・登録販売者資格取得者向け（初級者編） ・登録販売者有資格者向け（アップデート編） （2）実証実験について（内容とスケジュールなど）意見交換 3_ 16：50 その他（連絡事項・意見交換等） 4_ 17：00 閉 会 ＜配布資料＞ 【資料1】議事次第 【資料2】事業概要（PPTX） 【資料3】修正動画 以下、次第に沿って会議が進められた 1. 開 会 【菅原事務局責任者】本日はお忙しい中ありがとうございます。会議開始時刻になりました	

ので、第一回実証実験WG会議を開催します。よろしくお願いいたします。

2. 議 事

【菅原事務局責任者】それでは、次第に沿って進めさせていただきます。本日は登録販売者資格取得者向けのアプリ開発が、現段階でどこまで進んでいるのかの報告と実証実験を本年度実施しなければなりませんので、その点について議論を進めていきたいと思います。

(1) アプリ開発進捗状況報告と意見交換が行われた。

【菅原事務局責任者】まずは全体のイメージとどのようなものを盛り込んでいくのかといったことを説明させていただきます。昨年度もお示しましたがアプリ開発をします。Zoom機能を使つてのオンラインやe-learningといったオンデマンド的なもの、動画も視聴できるといった知識の定着を目指す基礎的なトレーニング、食べ物や薬の流れのイメージが持てるといったものを目指します。その中でステップアップとして法改正やOTC医薬品の最新情報、ハラスメント系を中心に盛り込んだものを開発しています。

動画に関しましては、先日のプログラム開発WGでも議論しましたが、食べ物の流れが図形でしたので、具体的な食べ物にするという意見がございましたので、そのように修正をしていきます。次に胃の部分ですが、動画では分かりにくくなっていますが、色分けをしっかりと修正していきます。ここでも胃の形を修正していきます。何も入っていないときは、しぼんでいて食べ物が入ると膨らむといったように、風船のようなイメージで修正します。

また、十二指腸部分も膵液と胆液がかゆ状になった食べ物にシャワーのように降りかかっている動画を追加します。動画の修正につきましてはこれらのことを行い、他はナレーションと合わせた動画をバランスを取りながら完成に向けて作業していきます。

次に、e-learningになりますが、消化器系の所で2019～2023年の過去問を抜粋して反映するようにしています。全体で180問ぐらいになります。その中で過去に出題されたものが今でも使えるかどうかのチェックが必要ですので、この部分は中込委員と横田委員にお願いしているところです。

ARに関しては来年度になりますが、パネルを用意してそれにかざすと消化器系の臓器が出てくるようなイメージで考えています。どこかの店舗にパネルを設置いただいてそこにかざすと様々な消化器管が見られるといったことができるように今のところ考えています。次に、ステップアップについてですが、薬事法の法改正更新とコミュニケーション関係になります。コミュニケーション系はハラスメント系で中野委員と森田委員にご協力いただいて企業事例を出していただきました。この部分をどのように具体的に反映していくかといったことになりますが、今年度はゲーミフィケーションの流れを重視にして作り上げていきたいと思っています。

新薬情報についてはセルフメディケーションデータベースセンターさんとの連携ができましたので、そこで随時新薬情報が更新・掲載されます。その情報の中から選定したものを掲載していくといった流れになります。著作権の関係から勝手に二次使用などできないことにはなりますが、本アプリに関する場合のみ提供が可能となっています。

ステップアップはこの三つを柱として進めていきます。では、実際にアプリにした際についてとなりますが、オンラインで実施する場合は、Z o o m機能を使用します。Z o o mが使いやすいということでその機能を使います。規模的には、1, 0 0 0人までは同時刻で使えるようにしています。例えば、委員の方の企業で一斉に15時から使用する場合、1, 0 0 0人までは対応可能ということになります。2, 0 0 0人以上になりますとサーバー費用などの問題がございますので、1, 0 0 0人をMAXとしています。消化器管の画像を双方向で扱えるといった機能につきましてはサーバー容量や予算の問題が出てくるようですので、もしかすると現在詰めているところではございますが、双方向ではなく、スマホゲームのように片方が動かせるということになるかもしれませんのでその点はご了承くださいたいと思います。

ここでも消化器管の画像と過去問との連携ができるように考えています。ただ、グラフや集計まではできなく、○×による解答と解説になります。e-learningは講師や教員、人事担当者などの管理者が居てその下に、学生や社員さんが学んでいき、進捗状況や点数などが見られますが、管理者がいない自主学習ができるようにと機能を追加しました。

【中野委員】解いたかどうかを確認することはできるのか。

【菅原事務局責任者】できない、あくまで個人ベースの自主学習機能として考えています。

【中野委員】受講した人が記録に残るような機能が入るのか。

【菅原事務局責任者】記録に載せないようになると思います。あくまで反復と復習を行い確認していくということになると思います。この機能では、気軽に次々に進めるようにはしていきたいと思っています。この点は実証実験の結果を見ながら課題の抽出と改善を考えていきたいと思っています。

次に、薬の成分の覚え方についてですが、代表的な薬を見せながら薬の成分を覚えるという方法で行ったりしますが、学校などの教育機関の授業では許されているケースになりますが、アプリなどは色々な方が見られますので、許可が必要となるそこは先ほどご説明しました通り、データベースさんと連携しながら出典先をしっかりと説明文や商品の写真を明記しながら進めていきます。

ハラスメント系についてですが、中野委員と森田委員に事例協力をいただきましたので、それを参考に進めていきたいと思っています。会議後に資料をお送りいたしますのでご確認いただければと思います。質の担保として社労士を入れて作成していますが、ちょっとぼやけた感じになっていますので、この点は詰めていきたいと考えています。この内容で気になる点があります。マニュアルを作成していなければパワハラにつながるような意味で捉えられていますが、企業としてこのような事例などはございますか。

【中野委員】部下が教えてもらう時にマニュアルをもらえなかったということか。

【菅原事務局責任者】それもありますし、例えば、お客様への対応に困った際の対応策のマニュアルといったものなどです。マニュアルが無かったために大変で嫌な思いをしたということでハラスメントとして捉えられたなどです。

【中野委員】弊社では、それが原因にはならないと思うが、マニュアルも含めて教えてもら

えていないということにはあるかもしれない。全てのことに細かく対応できるように形にしないといけないという流れは出てきていると思う。臨機応変や自身で考えて行動するということができなくなってきたように感じる。マニュアルが無いことで教えてもらえないとつながりハラスメントに感じる人は一定数いると思う。

【森田委員】同じように感じる。指導する側は、個人のスキルに合わせて教えているが、自身が思っているような力量に合わせたものを教えてもらえないとか、指導を受けていないところなのにある程度の力量を見せるといったことはできないといったことで嫌がらせに捉えられることがある。コミュニケーションが絶対に必要ではあるが、個人個人のスキルに合わせた作業をマネジメントして振ることが昔より重要視されてきていると感じる。

【中野委員】自分たちでも考えさせられるような余地のあるもので作っていったらどうか。自分で考えさせるような方向で作っていった方が良い。ヒントになるような感じで自分に置き換えられるようなものにしてはどうか。

【菅原事務局責任者】問いかけみたいな感じで、このような言い回しで伝えると嫌な思いがしない人が多い、不機嫌になる人はそこまでいないと思いますといった感じで作ろうと思っています。

【山本委員】課題認識、課題を感じて提案ができる、具体的にさせていなくいと解決に結びつかない。説明ができるように導くことが必要と思う。

【菅原事務局責任者】今回はゲーミフィケーションで作っていくので、気づきを与えることになると思います。その先は集合研修などでグループワークを取り入れて進める方が良いかもしれません。教材に使えるようにして教材作成の負担減につながればと思っています。

【山本委員】社労士の執筆ですが、具体的に事務所名などは明記するのか。

【菅原事務局責任者】明記します。社労士にも話をしており、了承得ています。ご協力いただく社労士事務所は、企業や法律事務所といったところで幅広く人材教育をしています。ゲーミフィケーションの流れとしては、シチュエーションから言葉の選び方、第一回の企画推進委員会で森田委員の案を取り入れて表情によって間違いに気づくなどの流れで考えています。

【山本委員】最新情報の製品の添付文章があるが、添付文章は常に更新されるため、何年何月に更新されたということはどの場所に掲載するのか。

【菅原事務局責任者】提供する際には、何年何月の更新日を含め、一覧に業者が整理したのを確認して行います。ただ、どのような医薬品の情報がほしいのかは、皆さまからお聞きしたいと思います。今後の検討材料になりますが、必要のない情報は掲載しなくても良いと考えています。

【中野委員】リスク区分が変更されたものは、是非とも入れてほしい。例えば、今までは要指導が第一類になったものなど。

【菅原事務局責任者】大枠でリスク区分という括りで、今であれば2024年10月で何が変更されたのか、そこに商品名の情報を入れるようにしたい。ステップアップで大きなデータの中から必要な部分を抜粋して整理されたものに仕上げていけば皆さまのお役に立てる

のではと考えています。漏れているものがあれば、抜き出して掲載することは」容易です
で、そこは常時対応するようにしていきたいと思います。

最後に、アプリのデザインについてですが、案としては、大きな入口があり、登録販売資格取得に向けた初心者用の入り口と有資格者、ステップアップの入り口があり、それをそれぞれ入っていくことになります。登録販売者資格取得を目指す方は、神経系と消化器系の動画あり、そこから **e-learning** の過去問やARに入っていく。

ARにつきましては、別枠にしてトップに行くことも考えていますが、階層的にはこのような感じになっています。動画は、全体的な流れから部分的なものを見ることができ、そこから過去問に結び付ける。動画と **e-learning** の過去問は別ものになります。

ステップアップはOTC医薬品の最新情報と薬事法改正、ハラスメント系の入り口があり、そこから入っていく形となります。法改正は解説まで入れることは必要と思いますが、シンプルであれば、変更部分のみを伝える、厚生労働省とリンクを貼ることだけでも役に立つのではと考えます。ナレーションはこのキャラクターがしゃべるようにしたいと考えています。

【中野委員】誰がどこまで見たかという進捗状況はできるのか。動画を全編見ないと過去問に行けないという段階的にクリアしないと最後までたどり着けず、完了できないようなものはできるのか。

【菅原事務局責任者】そこも課題の一つになります。動画と **e-learning** を一括りにするするのか、理解度だけを求めるとなると **e-learning** だけでも良いのでその点は検討するところになります。

【中野委員】せっかくなので、より新しいものを作り上げていって、頭でイメージしやすいようなものを見て、次に進んで過去問を解く行動になってもらえるといいが、進まない場合は完了していないので注意ができるようになるようにしてもらえると良いと思う。授業を受ける時に解いたかどうか分からない場合は、単にスルーしているかもしれない。取り組んでいるかどうかぐらいは分かるようにしてほしい。

【菅原事務局責任者】ステップアップの方は管理者画面を作成することは決めています。また **e-learning** の場合も作るようにしています。ただ、動画の場合はどうするのか。試験対策の期間をどのぐらいに設定するのかを検討していかなければならなくなります。1年間管理者の方が見守り続けていけるのかなどということから入らないと進め方も違いますので、ここは議論を重ねていくことになると思います。ステップアップの方は、試験対策ではなく、実務上知っておくべきものを盛り込んでいくので、管理者の方のチェックは長期間見られるようにしても良いと思っています。

【山本委員】**e-learning** は管理者画面があった方が良く、動画だけは何のための動画かというと、学習の成果を上げるための動画になるから、記録は無くても良いのではないかと。分かっている人は動画を見ない。そのような人はかなりいると思うので、必要ないのではと思う。

【森田委員】中野委員と重複する部分はあるが、登録販売者資格を取るための試験勉強というと管理者側はどのように取り組んでいるのか、理解度がどの程度上がっているのかという

ことは把握しておきたい。理化しているチェック要素として動画を見ているかどうか、動画を見ている時の使い方は知りたいところ。

例えば、Aさんは動画を見ていなくても過去問は満点を取っているということであれば、理解しているので動画を見る必要はなくなる。

ただ、e-learning の過去問で点数が取れなかった人は動画を見ていない、動画は見ているが動画からリンクしている関連した問題を解いていないということであれば、そこに関してやるべきことがあるといったアドバイスやケアをするきっかけづくりになる。管理者側のツールとしては、すべての受講者側の行動が分かるような履歴が追えるような状況にしていた方がメリットはあると思う。

動画については予備ツールなので、見なくても良いということはその通りであるが、理解できていない人の履歴を追うこと、進捗管理ができることになれば、要素としてより良いものになると感じた。

【菅原事務局責任者】管理者画面を作る方向で検討しながら進めたいと思います。

【中野委員】動画あるから利用するようにと伝えることで、管理しやすくなるきっかけにつながると思うし、資格取得への行動に対するチェックなど早く気付くことにつながると思うので、管理負担は大きく違うと思う。

【片山委員】専門学校の学生に教える側としては、学生がどれほど勉強しているかの確認はしていかなければならない。解かない学生は本当に解かない、やる学生はすごくやる。言葉だけだと気付かない。それを見えるようにするだけでも十分な価値はあると思う。何回やっても間違える部分が追跡できる、見えると良いと思う。

【中野委員】そう考えると大変なシステムになると思う。

【森田委員】動画についてであるが、視聴状況のタイミングというか仕組みの話にはなるが、よくあるのが、動画を見るということでタップすると記録が残るというものにするのか、それとも動画毎の時間があるが、最後まで見たということで視聴できたと認識されるのか、どっちを考えているのか聞きたい。

【菅原事務局責任者】今のところ、一つずつ完了してステップアップして進めていくということは考えていません。タップした段階で年月日時間というように管理され、視聴したという履歴はできると考えています。ログアウトの時間も設定できますので、入った年月日時間とログアウトした年月日時間で管理するという方向で考えています。

例えば、登録販売者資格取得の勉強をしている方でいいますと、消化器系の動画を見ます、ここで年月日時時間が登録されます。そこから各消化器管の説明を視聴しながら過去問でのトレーニングをしました。勉強が終わり、ログアウトしましたというところで年月日時間が登録されます。といった感じでどの部分に入ったかどれほど時間を掛けたか、ということは分かるように考えています。

よくある e-learning の仕組みとして、ステップアップしながら一つ一つクリアしていくような流れがありますが、今回開発する内容は、神経系と消化器系ですので、ステップアップというよりも理解度の向上を重視するものですので、動画と過去問に取った時間と理解度の

確認ができるようになることが良いのではと考えています。ただし、実証実験研究事業ですので、実証実験の結果、オンデマンド形式による e-learning システムに盛り込んでステップアップする方向が良いのであれば改善していかなければならないと思っています。

【中込委員】動画の過去問と e-learning の過去問は別物にするという説明があったが、どのような形にするのか聞きたい。

【菅原事務局責任者】動画の確認は○×形式などの2択にして、e-learning では実際の過去問からのランダム出題を考えています。ただ、集計につきましては、個々の正答率まで導き出すとした場合、出題される選択肢の数を統一した方が集計しやすいと思いますので、考えていきたいと思います。

【中野委員】出題の形式に統一感がないとデータ化しにくい。

【森田委員】確認用で出てくると過去問が重複するところがあると説明があったが、内容が重複するのか。

【菅原事務局責任者】出題方法が違うだけで内容が重複するということです。管理者の方が戸惑わないように考えていきたいと思います。

【森田委員】受講者側は自分の履歴を見ることができるのか。

【菅原事務局責任者】はい、それももちろん取り入れます。

【中野委員】受講者側自身が苦手なところが確認できるようになっていれば良い。管理者は全体を通して見られるようになると良い。

【森田委員】自分がどのような状況なのか、何が把握できて何が把握できていないか、ぱっと見て色の変化などで理解度状況が分かるようなもの、個人で行う場合は、個人で完結できるものにしてもらえると良いと思う。一人で勉強できない人もいるので、その場合は全体が見られるようなものと切磋琢磨できると思う。

【山本委員】神経系と消化器系に特定しているが、e-learning による学習の到達度の期間はどの程度想定しているのか。集中的なものなのか長期的なものなのかお聞きしたい。

【菅原事務局責任者】高校卒業の方を想定した時には1年以上は学習する期間が必要と思われるので年単位と思われます。ただ、集中するといったところに関しましては指導員にお任せすることを今のところ考えています。ただ、準備期間や理解度を高めるといった下の基準で設定する場合は、年単位を考えています。

【山本委員】受講者がスタートしてから1年以内に理解度が高めることができる到達度を目指しているということか。

【菅原事務局責任者】今のところそこを考えています。

【中野委員】現場的な感覚では、4月に入社した方は、8月に試験を受けるため、4カ月で資格取得を目指すことを行っている。年単位のボリューム感で考えると少ないと思う。期間で終わらせるか、全体的なものにしていく方向でも良いのではと感じる。

【菅原事務局責任者】専門学校の視点絵はどうかお聞きしたい。

【片山委員】専門学校で考えると期間が長くなる。時間がある分勉強する時間はゆるやかになっていると思う。期間の部分は、企業さんとは違ってくる。高校卒業したばかりの学生に

短期間のものを与えると気力が保てないところがある。勉強する立場や状況が違うことが大きなところだと思う。

【菅原事務局責任者】あくまでも開発するアプリはメイン教材ではなく補助教材なため、期間は長く緩く感じるもので良いのでは思っています。一方、これを機に、もっとイメージ感がほしいところがあるといった声がでてくる可能性もあると思います。そこは可能な範囲で反映していければと考えています。今の考えの段階での評価は見てみたいと思います。

【片山委員】問題は、神経系の所を押すと順番に神経系の問題が出てくるのか。

【菅原事務局責任者】そこはランダムで出題されることになります。過去に出題されている順番通りには出てこないように考えています。

【中野委員】そうあるべき。答えの順番を覚えて解答する人もいる。

【山本委員】可能であれば、資格取得向けと有資格者向けのキャラクターの色を分けてほしい。背景の色や白衣の色を変えるだけでも良いと思う。

【菅原事務局責任者】有資格者向けには、レベルアップしたキャリア女性にするといったことでいかがでしょうか。

【中野委員】それも有りだと思う。

【中込委員】e-learningに出題される問題と動画で出題される問題だが、動画で出題される問題は、短文の正誤問題にしても良いのではと感じた。e-learningの問題数を統一するところは、気を遣わなくても良いと感じた。

【菅原事務局責任者】ありがとうございます。ご指摘の点は課題として考えていきたいと思っています。等

（２）実証実験について（内容とスケジュールなど）意見交換

【菅原事務局責任者】会議スケジュールについてですが、今年度はあと４回を予定しています。実証実験は１２月下旬からを予定していますがいかがでしょうか。兵庫県では、試験が台風の影響で９月実施する予定が１２月になってしまっていますので、年明け１月の中旬以降を考えていますがいかがでしょうか。

【中野委員】１～２月が動きやすい。

【森田委員】実証実験は、具体的にどのような内容で行うものなのか。

【菅原事務局責任者】今アプリ開発しているものを実際に使っていただくことになります。

【森田委員】対象者は、登録販売者試験を翌年受験する予定者か。

【菅原事務局責任者】翌年受験を考えている方、もしくはすでに資格をお持ちの方です。実証実験といっても授業にはなりません。時間がどの程度取れるのかということになります。

【森田委員】時間ありきになるのか。

【菅原事務局責任者】専門学校がリカレント教育するということになりますので、時間ありきで考えています。

【森田委員】決められた時間で例えば、授業の時間があってそこに参加するということになるのか。

【菅原事務局責任者】すべてがそうではなく、本年度Webにアップはしますので、それをダウンロードいただくことにはあると思います。ただ、スタートする際の説明会などを設けることが必要なのではと考えています。その説明会は、企業の教育係でも構わないと考えています。

【中野委員】説明した後で、実際に触るということになるということか。

【菅原事務局責任者】アプリ開発で時間を取られているため、まだ、こうあるべきということがお話できないのでざっくりとした説明で申し訳ございませんが、対象者を集めて講義で使用することで教えることや時間などの負荷が軽減する。対象者の理解度が高まるといった方向性としてはそのような感じになります。タイムスケジュールなどはこれから整理に入ります。

【中野委員】店頭で使うことを考えていた。そうではなくて対象者を集めて講義を行うが、このアプリを使うことでタイムパフォーマンスが生まれるということで理解した。我々が使ってみてその使い勝手に対して意見を言う。

【菅原事務局責任者】実証実験の際には、実際に教育の場の雰囲気がどのような感じで行われているかといったことを撮影させていただきたいと思います。

【中野委員】例えば、弊社の内定者向けで全く勉強していない方にイントロダクション的な使い方もありなのか。登録販売者資格取得は必須であるので。

【菅原事務局責任者】それでも可能です。社会人1年生になる方向けの教育ツールとしてご使用いただければと思います。

【中野委員】昨年はこのようなものがなかったので、できなかったが、今年はやってみて意見を出してみる。

【菅原事務局責任者】色々な意見を出していただければ、今後の参考にして改善を重ねていきたいと思います。

【中野委員】勘違いしていた。店頭で使うものと考えていた。

【菅原事務局責任者】ARはそうになると思います。

【中野委員】健康食品のところが今後かなり変わってくると思う。

【菅原事務局責任者】そのようなご意見をたくさんいただいて、使えるアプリになるように反映していきたいと考えています。実証実験につきまして、今後、ご相談していきたいと思います。

【森田委員】実証実験ですが、12月からの繁忙時期や別件の研修等で3月までは厳しいと思います。はつきりとは言えないが、4月以降の春先であれば、新入社員研修などで使ってみることはできると思う。

【菅原事務局責任者】承知しました。ご連絡ありがとうございます。そのことに関しましては、ご相談させていただければと思います。Web上に掲載しますので、その際にご確認いただければと思います。等

3. その他

< 会 議 録 >

【菅原事務局責任者】次回の会議は、お渡ししています会議スケジュール通りに、プログラム開発WGで11月13日（水）15時～、会議開催をいたします。よろしくお願いいたします。等

4. 閉 会

【菅原事務局責任者】本日は、お忙しい中誠にありがとうございます。引き続き、よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和6年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」専門職業人材の最新技能アップデートプログラムの開発「一般用医薬品販売資格（登録販売者）に関するアップデートプログラム事業」
会議名	第2回プログラム開発WG会議
開催日時	令和6年11月13日（水） 15：00～17：00
場 所	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 会議室・オンラインホスト
出席者	委員： 会議室：菅原 武（事務局責任者）、高村幸生、中野陽介（ゴダイ株式会社）（計3名） オンライン：中込和哉、横田 敏、森田圭一朗（株式会社サッポロドラッグストアー）（計3名） （合計6名）
【 議 事 内 容 】 【 目 的 】 開発するアプリ補助教材の内容と実証実験の時期について意見交換を行うことを目的とした会議を開催した。 【 次 第 】 1_ 15：00 開 会 2_ 15：05 議 事 （1）開発進捗状況報告と意見交換 （2）実証実験に向けた意見交換 3_ 16：50 その他（連絡事項・意見交換等） 4_ 17：00 閉 会 ＜配布資料＞ 【資料1】 議事次第 【資料2】 事業概要（PPTX） 以下、次第に沿って会議が進められた 1. 開 会 【菅原事務局責任者】 本日は、お忙しい中、まだ残暑厳しい暑さの中にも関わらず、会議ご出席いただきまして誠にありがとうございます。第二回プログラム開発WG会議を開催いたします。本日の会議ですが、まずは、現在、どの程度進んでいるかのご報告をさせていただきます。その後、委員の皆さまから忌憚のないご意見をいただきたいと思います。よろしく	

お願いいたします。

2. 議 事

(1) 開発進捗状況報告と意見交換が以下のように行われた

【菅原事務局責任者】開発の進捗についてですが、e-learning、過去問○×形式のもの、ハラスメント系、最新情報系をどのようにまとめているのかというところを全体的にご説明いたします。その後、皆さまのご意見をいただきたいと思います（配布資料3ページを参照）。

何度もお見せしていますが、様々な機能を組み込んでいるという全体像です。動画があり、今回は消化器系などをメインにしていますので、その臓器が出てきて、そこから過去問を○×形式にしたものが出題されるといったところになります。

e-learning やステップアップの関係法令やコミュニケーション系としていますが、今回はハラスメント系に取り掛かっています。皆さまに事前に会議資料をお送りしている内容の通りになります。

アプリにつきましては、Zoom機能を取り入れてワイプみたいな形のオンラインで出来るように進めています。同時刻実施する規模は予算の関係上、1,000人までとしています。1,000人は1カ所ではなく色々な企業様や学校様といった複数の所から入れる限界値としています。例えば、13時～15時で行いたいと考えている場合は、A社、B社、C校で1,000人になった場合は、他の所はこの時間使用できない状況となり、時間帯をずらしていただくことになります。この時間帯を外れると、また1,000人MAXということに入れるようになるといったものを考えています。

動画につきましては、前回ご指摘がございました胃の動きについて修正をかけます。胃に内容物が無いっていい状態は押しつぶされて平たくなっているようになっていて、内容物が入ってくると膨らむといったように修正します。また、ここに過去問と連携するような一問一答的な○×形式で反映していきたいと思います。過去問の出題形式が実際にどのように変わるのかといったところですが、通常でしたらマークシート形式ですので、例えば四択の場合、該当する番号を選んで塗りつぶします。この出題形式はe-learningで反映させます。

しかし、動画と連携した問題につきましては、四択の番号ごとに問題文を付けて出題します。問に対して○の場合は、記述文章通りと記載します。×の場合は解説を付けます。解説は手引きの解説文章を取り入れます（配布資料4～5ページを参照）。

有資格者向けのステップアップ部分ですが、今年は薬事法の全体の関係条文と規則、参考としている共通テキスト部分を反映させます。どこがどのように変わったのかは、テキストベースで反映しようと思います（配布資料6～8ページを参照）。

次に、パワハラของเกมフィケーション部分になります。例えば、忙しいといったシチュエーションがあり、部下が話しかけてくる、相談しに来た場合、どのような行動をとるのかといったところで、上司の対応を選ぶ、それが良ければ笑顔になる、悪ければ悲しい顔になる。ただ、ここで決定するのではなく、もう一段階設定して悪い対応の場合はどのようにすれば良くなるのか、最終的に笑顔になるように進めるようになる流れを考えています（配布資料9ページを参照）。

スライド的なものも考えましたが、イラストを取り入れるとなると階層的にした方が作りやすいということもあり、階層にしています。ハラスメントはご存じの通りデリケートな部分でもございますので、初期対応が悪くても次の対応で巻き返せるといった気づきを与えることができればと考えています。

OTC医薬品の情報については、セルフメディケーションデータベースセンター様からパッケージデザイン、説明文、成分説明などの情報を提供いただけるようになっています。このような形で考えています（配布資料10ページを参照）。

駆け足でご説明させていただきましたが、ここで先ほどの過去問をどのように作成したのかお見せしたいと思います。実際の過去問は四択などになっていますが、1択ごとに問題を付けてすべてを○×にしています。解説に関しましては、共通テキストの過去問の解答を参考に作成しました。（1）（2）という問題であれば、おおよそ各年度40問程度となりますが、この○×形式では、一問一答形式のようになりますので、四択であれば40問×4で160問程度の問題数になります。問題が重なっているところは削除していきますので、ここまでにはなりません。2019年度から2023年度の5年間を反映していきますので、単純にイメージとしては160問×5年分といった感じになります。ある程度のボリュームがある中から出題されるようになっています。

【中野委員】どの問題が出るかはランダム出題ということか。

【菅原事務局責任者】はい、ご理解の通りです。

【中野委員】出題された問題の集計はされないということで間違いないか。

【菅原事務局責任者】あくまで確認という位置づけですので、集計はされません。ただ、実証実験を通して考えていきたいと思っています。

【中野委員】e-learningの過去問は集計できることで間違いはないか。

【菅原事務局責任者】はい、ご理解の通りです。

【中野委員】学生などに講義している中で、自分で触って解いてみてという感じなのか。

【菅原事務局責任者】そのようなこともできますし、自己学習として自宅で動画を見ながら確認していくこともできるようにしています。ランダム出題形式ですので、開くたびに新しい問題が出題されるといったイメージです。当然、問題を固定していないので、先ほど解いたもの、似たような内容が出題されるということもあり得ます。パワハラについてですが、このような流れになります。

【中野委員】選択肢が三つあるが、誰が見ても一番上を選ぶと思う。パワハラをする人はパワハラということを自覚していない。ただ、この出し方は考え直した方が良い。

【高村委員】選択肢を無しにして記述形式にした方が良いと思う。自分の意見を述べてください。というようなものでも良いと思う。

【中野委員】それを判断できるようなものはAIを取り入れても難しいと思う。

【高村委員】この選択肢だと良いものしか選ばない。

【菅原事務局責任者】点数を付けるかどうかはこれからですが、あくまでゲーム感覚でここを選ぶとどうなるか。ということで使っていただければと思っています。二択で微妙にさせ

るのが良いとは思いますが、一度、想定するものを取り入れてみて実証実験等を行った上で改善していきたいと考えています。

【中野委員】 良い内容とは思いますが、本当の意味での気づきにはならないと感じる。

【菅原事務局責任者】 講義とセットであれば効果が出るのではと思うが、ご意見を伺う中で言い直しなどは修正していくべきだと思っています。

【中野委員】 どちらにも取れるような文章をもっと取り入れた方が良いと思う。どちらか○ではなく、どちらも×という出し方も考えた方が良いと思う。

【高村委員】 それは有りと思う。ハラスメントの種類によって考えると良いと思う。

【菅原事務局責任者】 ありがとうございます。検討していきます。

【中野委員】 レベルアップのものなので、上司の立場としては流れ的にはこれで良いと思うが、部下の立場、特に中間管理職側に寄り添ったものがあると良いと思う。職場では、店長と社員、パートさんという構造がある。パートさんが店頭に言えないことを社員に言う、店長がパートさんに言えないことを社員に言うといった板挟みの社員向けのものがあるともっと良くなると思う。

【菅原事務局責任者】 ありがとうございます。検討していきます。

【中込委員】 ハラスメントをする側と受ける側があるが、どちらも取り上げるのか。

【菅原事務局責任者】 今のところ、時間の関係上、上司から部下に対してのハラスメントを作成する方向です。

【中込委員】 上司の立場で設問を考えているのか、部下の立場で設問を考えているのか。上司から言われたことをハラスメントに入れるのか。

【菅原事務局責任者】 今回は、上司が部下に指導するといったシチュエーションで作成しています。ステップアップ研修は、登録販売者資格を取得している方々になります。当然、そこには新入社員の方もいらっしゃいますので、この先、どのようなシチュエーションがあるのかということから検討していきたいと考えています。

【森田委員】 皆さんのご意見と同じですが、一番初めに明らかに選ばないものが出てくるのは選択肢としては分かりやすく良いが、問題としては狭まってしまうと思う。本来である気づきということを求めるのであれば、どちらだろうと思わせるものがあると良い。また、最後の方でリカバリーできるものがあれば、総合的に点数を出すようなものがあると良いと思った。どこの時点で点数が低かったのか、この流れで進むと80点、他の流れだと60点、ここは100点など明らかにメリハリをつけるのではなく、△で進めると現実近づけるようなものになるのではと感じた。

【菅原事務局責任者】 ルートによる点数を付けるようにするということですね。ありがとうございます。

【中野委員】 正直、正解がないのがハラスメントと思う。伝え方についても同じ言葉で話す人が違えばハラスメントに受け取り側は感じる。何がハラスメントになりやすいのかを伝えるような内容になると良いと思う。

【菅原事務局責任者】 感情の部分になりますので、かなりハードルは高いと感じますが、検

討を重ねていきたいと思います。

【中野委員】示している図は丁寧過ぎると思う。もっと漠然としたもので良いと思う。

【横田委員】パワハラを資料を拝見したが、カスハラは予定しているのか。

【菅原事務局責任者】カスハラも取り入れる予定しています。様々なご意見ありがとうございます。ステップを何段階か踏んで導いていくという流れで作成していきます。言い回しなどを検討していきます。他にご意見がございましたら、お願いします。

【中野委員】法改正反映のところで、改正前と改正後の比較はあるのか。

【菅原事務局責任者】新旧として見開きで示すようにしていきたいと思っています。表につきましては、見せ方としてどのような形式が良いのかは、検討していきます。今年度は、前条文と規則を反映し、改正があったところを表で作成する予定です。

【中野委員】おそらく、健康食品のところが大幅に変わる予定になると思われるので、その部分は重要と思う。形になって出てくるのが遅いので反映のタイミングが難しいと思う。

【菅原事務局責任者】事前で通知するのか、結果を受けて通知するのかどちらかになると思う。先のことで分かっていれば事前に通知した方が良いとは思いますが、やってみないと分からないところでもあると思います。該当先の厚労省とのリンク先を貼って伝えるのも有りで、解説も必要になってくると考えています。

【中野委員】ステップアップで展開するのであれば、解説は必要になると思う。研修においても管理者側にとっては重要なところになる。

【菅原事務局責任者】事前情報の取得になるため、その部分をどのように取り組んでいくかということになります。別で動く感じになると思いますので、本事業期間においては難しいかもしれません、課題として考えていきます。

【中込委員】法規に関しては、ステップアップに使うものと登録販売者受験対策に使うものとは、別立てにする必要がある。

【菅原事務局責任者】今回の補助教材の取り組みでは、消化器系や神経系といった括りで進めていますので、本事業では登録販売者の受験対策に取り入れる想定はしていません。

【中込委員】法規の受講対象はどこになるのか。

【菅原事務局責任者】ステップアップ研修になるので、登録販売者有資格者対象です。

【中野委員】勉強している人は嫌がる部分でもある。言い回しなどの日本語が難しいので、覚えようとしなない。分かりやすいものがあると良い。

【高村委員】学生は文言が多すぎて見られなくなる。新旧でも一目でどこが変わったなど分かるようなものがあると助かる。

【中野委員】違反した場合についても、文章で示されているので、個別に分けてあると分かりやすくなる。

【菅原事務局責任者】結構な人員も必要になりますので、今後、できるかどうか分かりかねますが、検討していきたいと思います。横田委員にお伺いします。先日資料を送りいただいた件につきましてお話いただければと思います。

【横田委員】医薬品販売制度の検討の取りまとめを送りました。現時点ではこの制度部会の

< 会 議 録 >

たたき台をもとに法案を作成しているところ。試験には、現段階では出題されないの、ステップアップとしてこのような方向で検討されているという程度のものを入れてもよいのではと考えた次第のもの。管理者向けでは、法規は取り入れた方がよいと思う。

【菅原事務局責任者】法規につきましては、今後、検討を重ねていきたいと思います。ありがとうございます。等

(2) 実証実験に向けた意見交換が以下のように行われた

【菅原事務局責任者】実証実験につきましては、開発中のアプリが年内中に仕上げて、年明けにテストを始め、動作確認などを1月中旬に修正などを行うので、2月頃に実施したいと考えています。

【中野委員】内定者向けに2月頃に研修を行う予定なので、そこで使ってみたい。

【菅原事務局責任者】ありがとうございます。報告書の関係もございますので、可能であれば上旬～中旬あたりをお願いしたいと思います。

【中野委員】調整してみるが、おそらく中旬あたりになると思う。そこで何か行うことはあるのか。

【菅原事務局責任者】アンケートを作成していますのでお願いします。等

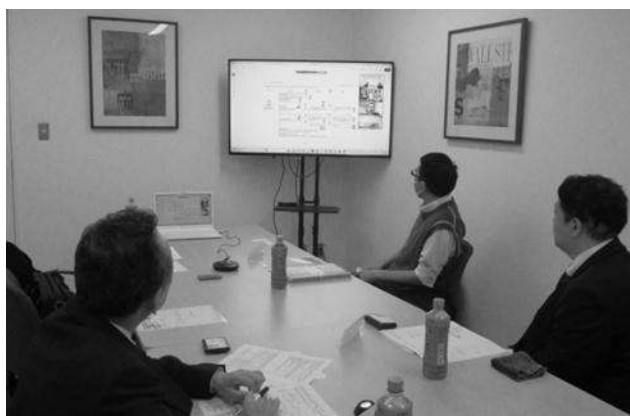
3. その他

【菅原事務局責任者】次回の会議は、すでに会議スケジュールは皆さまにお送りしていますが、実証実験WGで12月4日(水)15時～、会議開催をいたします。よろしくお願いいたします。など

4. 閉 会

【菅原事務局責任者】本日は、お忙しい中誠にありがとうございます。引き続き、よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和6年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」専門職業人材の最新技能アップデートプログラムの開発「一般用医薬品販売資格（登録販売者）に関するアップデートプログラム事業」
会議名	第2回実証実験WG会議
開催日時	令和6年12月4日（水） 15：00～17：00
場 所	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 会議室・オンラインホスト
出席者	委員： 会議室：菅原 武（事務局責任者）、山本恭之、中野陽介（ゴダイ株式会社）（計3名） オンライン：高村幸生、中込和哉、横田 敏、森田圭一朗（株式会社サッポロドラッグストアー）、荒木文明（計5名） （合計8名）
【 議 事 内 容 】 【 目 的 】 実証実験に向けて開発する補助教材アプリ内容について意見交換目的とした会議を開催した。 【 次 第 】 1_ 15：00 開 会 2_ 15：05 議 事 （1）アプリ開発進捗状況報告と意見交換 ・登録販売者資格取得者向け（初級者編） ・登録販売者有資格者向け（アップデート編） （2）実証実験について（内容とスケジュールなど）意見交換 3_ 16：50 その他（連絡事項・意見交換等） 4_ 17：00 閉 会 ＜配布資料＞ 【資料1】議事次第 【資料2】事業概要（PPTX） 【資料3】スケジュール 以下、次第に沿って会議が進められた 1. 開 会 【菅原事務局責任者】本日はお忙しい中ありがとうございます。会議開始時刻になりました	

ので、第二回実証実験WG会議を開催します。よろしくお願いいたします。

2. 議 事

【菅原事務局責任者】今アプリ制作をしています、その中で皆様にご意見を頂戴したいところがいくつかございますのでよろしくお願いいたします。それでは、既に皆様に資料は送りさしていただいていますので、その内容に沿って進めさせていただきたいと思います。ご説明が駆け足的になると思いますが、ご説明させていただいた後に、皆様のご意見をお聞きしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

3 ページのアプリの概要につきましては、こちらも何度も説明させていただいていますので、お目を通す程度にさせていただき、次に進めたいと思います。今回開発するにあたって登録販売者資格を目指す方それと既に持っている方々に対してどのような内容で、進めるかっていったところで、ご説明したいと思います。

4 ページに記載されていますように、初級編として登録販売者の資格を目指す方になりますが、動画と過去問、e-ラーニングの組み合わせになります。消化系、神経系、外用薬、薬の体を通る流れ方などイメージしづらいところを動画にし、その臓器なら臓器に対応するところを過去問から抜粋して一問一答のような○×形式で出題していくものと実際の試験形式で出題していくe-ラーニングという方向で制作しています。これらは、オンラインによるライブやオンデマンドでも学べるようにしていきたいと思っています。オンラインでライブ感なものは、予算の関係上、一度に入れるのが1,000人までとしています。これは色々なところから同時刻に入れる数です。15時から16時までの場合、その時刻に入れる人数となります。例えば、今回会議ご出席いただいています委員の企業様が同時刻に行われる場合、1,000人まででしたらオンライン上によるライブ発信でできる状況となります。

6 ページから8 ページになりますが、動画と一問一答のような○×形式の組み合わせに関しましては、資料に中枢神経のイメージ図を入れていますが、このようなタップするボタンがあり、過去問がランダムに出てくるようにします。間違った場合は、どこが違っているかを確認できるように解答は解説付きで表示します。資料に記載されている問題では、中枢神経に関する以下の記述の正誤について○か×で答えよ。問題文では、小児は、血液脳関門が未発達であるため、循環血液中に移行した医薬品の成分が脳の組織に達しにくいとありますが、これは間違いの×で正解は「達しやすい」。このような出題と解答形式で中枢神経であったり、胃であったりと作成中で、表示しています通り、23項目に細かく分けています。これらを動画と組み合わせて作成しているところです。過去問につきましては、23年度の胃に関しての出題は全部もう反映させるという形です。咽喉、食道ですと21年22年23年は出題されていなかったので21年を反映しています。問題が重複したり答えが重複したりするものは、最新年度をベースとして出題するようにしています。中身に関しては最新年度が反映されます。今年は12月まで試験がありますので、23年度を動画と連携して反映したのになります。9 ページは、皆様が何度も見ていらっしゃると思いますが、実際に過去に出題された形式をe-ラーニングで進めていくパターンになります。

10 ページからのステップアップの説明に入ります。11 ページに記載していますよう

に、法改正と医薬品医療機器と品質に関する条文規則で共通テキストの277から324ページを反映させるという形です。条文と規則を分けて作成します。改正の部分は、これからになりますが、見開き上で改正前と改正後が見られるような形で基本的にはPDFで考えています。修正等に関しましては、今年度そこまで時間等のか兼ね合いで取り敢えず体裁を整えた形のみになると思います。

次に12ページのハラスメント系ですが、先日のプログラム開発WGの会議の際にもっとボタンの部分の工夫の意見がございました、あなたの感情ということでどちらかを選び、比較的正解の場合は○、面倒くさい、怒っているなどの感情を出すと×で次の段階に進む、前回は3段階でしたが、他のパワハラ系のシチュエーションと統一感がなくなるので、2段階にしたいと思います。最後にゴールになりますが、○×ではなく笑顔かちょっと悲しい顔というようなハラスメントゲーム感覚みたいな形の流れで進めていこうと考えています。

次に13ページから32ページになりますが、OTC医薬品最新情報になりますが、セルフメディケーションデータベースセンターさんから情報を入手できるようになっています。メーカーごとの写真と成分表などの商品情報が取れます。皆様情報は取れると思いますが、ワンストップで情報提供できるようになればと思います。

【山本委員】e-ラーニングのところで、過去問に番号が振っていなかったのも、番号があると分かりやすいと思った。

【菅原事務局責任者】ランダム出題になりますので、問題に番号を振るのはできないです。

【中野委員】この動画を見ている時に例えばイメージですが、その下には練習問題○×式みたいな項目があってそれをクリックすると関連する問題が出てくる。それを自分で○×のどちらか選択し正解であれば○で、不正解の場合は解説付き解答が出てくる。次また練習問題をするという繰り返し問題が出てくるっていうような感じか。

【菅原事務局責任者】そうですね。基本的にはその通りです。

【中込委員】問題はどこかにプールしてあるのか。

【菅原事務局責任者】データベースでプールします。

【中込委員】データベースにある問題に全部番号を振ってはどうか。

【菅原事務局責任者】詳しくないので説明不足になって申し訳ございませんが、ランダム出題になりますので、そうすると例えばデータベース内の問題に1, 2, 3と番号を振った場合、出題されるときに1番の次に15番ということになると思われます。あくまでも一問一問の出題なので、全部の問題が一覧で出てくるのではございません。一問解いたらランダムに動画と関係する中から一問出てくる。それが繰り返し行われる感じです。

【山本委員】次の問題が出てくるときに見づらいかと思う。

【中野委員】実際の環境でどのようになるのかは、やってみないと分からないと思う。頭の中だけでは想像しづらいと思う。

【菅原事務局責任者】一度できた段階で皆様に触っていただいてご意見をいただいて改善できることは行い、実証実験に進みたいと思います。

【中野委員】e-ラーニングについては問題の番号は振ってあるということか。

【菅原事務局責任者】はい、その通りです。

【中野委員】気になったのが同時専任接続の点、例えば弊社で実施している最中に、同時に同じタイミングに他の企業が実施している場合、例えば、弊社が500人、他の企業が700人とかになるとそれができないということになるのか。

【菅原事務局責任者】オンラインの場合ですね。同時に今日の会議みたいにZoomで同じ時間帯で行うとそうなります。ただし、今のところは実証実験段階なので、そのような大規模にはならないと思います。

【中野委員】例えば、どこが今使っているのかが分かるようにしなければならないと思う。

【菅原事務局責任者】その通りです。使用中の情報は、私共の管理の方で予定表の申し込みフォームを作り、お知らせすることはできます。

【中野委員】それはお願いしたい。人数を超えてしまった場合、受けられない人がいるのは困る。

【山本委員】事前申し込み制にすると良いと思う。

【荒木委員】これはそのオンラインのこの動画の下部に問題が出てくるようなものなのか。

【菅原事務局責任者】今のところ位置は固定していません。進めながら分かりやすいところに置くことを考えています。実証実験で使い勝手のところも検証していきたいと思います。

【荒木委員】動画を見ながら勉強してその動画に関連する問題をそのまま解くことができるという感じで、それの中で繰り返し問題が出てくるということか。

【菅原事務局責任者】その通りです。動画の説明が流れ、実際に自分なりでもいいですけども、確認のためにテストやってみようかということです。

【荒木委員】あとで一覧とかできるのか。

【菅原事務局責任者】ここでは集計はしない予定です。

【荒木委員】不正解のところを覚えないといけない。不正解ところの記憶の定着がこれのできるのか疑問に感じた。

【荒木委員】やはり繰り返し出るような形になると凄く良くなると思う。

【菅原事務局責任者】ありがとうございます。今年度どこまでできるかはあります。ただプログラマ的には一応想定はしていますが、時間と費用との関係で今のところ手が付けられない状態です。動画と関連する問題ですが、厳密に分けられないところがあります。例えば、大腸がありますが、大腸と肛門が合わさって出題されていることがあります。関連して二つありますので、分類する際に、どのようにするかはこれからの議論にはなるとは思います。本来であれば、消化器官12個の部分で分けることができれば良いのですが、時間的な問題もございますので、今年度はこの形で進めさせていただいて、来年度皆様ご協力いただきながらしっかりと作り上げるような形でやっていきたいと思います。

【中込委員】e-ラーニングの問題選びだが、例えば、胃の問題をたくさんやりたいという人がいた場合、胃の問題だけを勉強できる仕組みになっているのか。

【菅原事務局責任者】e-ラーニングの場合は回数制限みたいなことはしたいと思います。例えば、1回から5回まで今月設定した時にその中で全てランダムになってそれをワンセット

っていった形を考えています。○×形式のように、この部分だったらこの部分だけっていう抽出は難しいと思います。同じランダムでもルール付けさせていただいてそれで学んでいくっていうパターンになります。e-ラーニングの出題は基本的には管理者の方がやっていただくことになります。管理者の方が、例えばカテゴリーの中で選ぶ際に、今日は胃の部分をやってほしいのであれば胃を選んでいただき、そこからランダムに出題されて解いていき、合否というか点数が出る形になります。管理者の方はどういう問題が出題されたか、どこを間違っているのかなど見られるようにしたいと思います。また、受講者一覧表をはじめ、出入りの時間帯何時何分があり、成績表が見られるようにもしていきたいと思います。

【中込委員】問題は管理者の方が送ることではないということか。

【菅原事務局責任者】管理者の方が今日胃のところをやらせたいと考えた際に、胃の問題を出題する命令をプログラムにしたら、プログラムがランダムに胃の中の問題を10問出題する。管理者の方が一問一問選ぶことはありません。

【中野委員】受講生が自発的にこの問題をやりたいからやるものではないということか。

【菅原事務局責任者】受講生が自宅でも自発的にやるのは、先程の一問一答形式の○×形式になります。一問一答形式の○×形式は受講生側が主体となるところで、e-ラーニングは管理者側が主体となるパターンです。

【中野委員】学習状況の把握や習得状況を個別で判別できるということなのか。

【菅原事務局責任者】そのような形になります。36.11

【森田委員】過去問からのe-ラーニングによる出題がランダムで出題される意図は何なのか。管理者の権限で出題されると言われていたが、管理者自身の権限で出題するのであれば、アットランダムではなく、事前にこの問題を出そうというように、選択式で行えばよいと思う、多分繰り返し受講生が行うにあたってアットランダムに色々な問題が出てくるメリットはあると思うが、ここでランダムに出題する必要性はあるのかは疑問に思う。

【菅原事務局責任者】ルールを決めて、固定した問題を出題していくということですよ。要は5年分の過去問の中で偏りがあるべくでないところで考えました。管理者の方の問題選びの部分が自動選択になれば労力が軽減できることが一番の狙いでランダム出題にした形です。一つ一つ問題を取捨選択する時間が軽減できればと考えた次第です。

【森田委員】このe-ラーニングはリアルタイムでのライブ配信のところとは全く違うという認識で良いのか。

【菅原事務局責任者】はい、リアルタイムではございません。期間を設けてやらせるという方向のものです。

【森田委員】企業側の担当者の方になるべく手間を取らせない方向の考え方か。

【菅原事務局責任者】はい、ご理解の通りです。勉強の進捗状況、課題をしっかりとしているのかといったことが見られるように、例えば、入った時間を出た時間だけでも一人一人の勉強に取り組む姿勢が分かるようにできればと考えています。そのことにより、今後の指導において、受講生の方の性格的な部分もちょっと把握できる可能性も出てくるのではと思っています。ただ、現在までお話ばかりでまだ扱える状況ではないところが、申し訳な

いところですよ。

【中野委員】一つ気になる点は、ランダム出題の場合、例えば、10問のうち同じ問題が重複して出題されるのか。毎年、似たような表現の問題と同じ答えが結構あるので、その頻度が多いと意味がない可能性があると思うがどうか。

【菅原事務局責任者】確かにそうですね。過去問題で重複しているところはあります。ただ、こちらの方で重複している問題は最新のものを反映し、過去の部分は全部削除しています。できる限り重ならないような形で反映させるように作業しています。

【中野委員】今回の事業は、勉強に掛かる時間の軽減の補助を目的としていると思う。そのやり方の一つとして自動で選べるように考えたと思うので、それはそれで良い方向とは思いますが、森田委員が発言されたように、これをやらせたいという形で問題も選べるようになると、なお良くなると思う。授業をきちんと聞いていたのかの判別ができると思う。

【菅原事務局責任者】そうですね。その点は課題として来年度検討していきたいと思います。例えば、ランダムか固定かが選べる2種類のボタンがあって、固定を選択した場合は、アップロードするところがあり、選んだ問題が反映されて出題されるというパターンが考えられます。

【中野委員】問題をチェックボックスで選べて、出題できるようにするのも有りと思う。

【菅原事務局責任者】数をどの程度に抑えるかもありますので、課題として検討していきます。

【高村委員】可能であれば、ランダムと管理者が選べる2択にできれば一番良いと思った。ランダムボタンと管理者が何本か選べるのがあれば、その日にあわせてできるようになると良くなると思いました。例えば胃に特化してやらせる形があると、どちらの意見も反映した感じになるかなと思った。ただし、それがシステム上可能かどうかはあると思う。他に確認したいところがある。このアプリのところの資料の最初の方で、受講者が自分で見られて進められるという理解で良いのか。

【菅原事務局責任者】はい、その通りです。授業の中でもこの画像や動画を見てねって言って先生方と学生でやるパターンもあります。

【高村委員】その時の○×問題は、その受講者の方が勝手に押せるシステムなのか。

【菅原事務局責任者】はい、その通りです。

【高村委員】講師の先生が話している間に○×問題をしたくなったらできるということか。

【菅原事務局責任者】はい、そのような感じになります。

【高村委員】受講者によっては講師の話聞かないで○×問題ばかりしてしまう、当校の学生はそのようなことはあると思う。

【菅原事務局責任者】多分学生さんはあると思います。待ちきれないと思います。

【高村委員】待ちきれなくてやると思うので、受講者が自分個人でやれるならいつでもできるようにしておいて、講義形式であれば○×問題はその講師の方がOKボタンを押すとできるようになると良いと感じた。

【菅原事務局責任者】ありがとうございます。皆様のご意見を取り入れてできる限り反映で

きるように進めていきたいと思います。次に、ステップアップ編になりますが、法改正の部分に関しましては、法律内容のチェックなど時間の関係上PDF等でお見せする形になることをご了承いただきたいと思います。ハラスメント系に関してですが、基本的には、パワハラとかですと、階層的にシチュエーションを設けることができます。その時の上司の感情に対するボタンがあり、その中のどれかを選び、選んだものに対して説明があり、最後に部下の感情といったストーリー性を持たせた流れを作ることができます。ただし、セクハラですと〇×しかない状況になります。執筆いただく社労士の方にも話をしましたが、これでよろしいかどうか皆様にご意見を伺いたいと思います。例えば、資料の部分でスカートが短いところでは、このような洋服を着たところ、こう言われたみたいなシチュエーションがあるとわかりやすいのですが、基本的にはこのような型を決めた感じのシチュエーションからの伝え方は今の時代はNGで、言われたらどう思うか、どのように感じてその時の感情が〇か×で作らないといけないといった見解です。

【中野委員】この中でセクハラじゃないと思うものを選びなさいみたいなものはできないのか。例えば、このキミスタイルいいね、男のくせに全然ご飯食べないなというのを5種類ほどあって、この中でセクハラではないと思うものを選びなさいというのはできるのか。

【菅原事務局責任者】そこができないらしいです。言われた受け手側の感情だけなので、例えばここで一番上の短いスカートは色っぽいねって言われても、この人であれば嫌な思いをしなくて冗談を言い返せる関係だからOKだけど、別の人から言われるといやらしいなそういう目で見やがってというように、受け手側が捉えてしまうところ。だからこのシチュエーションが凄く難しい。取り敢えず今回上司と部下のパターンで作ってはいますが、容姿外見、例えば、身体的な部分で言うのではなく、こういうこと言いたいけど言葉を言い換えましょうね。という感じに作ろうかと考えています。

【中込委員】言い換えの例があると良いと思う。

【菅原事務局責任者】そうですね。本当でしたら、階層的に〇×で進めるようにする方がやりやすいとは思いますが、どうしてもセクハラになると感情になってしまうので、〇か×しかないということになるらしい。

【中込委員】背が高くてスタイルがいいね。という例があるが、ここまでだったらセクラになるのならないのか。

【菅原事務局責任者】なる人はなります。それをどのように言い換えたらセクハラにならないで済むかということになります。例えば、〇〇さんはいつも生き生きしていいね、元気でいいね、といった身体的な部分ではなく行動的な部分で褒めるパターンにしてくださいね。というのが今回の持っていく方になります。男のくせにとか普通何気なく口に出すことがありますが、受け手の立場ではハラスメントになる、ここまで考える必要がある窮屈な社会であることを理解していただくということになります。5302

【中込委員】それが一問一答形式でこのような発言は〇×△みたにはできないのか。

【菅原事務局責任者】その点も相談しましたが、感情の問題で今の若い人は〇か×で△はないということでした。

【森田委員】この言い方に関して何が、セクハラに該当するのかというところを選択肢にするっていうボタンを作ることはできるのか。例の「背が高くてタイルがいいね」を使うとすると、このように言われたが、何がセクハラにあたる問題点なのでしょう。というのを選択肢にして例えば信頼的特徴に触れているやセクセクシャルみたいな感じに触れているというところで、その人がセクハラとして認識しているかどうか、何がセクハラに当たるのかを学べる正しく認識しているかどうかのチェックに使うような形ではどうか。

【菅原事務局責任者】身体的特徴という大きな枠の中のことを逆にするっていうパターンのご提案ということでよろしいでしょうか。

【中野委員】これはセクハラです。セクハラに当たるのはどの部分でしょう。それはなぜでしょう。という感じの提案になるみたいな。

【森田委員】そのような感じ。理由に関して選択させるなど。この題目のところにセクハラで身体的特徴を入れるのではなく、セクハラの部分があり、そのセクハラの考え方の部分で具体例があり、そのどこが引っ掛かっているのか。もしそれに言い換える方法あるのであれば、例として選択肢があってもいいと思うが、先程の説明の通り、言い換えたとしてもその内容が受け手側の感じ方によってはそれでもNGだっていうこともあるかもしれない。それが危ういものであればそこに関しては触れない。

【中野委員】とてもいいね。と言ってもそれが嫌だって思われたらセクハラになる。

【菅原事務局責任者】皮肉かって思われるかもしれないですね、皮肉で言われたという捉え方をされるとどうしようもないですね。パワハラだと比較的に分かりやすいですけどセクハラになると基本的には○×で△は難しいです。

【中野委員】先にセクハラに該当する項目を並べて、どこが、何がというものをチェックさせて気付かせるっていう感じはどうか。

【菅原事務局責任者】ありがとうございます。検討します。

【山本委員】文言だけではなく、その文言が出る前の環境、シチュエーションがどのような場面というところがあつた方が、良いとは思いますがどうか。

【菅原事務局責任者】そこは、否定ばかりになるのですが難しいです。環境がどうということではなく、この言葉自体で嫌になるらしいです。

【横田委員】パワハラについてはテレビなどで色々報道されていて結構色んな定義があるんだなと思い勉強になったが、セクハラについてはパワハラのようななんらかの法的な定義は全くないのか。

【菅原事務局責任者】嫌か嫌じゃないかぐらいしか分けられないらしいです。本当に誹謗中傷的なものは別問題になるのですが、セクハラになると感情の部分が大きくて、法的ルールはおそらく2025年何かしらある程度方向性が見出せるようなものが出てくるらしいのですが、それまではまだ分からない状況です。基本的には感情の部分になりますので難しいといった感じです。

【横田委員】最終的にはセクハラの場合は、個別事例ごとの判断になり、その人の存在そのものがセクハラになる感じだから、パワハラのような定義がないのでやむを得ない、難しい

ということか。

【菅原事務局責任者】セクハラのシチュエーションなどを固定して進めることは現時点では難しいです。

【中野委員】普通に可愛いねも受け手側が嫌な感じに捉えてしまうとNGになる。

【菅原事務局責任者】先程の森田委員の提案を参考にさせていただいて検討してみたいと思います。

【横田委員】全体的な部分で確認したいが、今回のアプリでの勉強の仕方、動画と過去問、e-ラーニングによる過去問題の出題で管理者の管理の下までの仕組みは理解できたが、ここでパワハラやセクハラといったものは、試験問題と全く違う次元のステージで始めるというイメージでいいのか。

【菅原事務局責任者】当初、初級編とステップアップ編といった二つの軸で取り組むお話をさせていただきました。初めの過去問は、登録販売者の資格を取得するための補助教材のパターンです。今議論させていただいているパワハラやセクハラは、ステップアップ的な部分で、指導する側をはじめ、会社・企業全体として取り組む問題で全く別物です。

【横田委員】理解した。

【菅原事務局責任者】あとハラスメントで、カスハラについてお伺いしたいと思います。例えば、今回、レジのシチュエーションの中で文章的には、「待っている、遅いと怒鳴る」がカスハラになる。ここの「怒鳴る」部分ですね。一応これはパワハラの上司と部下の対応のところの基本にもなると思いますが、教えていただきたいのですが、お店にとって出禁のお客様はいらっしゃいますか。

【中野委員】あります。個別の事例にはなるが、例えば、大きな声で威圧的に従業員に対して威嚇、攻撃的な態度をする方に、その姿勢は控えてほしいと申し入れをしても改善されないような方、その場合は警察に業務に支障が出ているといったことで相談するような形をお願いをしている。その上でも何度も同じようなことが繰り返される場合については、会社として、もうご対応することができませんという形で、来店された段階ですぐに警察に通報するような方法をとっています。

【菅原事務局責任者】今回のシチュエーションのレジで怒鳴るってありますが、例えば、正当な理由で怒鳴ること、割り込みがあっても店員が何も注意しないことで感情的なことに関しては大事にはならないということになりますか。店側が気付かない場合もありますのが。

【中野委員】怒鳴られるという行為自体もそのそれが毎回であるとか、一回怒鳴っただけでこの人はカスハラ認定っていう形にはならない。特に特に度を越している、物投げたりとかといった感じになると思う。

【山本委員】怒鳴るとか、その度を越すラインは状況によって違う。文章にした場合、それを怒鳴っているという判断はまちまちだと思う。店側としては、普段怒鳴らせないような環境作りをすることが大事だと思う。カスハラの問題が、起こらないようにすることの方が大事と思う。

【菅原事務局責任者】他にカスハラに関して、出禁になるようなルールはありますか。

【荒木委員】カスタマーハラスメントに対する対応方針っていうのが基本的に各社定められていると思います。基本怒鳴ることは対象で、その人が正当であるか正当でないかはあまり関係ない。

【菅原事務局責任者】正当な理由でも関係なく、単純に大声を出した行為の時点でダメになるということでしょうか。

【荒木委員】お客様から威嚇、大きな怒鳴り声を上げる、侮辱的な発言名誉毀損、人格否定、暴言行為、過剰な金銭補助の要求など色々なことがあるが、元々こういうことをしたら、我々としては、あの従業員の就業環境が害されると考えて、「以降のご来店ご利用お断りすることがあります」と形でもう掲げていますので、小売業のどこの会社も同じような形になっていると思う。カスハラに対する基本的な方針っていうのは、決めていますので、それに則って対応するだけっていう感じになる。ホームページで公開している。

【森田委員】正当な理由ではなくそういった恐怖を感じるような状況があった際にはまずは警察対応っていう部分で対応することはある。ただ、その基準に関しては店舗に告知物を客の見える位置に掲示しているし、ホームページ上にも掲載しているので、この基準から外れた上回った場合にはカスハラとして入店禁止などの対応は取り、カスタマーサービスの文章と客とでやり取りをして対応するルールにしている。

【中野委員】弊社ももちろんホームページに公開しています。

【菅原事務局責任者】ありがとうございます。難しいですね。文章にすると物足りなく感じはしますが、とりあえずはこれで進めさせていただきます。カスハラに△はありますか。この範囲であればといった基準みたいなものはありますか。

【森田委員】カスハラは○か×が基本パターンです。人によってということはない、恐怖を感じた時点で通常通りの営業ができないことになる、また、過度の要求のようなことに対してできないことは通常営業の妨げになるので△は考えられない。逸脱してしまった状況で客が怒っているなどのことに関しては、その上長がなだめに入って対応するワンクッションはあると思うが、それを△とするのかはジャッジの部分に入れないでまずは普通に第一段階として必ずあって、その後で○×しかないと思う。今あるシナリオの感覚でいけば良いと思う。

【菅原事務局責任者】ありがとうございます。この方向で進めていきたいと思います。次に薬の情報に関しての掲載についてですが、このように情報が出てきています。

【中野委員】この薬の情報についてだが、何をもって最新とするかになる。想像していたのは、例えば、医薬品のリスク区分が変更になりました。例えば、このボルタレンであれば、区分変更になっている形で想像していた。これは新商品全部出てくると思う。新商品全部掲載しても、あまり使い勝手は良くないと思うし、いつまで掲載するのか。となってしまうので、例えば、その大きく変わるとか成分が変更になったとか。そのような部分で表示する方が良いと思う。

【山本委員】添付文書の変更や薬学的見地からの変更と、法的なこと、今後のこと考えると税制のことで良いと思う。

【中野委員】パンシロンも確か新しく出たっていう情報も良いが、そうすると全部出てくる

と思う。パッケージリニューアルでも多分出てくると思う。おそらくウレパールローションなどパッケージでも、中を見ていないから判断できないが、パッケージが変わっただけのような気がする。それを見極めることが難しいってことか。

【菅原事務局責任者】その通りです。

【中野委員】何月何日から何月何日までのデータを一齐に取るような感じか。

【菅原事務局責任者】例えば、ここの救心が11月27日に更新しましたと。いうところは出ます。何を更新したかとなるとメーカーに問い合わせなければならない。

【山本委員】メーカーの販売戦略的なことはあんまり意味がないと思う、やはり成分の変更に関するものが良い。

【中野委員】登録販売者の資質向上を図る研修で、年に12時間で何回か勉強する中に確かこういう項目で、法規や医薬品のリスク部分の変更といった内容の授業はあると思うが、その資料と考えた方が良いと思う。それがステップアップ。

【中込委員】そうすると区分リストの変更は欠かせない。

【中野委員】ただその判断が難しいっていうこと。

【中込委員】PMDAに出ている。あと厚労省にホームページとか探ると出てくると思う。定期的に更新されていて何日付で第一類から第二類になったという情報は載っている。

【山本委員】一般用医薬品は比較的少なく、メーカーの営業販売戦略的なことになるため、ここで提供する情報とはちょっと違うと思う。裏の説明文章を見れば分かるから、そのための学習だから、それを出していただきたきりない。例えば、チェーンによっては同一のものをメーカーとは違うパッケージにして取り扱いされているものもある。よりオフィシャル的なものでないといけないと思う。

【中野委員】勝手な推測だが、今後例えば乱用の恐れのある医薬品成分の入ったものなどでリスク区分ではなく、文言が変わったりとか添付文書の件が変わったりとかっていうのがありそう。そういうところが変わっている、変わったという情報はほしいと思う。しかし、それ以外の今みたいなパッケージが変わったという情報は必要ない。

【山本委員】かえって紛らわしい。

【中野委員】登録販売者として知っておくステップアップしていくための教材であれば、商品を知っておくのもあるかもしれないが、よりそっちの方が重要度は高いと思う。

【山本委員】企業戦略に入るから教材には反映しない方が良い。添付文書の変更や法的なことが良いと思う。

【中野委員】多分実務としてそれを取捨選択することが難しいと思う、その辺は協力する。

【菅原事務局責任者】ありがとうございます。その辺りは相談させていただきます。この薬の部分は単純に最新情報を貼っていくイメージで考えていましたのでもう一回考えていきます。最後に実証実験についてですが、高村委員2月の3日から14日の期間内で、登録販売者資格取得部分でアプリを使ってという形ですが、期間的にいかがでしょうか。

【高村委員】おそらくその期間は企業説明会がたくさんやっている時間数はどれぐらいか。

【菅原事務局責任者】3時間ぐらいです。

< 会 議 録 >

【高村委員】 1日で終わる感じか。

【菅原事務局責任者】 1日というか半日ぐらいで終わる感じです。

【高村委員】 それであれば大丈夫だと思う。

【菅原事務局責任者】 ありがとうございます。中野委員はいかがでしょう。

【中野委員】 内定者向けの講義が18日にある、そこに合わせられると良かったが。

【菅原事務局責任者】 合わせましょうか。

【中野委員】 3時間、動画の部分、消化器などのところだね。

【菅原事務局責任者】 はい、学生とまた内定者とはまた違うとは思いますが。

【中野委員】 内定者向けには、90分など短い時間でしている。

【菅原事務局責任者】 それで充分です。

【中野委員】 内定者向けに別日1日を作るように検討する。

【菅原事務局責任者】 よろしくをお願いします。当校的にはどうでしょうか片山委員。

【片山委員】 あの時期的には、就職活動が始まる頃になるが、学生自体は当校している時期でもあるので大丈夫と思う。

【菅原事務局責任者】 ありがとうございます。まだまだ作り上げているところが中々お示しできなく大変申し訳ございませんが、1月の下旬までに大体出来る方向で進めています。その際には皆様にご連絡させていただいて動作の確認をしていただければと思います。開発の部分は続いていますので、ご意見がございましたら連絡ください。

e-ラーニングのイメージですが、このような感じのものです。コースや一覧で出てくるというイメージ名前と点数、利用状況、ログイン状況が管理者側で見られる。名前は登録しているけど全然やってないみたい、この人は1分で終わっているがこの人は80分とか見られるような形をCSVでダウンロードができるというざっくりとしたイメージですが、このような方向で進めています。

【森田委員】 アカウントの管理は、実証実験される企業各々でアカウントを作成して入る感じなのか。

【菅原事務局責任者】 基本的にアカウントの部分は企業の担当で管理することになります。例えば、森田委員の受講者数をご連絡いただいた際に、名前ごとに番号、アカウントを私どもの方で設定用意してご提供する形になります。一覧は、森田委員が所属する企業は森田委員の企業、別の企業は別の企業の一覧という形になります。企業ごとに振り分けられたアカウントで管理者が見られることになります。ただし、私どもは情報管理やエラーチェックなどがございますので、マスターとして全ての企業様の一覧が見られるようにします。

【森田委員】 了解した。等

3. その他

【菅原事務局責任者】 次回の会議は、お渡ししています会議スケジュール通りに、第1回課題分析WGで1月23日(木)15時～、会議開催をいたします。ご関係の委員の方々には、追って会議案内をお送りいたします。よろしくお願いいたします。等

< 会 議 録 >

4. 閉 会

【菅原事務局責任者】本日は、お忙しい中誠にありがとうございます。本日の会議はこれで終了とします。引き続き、よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



＜ 会 議 録 ＞

事業名	令和6年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」専門職業人材の最新技能アップデートプログラムの開発「一般用医薬品販売資格（登録販売者）に関するアップデートプログラム事業」
会議名	第1回課題分析WG会議
開催日時	令和7年1月23日（水） 15：00～17：00
場 所	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 会議室・オンラインホスト
出席者	委員： 会議室：菅原 武（事務局責任者）、中野陽介（ゴダイ株式会社） （計2名） オンライン：中込和哉（計1名） オブザーバー：近藤祐平（計1名） （合計4名）
【 議 事 内 容 】 【 目 的 】 実証実験に向けて開発する補助教材アプリの仕様についての確認と意見交換目的とした会議を開催した。 【 次 第 】 1_ 15：00 開 会 2_ 15：05 議 事 （1）アプリ開発進捗状況報告と意見交換 ・テスト版を触って見ての感想 （2）実証実験について ・内容とスケジュールなど 3_ 16：50 その他（連絡事項・意見交換等） 4_ 17：00 閉 会 ＜配布資料＞ 【資料1】 議事次第 【資料2】 登録販売者アプリ 補助教材テスト版（Web上） 以下、次第に沿って会議が進められた 1. 開 会 【菅原事務局責任者】 本日はお忙しい中ありがとうございます。会議開始時刻になりましたので、第一回課題分析WG会議を開催します。よろしくお願いいたします。本日は、オブザ	

ーバー参加になりますが、スギ薬局様からのご参加がございました。ご挨拶をお願いします。

【近藤オブザーバー】スギ薬局の近藤です。本日はよろしくお願いいたします。

2. 議 事

【菅原事務局責任者】本日は、アプリ動作についてご意見をいただきたいと思います。画面共有させていただきます。右側にアプリのログイン画面と、左側に仕様書を画面表示しています。仕様書が作成したばかりになりますが、この内容に沿ってアプリをどのように管理者管理者の方々が進めることができることを本日はご説明していきたいと思います。では、仕様書のご説明をさせていただきます。まず、IDとPASSとログイン、新規登録の画面です。こちらに送られてくるIDとPASSを入れて入るという画面です。管理者の方以外の受講者、社員や学生などは、URLから入ると新規登録で登録してからIDとPASSを受け取って入っていくことになります。管理者用のIDとPASSは、それぞれの会社・団体、学校などそれぞれ一団体一つ発行しますので、申し込みをいただいた際に、こちらからお送りいたします。受講生の方は、メールアドレス、名前、電話番号ご自分で新規登録していただき、パスワードはご自分で管理していただくための新規登録になります。管理者はこの情報が入っていて一覧で確認できるとお考え下さい。ログインボタンと押すと登録販売者取得者向けとステップアップにボタンがあって、どちらかを選んで進めていくことになります。今回、仕様書に沿ってご説明しますので、仕様書は会議終了後に皆様にメールでお送りしますので、よろしくお願いいたします。次に、管理者画面の説明をします。管理者の方はトップページの右下の方にボタンがございます。ここから入っていただきます。こちらの仕様書に記載されているように生徒の管理やe-ラーニングの出題管理問題などそれぞれ項目があります。ここがそれぞれの受講生一覧になります。例えば、テストで入っていただきますと、このように名前とメールアドレスはしっかりと入っているのが確認できますので、受講生の方が登録すると必ず管理者の方は一覧で見ることができる設定になっています。こちらのように月別のグラフや、問題の登録数が表示されています。現在の全ての問題が757問あることが分かります。今の受講者数も分かるようになっています。例えば、学生や社員100人でも10人でも勉強するように言っても登録している人がここでその数に満たなかった場合は、誰かが登録していないこともこの画面で把握できるようにしています。

【中野委員】基本的には個人が自分で入力しなければならないのか。

【菅原副本部長】そうです。こちら発信するパターンではありましたが、最終的には個人情報観点から自らということにしました。

【中野委員】例えば、よく最近社員から言われることが会社の業務というか会社の指示ですること個人を持ち物を使わせるのかという声がある。そのような場合には、例えば会社として店舗にタブレット等の端末があるため、それを使う。そのアドレスを変更することで、ログインを個人で区別できるというようになっているといいと思う。あと、登録を管理者が一括で登録できると手間が少なくなると思う。

【菅原副本部長】分かりましたそこは行いながら考えていければと思いますので、よろしくお願いいたします。取り敢えずこれで進めさせていただいて、使いついていただきながら課題を洗

い出し、改善していく。という形で来年度に向けて繰り返しやらせていただくことでお願いしたいと思います。

【中込委員】ひとつ質問だが、例えば、A社とB社の人を分けて管理することは当然ながらできるのか。

【菅原事務局責任者】A社とB社、あるいは支店ごと、店舗ごとみたいな感じでよろしいでしょうか。

【中込委員】その通り。それに学校ごと、管理者が自分の会社あるいは学校の学生しか見られないような理解で良いのか。

【菅原事務局責任者】その通りです。他社や他の学校は、見ることはできません。情報の管理という面においては、私共のシステム管理で見られることはありますが、例えば中込委員の生徒にこのアプリを使って教えている情報が、例えば、他の委員の方が見られるものではないです。あくまでも、管理者が所属している会社や学校のID・PASSで、その受講生が見られるということになります。

【中込理事長】それはIDで管理するのかそれとも全く別の小分けにするのか。

【菅原事務局責任者】基本的にはIDで管理することになります。私共の方では個人情報が入り漏れないようにしなければなりませんので、セキュリティチェックなどは番号管理含めて行います。次に入ります。ここから生徒情報になります。仕様書に各生徒の情報が一覧で見られ、管理できます。教師権限などございますので、こちらは実際に触りながら確認していただければと思います。次にe-ラーニングの出題と管理になります。新しく問題の追加ができます。今の757問以外にもオリジナルで作ることを可能としています。総問題数は番号とともに一覧では管理ができます。出題された年度も横に列記しています。また、アレンジしたい問題があればここで修正も可能です。自由に登録することもできます。1回あたり10問出題でそれを5回セッティングできます。問題の出題内容は自由に管理者の方でコントロールできる機能を付けています。

【中野委員】これは各企業共通なのか。この問題のデータベースは、各企業で独立しているのかそれと修正するとデータベースすべてが変更されてしまうのか。

【菅原事務局責任者】その点は確認します。

【中野委員】データベースすべてが変わってしまうと勝手に修正するといけない。

【菅原事務局責任者】おそらくデータベースのマスター部分に変更されないと思いますが、念のため、確認します。もし、そうでなければ修正するようにします。生徒へのランダム出題と修正の説明に入ります。こちらの方にいかせていただきます。生徒出題からです。ここにランダムですが、これは757問のうち、消化器系7割、神経系3割といった割合で出題されるように基本設計しています。どの問題が出題されるか分かりませんというのがこのランダムになります。あと、一度ランダムで選んだ問題を変更、もしくは固めて選択することができます。5セットできるようになりますので、繰り返し同じ問題をしたのであれば同じ番号を5セットして繰り返しができるようになっています。次に受講者側で見たいと思います。登録販売者資格取得向けとステップアップがございます。登録販売者資格取得向けを

クリックして入ると神経系、消化系、e-ラーニングのボタンが出てきます。消化器系では、中枢神経系、末梢神経などの動画が見られるようになっています。昨年のヒアリングで近藤様から要望がございました過去問と連動してほしいというお声を反映しました。過去問の問題1問に対して選択肢が5つほどありますが、それを一問一問分解して一問一答の○×形式にしました。自主学習のハードルを下げることを目的としてこの方式にしました。管理者は見えないようになっています。受講生自身が自主的に適当にしてその結果の評価として5問中3問正解などが表示されます。一つ動画に戻るとまた出題されます。これもランダム出題になっていますので同じ問題は出題されません。気軽に多く確認できる機能を設けています。この問題も過去5年分の過去問の中から出題されています。e-ラーニングに反映している問題を個別に分解して作成したものがここに反映される形になっています。見ている動画と連動して出題されます。これらの説明もこの仕様書に書かれています。それぞれ触っていただいてご確認いただければと思います。e-ラーニングラーニングの過去問はまだ確認をしているところですが、セッティング1回から5回の表示についてですが、受講生が進んでいると色がグレーになっていきます。受講生個別の進捗も一覧で見られるようになっています。ただし、この辺りはまだ改善する余地があると思いますので、現在段階といったところです。次に、ステップアップに入りますが、取り敢えず今のところあたりで入れているような感じです。OTC医薬品最新情報は必要ではないと会議の中で意見はございましたが、取り敢えずは入れてみて感想をいただければという目的で入れています。情報更新は、薬の成分など中身の変更だけではなく、パッケージが少し変わっただけでも毎日多く更新され、反映されていますので、ある程度絞らないと追いかけることが難しいため、11月までのものを入れています。写真とそれぞれの説明を入れています。改訂日などを一覧で入れています。あと医療費控除を入れています。委員の山本様に作成いただきました。年1回ぐらい更新なので、税制に関することも含めて軽く概要が分かる程度に整理したものを入れるようにしています。リスク区分と介護系は今年度の反映は難しく、もしかしますとなくす可能性もございます。来年度委員の皆様にご意見をいただきたいと考えています。あと法改正ですが、解説まで入れるには時間がないので、改正の新旧比較表と条文などを情報として掲載しています。ハラスメント系は会議の中であったパワハラ系とセクハラ系とカサハラ系を作成しています。ゲーム感覚の形でお示しできればと考えています。現段階では申し訳ございませんが項目だけです。今は並べているだけになりますが、中には変化するものや増やしていくものが出てくると思いますので、そこが課題になると思います。仕様書に関する説明はこれで終了となります。少し慣れてくると大丈夫と思いますが、もし使いながらご不明な点等ありましたらご連絡いただければと思います。今のところOTC医薬品最新情報をどこまでの期間掲載するといったことは、今後の課題になると思います。

【中込委員】今回の説明の中では質問は特には無いが、ただ、細かいところで問題と解説の辺りは見直した方が良くと思う。

【菅原事務局責任者】はい、その通りだと思います。今後の課題とします。

【近藤オブザーバー】二つほど確認したい。一つ目は、e-ラーニングの過去問題はおそらく

今後資格取得向けの方達に対して2月10日までにするようにといった感じで1回110問という設定があると思うが、この1回10問固定のところを企業や学校が自由に変えられれば、もっと使いやすくなるのではと感じた。

【中野委員】問題数を変更できればということ。

【近藤オブザーバー】その通り。二つ目は、セクハラ事例パワハラ事例っていうのは、何を想定してここに入れているのか確認したい。

【菅原事務局責任者】セクハラ事例パワハラ事例のところですが、単純にセクハラをする人やパワハラをする人は、意識していないことがほとんどと思います。この事例を書いていた社労士の方からもそのように聞いています。ですので、この事例でご説明しますと、例えば、一番上のこの忙しい時に部下から話をかけられたって言った時に対して、自分が忙しくても、聞き流すような冷たい感じで聞くのかそれともしっかり向き合って聞くかという姿勢一つで、部下の人達が捉える感情が違うと思います。なんか嫌だなんて思われる人やこの人は親切で頼りになるといったところにはなるとは思いますが、そういう行動一つ一つが今の時代は少し冷たく対応するとすぐパワハラだと結び付ける傾向にありますので、要は上司の方は、こういった行動に気を付けましょうといった今の時代背景に沿った対応の仕方の指針になればということで入れています。ただし、それが正解という訳ではなく、あくまでも、なりにくいというようなスタンスのもので、取り入れていこうと考えています。

【中野委員】おそらく、この質問は登録販売者資格取得を目指している資料になぜパワハラやセクハラが入っているのかを聞いていると思う。これは二つに分かれていて一つは資格取得者向けの資料で過去問がある。もう一つは登録販売者の資格を取られた方向けで、店舗を運営する側に立った時にステップアップするための教材で、分けて例えば医薬品の改定状況や法改正、店舗を運営していくスタッフとの応対を学んでもらう狙いでセクハラやパワハラが入っているといった説明の方ではないかと思う。

【近藤委員】店舗で未然に防ぐはハラスメントという位置づけで、未然に防ぐっていう意図でここに入れているのか。中身を見ると、起こった場合の対応みたいなのも入っているように感じたので、未然に防ぐのか起こってしまった後の対応方法っていうところでどう対応していくべきなのか指針みたいなのところが少し分かりにくいと感じた。

【菅原事務局責任者】社労士に聞いたが、そこの区分けが凄く難しいようです。こちらは補助教材という位置付けになりますので、パワハラ、セクハラなどある中で、パワハラの実義はある程度ははっきりしてきてはいますが、そこで未然に防ぐといった時のシチュエーションがそれぞれ違いますので、あくまでも、これを参考にしてこのようにしないように気を付けましょうという未然の方になると思います。

【近藤オブザーバー】あくまでも参考という形になると。

【菅原事務局責任者】そうですね、あくまでも参考という形で捉えていただければと思います。逆にこの事例を使っていただいて、もっと詳しくするとした時はおそらく会社ごとのオリジナルになると思いますので、こちらを参考に作っていただければと考えています。

【近藤オブザーバー】了解した。

< 会 議 録 >

【菅原事務局責任者】このアプリですが、今のところ1月27日にすべての実装テストが終わる予定です。Zoomも管理者からの発信でできるようになります。これによってオンラインで教えることが可能となります。近藤様にご説明してない部分がこちらのオンライン機能です。例えば本日の会議と同時刻15時から始めるとしますと、一度に入れる人数は1,000人までは入れるようになっています。これは、一社のみではなくこのアプリを使うすべての企業や学校含めた複数のところから入った人数になります。その利用者数などの見せ方、通知の仕方、申し込みなどはこれから検討していくことになります。使えそうにできているかお聞きしたいと思います。

【中込委員】システムとしてはとても良くできていると思う、あとは中身の問題。

【近藤オブザーバー】やはり動画で学習しながら過去問題が解けるところが非常に良い点ではある。使ってみたい気持ちはある。

【菅原事務局責任者】触っていただいて、改善点などのご意見をいただければと思います。何かご質問等ございましたら、メール等で構いませんのでご連絡ください。よろしくお願いいたします。等

3. その他

特になし

4. 閉 会

【菅原事務局責任者】本日は、お忙しい中誠にありがとうございます。本日の会議はこれで終了とします。引き続き、よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】



This image shows a full page of white paper with horizontal dashed lines, typical of primary school handwriting practice paper. The lines are evenly spaced and run across the entire width of the page. There are no margins, text, or other markings present.

本「成果報告書」は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、《学校法人摺河学園姫路ハーベスト医療福祉専門学校》が実施した令和6年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育（リ・スキリング）推進事業」の成果をとりまとめたものです。

令和6年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育（リ・スキリング）推進事業」専門職業人材の最新技能アップデートプログラムの開発

一般用医薬品販売資格（登録販売者）に関するアップデートプログラム事業 成果報告書

令和7年2月発行

発行所・連絡先

学校法人摺河学園 姫路ハーベスト医療福祉専門学校
〒670-0962 兵庫県姫路市南駅前町 91-6
TEL 079-286-5801 FAX 079-224-1779
<http://www.harvest-school.com>

本書の内容を無断で転記、転載することを禁じます。